預言者伝（スィーラ）全集

第5集

人柄とご家族

第31・32・32B巻



Hj Che Alim Hj Che Haron

AK (Kelantan)

quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY

この電子書籍はムスリムのための無料版です ― 販売はできません。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）全集

第 5 集

人柄とご家族

第 31・32・32B 巻：クルアーンと真正なハディースに基づく、アッラーの使徒 ﷺ のシャマーイルと信徒の母たち

وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ

「本当にあなたは、崇高な徳性を備えている。」

筆章 68:4

Hj Che Alim Hj Che Haron

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売はできません。

謝辞

私たち自身の中から一人の使徒を遣わされたアッラーに、すべての称賛あれ。その使徒は私たちの苦しみを心に痛め、私たちの幸福を強く願われた。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、そのご家族と教友たちに祝福と平安あれ。教友たちはかれの生涯を目撃し、それを守り、完全な誠実さをもって私たちに伝えてくれた。

この電子書籍を、愛する妻

Zaharah Mohd Latif、

愛する子どもたち

Muhammad Hafiz, Noor Hazwani, Abdul Hakim, Noor Hidayah, Nor Aqila と **Nor Atiqah**、

そして義理の息子・娘たち

Fazilah, Malek, Hanin, Fairizal と **Firwan** に捧げます。

本書は『預言者伝（スィーラ）』第 31 巻、第 32 巻、第 32B 巻を一冊にまとめたものである。アッラーの使徒 ﷺ のシャマーイル — その容姿、人柄、日々の暮らし — と、その妻たちである信徒の母たちを収める。各巻の参考文献はそのまま残している。本書が私たちをアッラーの使徒 ﷺ により近づけ、制作に協力し、読み、広めるすべての人にとって、絶えることのない施し（サダカ・ジャーリヤ）となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

本書の表紙について

本書の表紙には、人間も動物も描かれていない。描かれているのは、夕暮れどきの、土壁にナツメヤシの葉の屋根をのせた小さな部屋の並びである。戸口にともる小さな灯火、部屋の中からこぼれる温かな黄色の光、そして暮れてゆく空の下で周りに立つナツメヤシの木々。

これらの質素な部屋は、アッラーの使徒 ﷺ のモスクの傍らにあった妻たちの住まい、フジュラートを思い起こさせる。そこでは啓示が下り、信徒の母たちがその日々の暮らしを見守り、伝えた。灯火のやわらかな光は、その質素な家々から輝き出て、今日もなおウンマの道を照らし続けるかれの人柄とスンナを表している。

下部の紺色の帯は細い金の線に縁取られ、そこに著者名が記されている。この全集の五冊の表紙の題字は、同じ書体・大きさ・金色でそろえてあり、並べると一つのセットに見えるようになっている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

第一部：第 31 巻 — 見るがごとく

見るがごとく — はじめに

1. シャマーイルとは何か — ティルミズィー『シャマーイル』

2. 身長と体つき — 『ブハーリー』3547

3. 月のような顔 — 『ブハーリー』3549、3552；『ムスリム』2344

4. 肌の色、髪、白髪 — 『ブハーリー』3547、3558

5. 預言者の印章 — 『ブハーリー』3541；『ムスリム』2344

6. 柔らかな手と香しい体 — 『ブハーリー』3561

7. 歩き方 — 『ティルミズィー』3637、3648

8. 話し方 — 『ブハーリー』3567；『ティルミズィー』3639

9. 微笑みと笑い — 『ティルミズィー』3641；『ブハーリー』6092

10. 帳の奥の乙女よりも恥じらい深く — 『ブハーリー』3562

11. 使徒の衣服 — 『ティルミズィー』1762、994；『ブハーリー』3551

12. 指輪、履物、ターバン — 『ブハーリー』5872、5857；『ムスリム』1359

13. 香り — 『ブハーリー』2582

14. 「二つの黒いもの」：使徒の食事 — 『ブハーリー』6459

15. 食事の作法 — 『ブハーリー』3563、5376、5398

16. 使徒の好んだ食べ物 — 『ブハーリー』5431、5379

17. 使徒の眠り — 『ブハーリー』6311、6314；『ティルミズィー』2377

18. 夜の礼拝：「感謝するしもべ」 — 『ブハーリー』4837

19. ズィクルと赦しの祈り — 『ブハーリー』6307

20. 使徒の断食 — 『ブハーリー』1969

21. 家の中で — 『ブハーリー』676

22. 召使いとともに — 『ブハーリー』6038

23. 子どもたちとともに — 『ブハーリー』5997、6247

24. 風よりも気前よく — 『ブハーリー』6、6034

25. 使徒の勇気 — 『ブハーリー』2908

26. 易しい道を選び、赦す — 『ブハーリー』3560

27. 「その人柄はクルアーンであった」 — 『ムスリム』746；筆章 68:4

28. 優しさ — イムラーン家章 3:159；『ブハーリー』6024

29. 「わたしと現世に何の関わりがあろう」 — 『ティルミズィー』2377

30. 万有への慈悲 — 預言者章 21:107；悔悟章 9:128

31. 良き模範 — 部族連合章 33:21；洞窟章 18:110

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

32. 使徒を愛すること — イムラーン家章 3:31；『ブハーリー』15

33. 伝承者たちによる身体的特徴のまとめ — 表；『ブハーリー』3551、5907；『ムスリム』2330、2339

34. アッラーの使徒 ﷺ との一日 — 表；『ブハーリー』1146、5216；『ムスリム』670

35. 妻、子、孫とともに — 『ムスリム』2328、2435；『ティルミズィー』3895

36. 隣人、客人、非ムスリムとともに — 『ブハーリー』1312、1356、2916、4372

37. 確かめるべき有名な伝承 — 等級表；『ティルミズィー』3638、3648

38. シャマーイルに関するよくある質問 — 12 の質問

39. 教訓と結び — 表

第 31 巻の参考文献

第二部：第 32 巻 — 信徒の母たち 1

信徒の母たち — はじめに

1. 信徒の母たちとは誰か — 部族連合章 33:6

2. 栄誉と責任 — 部族連合章 33:32–33

3. アッラーの使徒 ﷺ の結婚の英知 — 女性章 4:3；スィーラ書

4. 使徒の結婚の年表 — 図

5. ハディージャ：クライシュの清らかな女性 — イブン・ヒシャーム；イブン・サアド

6. 祝福された結婚 — スィーラ書

7. 最初に信じた人 — 『サヒーフ・ブハーリー』3

8. アッラーからの挨拶 — 『サヒーフ・ブハーリー』3820

9. 財産と身を捧げて — スィーラ書

10. 色あせない愛 — 『サヒーフ・ブハーリー』3818、3821

11. 最良の女性 — 『サヒーフ・ブハーリー』3432

12. サウダ・ビント・ザムア：アビシニアへの移住者 — イブン・サアド

13. 預言者の家に寄り添って — 『サヒーフ・ムスリム』1463

14. 寛大な心 — 『サヒーフ・ブハーリー』5212

15. 思い出の中のサウダ — 『サヒーフ・ブハーリー』1680、4795

16. アーイシャ：スィッディークの娘 — 『サヒーフ・ブハーリー』3895

17. 愛に満ちた家庭 — 『サヒーフ・ブハーリー』5133、5228；『サヒーフ・ムスリム』300

18. 最も愛された人 — 『サヒーフ・ブハーリー』3662、3770

19. 中傷事件（イフク） — 『サヒーフ・ブハーリー』4750；御光章 24:11

20. ジブリールからの挨拶 — 『サヒーフ・ブハーリー』3768

21. アブー・バクル家の祝福 — 『サヒーフ・ブハーリー』334

22. ウンマの師 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』3883

23. ハフサ・ビント・ウマル — 『サヒーフ・ブハーリー』4005

24. クルアーンの写本の守り手 — 『サヒーフ・ブハーリー』4986

25. 崇拝に励む人 — スィーラ書

26. ザイナブ・ビント・フザイマ：貧しい者たちの母 — イブン・ヒシャーム；イブン・サアド

27. 預言者の妻たちの選択 — 『サヒーフ・ブハーリー』4785；部族連合章 33:28–29

28. 預言者 ﷺ の家庭の中の嫉妬 — 『サヒーフ・ブハーリー』5225、2581

29. 使徒の妻たちへの祝福の祈り — 『サヒーフ・ブハーリー』3369；部族連合章 33:56

30. 今日の家庭のための模範 — 部族連合章 33:21、33:35

31. 五人の信徒の母の一覧表 — 表；イブン・サアド；ザハビー

32. 預言者 ﷺ の妻たちに関するクルアーンの節 — 部族連合章 33:28–53；禁止章 66:1–5；『サヒーフ・ブハーリー』4912、4913

33. 彼女たちはスンナを伝えた — 表；『サヒーフ・ブハーリー』1288、4855；『サヒーフ・ムスリム』746

34. アッラーの使徒 ﷺ の結婚をめぐる疑問に答える — 部族連合章 33:50–52；『サヒーフ・ブハーリー』5133

35. 確かめるべき有名な伝承 — 評価の表

36. 信徒の母たちについてのよくある質問 — 12 の質問

37. 教訓と結び — 表

第 32 巻の参考文献

第三部：第 32B 巻 — 信徒の母たち 2

信徒の母たち — はじめに

1. 母たちの物語の続き — 部族連合章 33:34

2. ウンム・サラマ：最初に移住した家族 — イブン・ヒシャーム

3. 災難の時の祈り — 『サヒーフ・ムスリム』918；雌牛章 2:156

4. アッラーの使徒 ﷺ による求婚 — 『スナン・ナサーイー』3254

5. ディフヤの姿のジブリールを見る — 『サヒーフ・ブハーリー』3634

6. フダイビヤでの賢明な助言 — 『サヒーフ・ブハーリー』2731

7. 最後に亡くなった妻 — イブン・サアド

8. ザイナブ・ビント・ジャフシュ：いとこはアッラーの使徒 ﷺ その人 — 部族連合章 33:36

9. 養子の慣習の廃止 — 部族連合章 33:5、33:37、33:40

10. 「アッラーがわたしを結婚させた」 — 『サヒーフ・ブハーリー』7420

11. 披露宴と帳（ヒジャーブ）の節 — 『サヒーフ・ブハーリー』4791、4792；部族連合章 33:53

12. 「最も手の長い者」 — 『サヒーフ・ムスリム』2452

13. ジュワイリーヤ：ムスタリク族の首長の娘 — 『スナン・アビー・ダーウード』3931

14. 一つの部族を解放した結婚 — 『スナン・アビー・ダーウード』3931

15. より重い唱念（ズィクル） — 『サヒーフ・ムスリム』2726

16. ウンム・ハビーバ：異国の地で揺るがずに — スィーラ書

17. ナジャーシーによる婚姻契約 — 『スナン・アビー・ダーウード』2107

18. 父よりも優先される信仰 — スィーラ書

19. 三日間の服喪 — 『サヒーフ・ブハーリー』1280

20. サフィーヤ・ビント・フヤイ：祖先は預言者ハールーン عَلَيْهِ السَّلَامُ — スィーラ書

21. 解放され、妻とされる — 『サヒーフ・ブハーリー』5086、4211

22. 「あなたは預言者の娘である」 — 『ジャーミウ・ティルミズィー』3894

23. モスクにいる使徒を訪ねる — 『サヒーフ・ブハーリー』2035

24. マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス：最後の妻 — 『サヒーフ・ムスリム』1411；『サヒーフ・ブハーリー』1837

25. 清めの法学を教えた人 — 『サヒーフ・ブハーリー』249

26. サリフでの逝去 — スィーラ書

27. 注：マーリヤ・アル＝キブティーヤ — スィーラ書

28. 「目は涙を流し、心は悲しむ」 — 『サヒーフ・ブハーリー』1303、1043

29. 母たちが語り継いだアッラーの使徒 ﷺ の姿 — 部族連合章 33:53

30. さまざまな出自、一つの家 — 部屋章 49:13

31. 信徒の母たちに対するわたしたちの作法 — 『サヒーフ・ブハーリー』3673、3369

32. 六人の信徒の母の一覧表 — 表；イブン・サアド；ザハビー

33. これらの結婚に秘められた英知 — 表；部族連合章 33:37；『スナン・アビー・ダーウード』3931

34. 大所帯の家庭における公平 — 『サヒーフ・ブハーリー』5212、2593、5216、4450；女性章 4:129

35. 母たちが遺した知識 — 表；『サヒーフ・ムスリム』330；『サヒーフ・ブハーリー』3346

36. 確かめるべき有名な伝承（第 2 部） — 評価の表

37. よくある質問（第 2 部） — 12 の質問

38. 教訓と結び — 表

第 32B 巻の参考文献

支援と寄付

色の案内：緑の枠＝クルアーンの節、金色の枠＝ハディース、茶色の枠＝注（弱い伝承または補足説明）、青い表＝比較。青い下線付きの伝承者名をクリックすると、sunnah.com のその伝承者のページが開きます。

第一部

見るがごとく

預言者伝（スィーラ）— 第 31 巻

アッラーの使徒 ﷺ のシャマーイル：その容姿、人柄、日々の暮らしを、クルアーンと真正なハディースに基づいて

見るがごとく

第 1 巻から第 30 巻までは、**生涯の歩み**をたどってきた。アッラーの使徒 ﷺ の誕生から逝去までである。第 31 巻は異なる方法をとる。年代を追うのではなく、**使徒の人となりを知る**ことを目指す。使徒はどのような姿だったのか、どのように歩き、話したのか、何を食べ、何を着たのか、どのように眠り、礼拝したのか、そして家族、召使い、子ども、敵にどのように接したのか。

この学問は**シャマーイル**（使徒の特質と性格）と呼ばれる。わたしたちは使徒の肖像を持たず、イスラームは使徒を絵で描くことをしない。しかし教友たちは、きわめて精緻な**言葉による描写**を残した。それゆえ読む者は、**まるで目の前に見るかのように**使徒を知ることができる。

本書では**サヒーフ（真正）とハサン（良好）**のハディースを用いる。主に『サヒーフ・ブハーリー』、『サヒーフ・ムスリム』、『ジャーミウ・ティルミズィー』からである。よく知られていても伝承経路の弱い描写は、「スィーラの注」の枠に置く。



図 1：アッラーの使徒 ﷺ の一日。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は、主に三田了一訳『日亜対訳 注解 聖クルアーン』に拠る。各ハディースの等級はハディースの枠内に記している。本書におけるアッラーの使徒 ﷺ の身体的特徴は、使徒への敬意から、いかなる絵も用いず言葉のみで伝えている。

シャマーイルとは何か

この分野で最も有名な書は、『**シャマーイル・ムハンマディーヤ**』である。著者は**イマーム・アブー・イーサー・ティルミズィー**（ヒジュラ暦 279 年没）で、イマーム・ブハーリーの弟子である。彼は 50 以上の章に、アッラーの使徒 ﷺ の容姿、衣服、食事、礼拝、人柄に関する 400 を超える伝承を集めた。

なぜ使徒の特質を知る必要があるのか。第一に、**愛するには知ることが必要**だからである。知らない人を愛することはできない。第二に、アッラーは使徒を**良き模範**とされた（部族連合章 33:21）。使徒に従うためには、使徒がどのように生きたかを知らなければならない。第三に、使徒の人柄の完全さを知ることは、使徒がまさにアッラーの使徒であるという**信仰を強める**。

学者たちはまた、使徒の身体的特徴を知ることが**夢の中で使徒を見分ける**助けになると述べている。アッラーの使徒 ﷺ は言った：「夢の中でわたしを見た者は、確かにわたしを見たのである。悪魔はわたしの姿をまねることができないからである」（『サヒーフ・ブハーリー』110）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：12 / 211

身長と体つき

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、十年間アッラーの使徒 ﷺ に仕え、毎日使徒を見ていた。その彼が最も詳しい描写を残している：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3547 番

حَدَّثَنِي ابْنُ بُكَيْرٍ، قَالَ حَدَّثَنِي اللَّيْثُ، عَنْ خَالِدٍ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ أَبِي هِلاَلٍ، عَنْ رَبِيعَةَ بْنِ أَبِي عَبْدِ الرَّحْمَنِ، قَالَ سَمِعْتُ أَنَسَ بْنَ مَالِكٍ، يَصِفُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ كَانَ رَبْعَةً مِنَ الْقَوْمِ، لَيْسَ بِالطَّوِيلِ وَلاَ بِالْقَصِيرِ، أَزْهَرَ اللَّوْنِ لَيْسَ بِأَبْيَضَ أَمْهَقَ وَلاَ آدَمَ، لَيْسَ بِجَعْدٍ قَطَطٍ وَلاَ سَبْطٍ رَجِلٍ، أُنْزِلَ عَلَيْهِ وَهْوَ ابْنُ أَرْبَعِينَ، فَلَبِثَ بِمَكَّةَ عَشْرَ سِنِينَ يُنْزَلُ عَلَيْهِ وَبِالْمَدِينَةِ عَشْرَ سِنِينَ، وَلَيْسَ فِي رَأْسِهِ وَلِحْيَتِهِ عِشْرُونَ شَعَرَةً بَيْضَاءَ. قَالَ رَبِيعَةُ فَرَأَيْتُ شَعَرًا مِنْ شَعَرِهِ، فَإِذَا هُوَ أَحْمَرُ فَسَأَلْتُ فَقِيلَ احْمَرَّ مِنَ الطِّيبِ.

訳：

ラビーア・ブン・アビー・アブドゥッ＝ラフマーンによれば、彼は言った：わたしはアナス・ブン・マーリク رضى الله عنه が預言者 ﷺ をこう描写するのを聞いた：「**使徒は人々の中で中背であり、高くも低くもなかった。肌の色は明るく輝き、青白くもなく、浅黒くもなかった。髪は縮れすぎず、まっすぐすぎもしなかった。**使徒は四十歳のときに啓示を受け、啓示が下される中でマッカに十年、マディーナに十年過ごした。**頭と髭には、白い毛が二十本もなかった。**」ラビーアは言った：わたしは使徒の髪の毛を一本見たことがあるが、赤みを帯びていた。尋ねると、「香料のために赤くなったのです」と言われた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← ハーリド・ブン・ヤズィード ← サイード・ブン・アビー・ヒラール ← ラビーア・ブン・アビー・アブドゥッ＝ラフマーン（ラビーア・アッ＝ラアイ） ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』美徳の書、預言者 ﷺ の特徴の章、ハディース第 3547 番。第 3548、5900 番、およびムスリム第 2347 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3547

このハディースの教訓

アナスの描写の鍵となる言葉は「**中庸**」である。高すぎず低すぎず、白すぎず黒すぎず、髪は縮れすぎず直毛すぎない。まるでアッラーが、使徒の教えの土台である**均衡**を、その身体にも映し出されたかのようである。

スィーラの注：アリーによる有名な描写

アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه による長く有名な描写がある。それによれば、使徒は高すぎず低すぎず、顔はやや丸く、白に赤みがさしていた。目は濃い黒で睫毛は長く、肩幅は広かった。歩くときは、高い所から下りるかのようにしっかりと足を運んだ。アリーは言った：「わたしは使徒の前にも後にも、使徒のような人を見たことがない。」

この長い伝承（『ジャーミウ・ティルミズィー』3638）は、伝承経路が**ダイーフ（弱い）**と評価されている。しかしその内容の大部分は、『ジャーミウ・ティルミズィー』3637（ハサン・サヒーフ）など、他の真正・良好な伝承によって裏づけられている。

参照：

ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』；『ジャーミウ・ティルミズィー』3637、3638。https://sunnah.com/tirmidhi:3638

月のような顔

教友たちはしばしば、アッラーの使徒 ﷺ の顔を、自分たちの知る最も美しい言葉で描写した。アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضى الله عنه は言った：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3549 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ سَعِيدٍ أَبُو عَبْدِ اللَّهِ، حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مَنْصُورٍ، حَدَّثَنَا إِبْرَاهِيمُ بْنُ يُوسُفَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، قَالَ سَمِعْتُ الْبَرَاءَ، يَقُولُ كَانَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَحْسَنَ النَّاسِ وَجْهًا وَأَحْسَنَهُ خَلْقًا، لَيْسَ بِالطَّوِيلِ الْبَائِنِ وَلاَ بِالْقَصِيرِ.

訳：

アブー・イスハークによれば、彼は言った：わたしはアル＝バラー رضى الله عنه がこう言うのを聞いた：「**アッラーの使徒 ﷺ は、人々の中で最も顔が美しく、最も体つきの良い人であった。高すぎず、低くもなかった。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・サイード・アブー・アブディッラー ← イスハーク・ブン・マンスール ← イブラーヒーム・ブン・ユースフ ← その父ユースフ・ブン・イスハーク ← アブー・イスハーク・アッ＝サビーイー ← アル＝バラー・ブン・アーズィブ رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』美徳の書、預言者 ﷺ の特徴の章、ハディース第 3549 番。第 3551、3552 番、およびムスリム第 2337 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3549

このハディースの教訓

ある人がアル＝バラーに「使徒の顔は剣のよう（細長く輝く）でしたか」と尋ねると、彼は答えた：「**いいえ、月のようでした**」（『サヒーフ・ブハーリー』3552）。ジャービル・ブン・サムラ رضى الله عنه も言った：「**いいえ、太陽と月のようで、顔は丸みを帯びていました**」（『サヒーフ・ムスリム』2344）。

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った：「**わたしはアッラーの使徒 ﷺ より美しいものを見たことがない。まるで太陽がその顔の中をめぐっているかのようであった**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3648 — 伝承経路は弱いと評価されるが、意味は『サヒーフ・ムスリム』2344 によって裏づけられる）。使徒の顔はまた、**喜ぶと輝いた**。アーイシャ رضى الله عنها が伝えるとおりである：「その顔の筋が光り輝いていた」（『サヒーフ・ブハーリー』3555）。

しかし使徒は顔の美しさを誇らなかった。使徒はこう祈った：「アッラーよ、あなたがわたしの姿を美しくされたように、わたしの人柄も美しくしてください」（『ムスナド・アフマド』— アルバーニーは真正と評価）。使徒の教えによれば、真の美しさとは**心と人柄の美しさ**である。

肌の色、髪、白髪

アナスは使徒の肌の色を**アズハル・アッ＝ラウン**と描写した。青白くも黒くもない、光り輝く明るい色である（『サヒーフ・ブハーリー』3547）。使徒の髪は**緩やかに波打ち**、縮れても直毛でもなかった。アル＝バラーによれば、その髪は**耳たぶに届いていた**（『サヒーフ・ブハーリー』3551）。別の伝承では肩まで届いていたという。

使徒ははじめ、啓典の民のように髪を前に垂らしていたが、のちに**髪を真ん中で分ける**ようになった（『サヒーフ・ブハーリー』3558）。使徒は髪をよく手入れし、油をつけて櫛でとかし、こう言った：「髪のある者は、それを大切にしなさい」（『スナン・アビー・ダーウード』4163 — ハサン・サヒーフ）。

使徒は 63 歳で逝去したが、頭と髭の白髪は**ごくわずかで、20 本にも満たなかった**（『サヒーフ・ブハーリー』3547）。ジャービル・ブン・サムラによれば、使徒が髪に油をつけると、その白髪は見えなくなった（『サヒーフ・ムスリム』2344）。使徒はまた**豊かな髭**をたくわえていた。

ここから、**身だしなみを整えること**がスンナの一部であることがわかる。イスラームは禁欲の名のもとに乱れや不潔を教えない。アッラーの使徒 ﷺ は、常にこざっぱりとして清潔で、良い香りを漂わせていた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

預言者の印章

アッラーの使徒 ﷺ の両肩の間には、**ハータム・アン＝ヌブウワ**（預言者の印章）として知られる印があった。アッ＝サーイブ・ブン・ヤズィード رضي الله عنه によれば、幼い頃、病気になった彼をおばがアッラーの使徒 ﷺ のもとへ連れて行った。使徒は彼の頭をなでて祈り、それから小浄をした。アッ＝サーイブはその残り水を飲み、使徒の後ろに立って、**両肩の間にその印章を見た**（『サヒーフ・ブハーリー』3541）。

ジャービル・ブン・サムラ رضي الله عنه はこう描写した：「**わたしは使徒の肩のそばにその印章を見た。鳩の卵ほどの大きさで、色は体の色に似ていた**」（『サヒーフ・ムスリム』2344）。

この印章は、以前の啓典に記された**預言者性のしるし**の一つである。イマーム・アフマドが『ムスナド』に伝えるサルマーン・アル＝ファーリスィー رضي الله عنه の物語では、彼はイスラームに入る前に、両肩の間の印章を含むこれらのしるしを探し求めた。この印章はまた、使徒が**預言者たちの封印**であることを思い起こさせる（部族連合章 33:40）。

柔らかな手と香しい体

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、いつも使徒とともにいて、自ら感じた二つのことを描写した：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3561 番

حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادٌ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ مَا مَسِسْتُ حَرِيرًا وَلاَ دِيبَاجًا أَلْيَنَ مِنْ كَفِّ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم، وَلاَ شَمِمْتُ رِيحًا قَطُّ أَوْ عَرْفًا قَطُّ أَطْيَبَ مِنْ رِيحِ أَوْ عَرْفِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم.

訳：

アナス رضى الله عنه によれば、彼は言った：「**わたしは預言者 ﷺ の手のひらより柔らかい絹も錦も触れたことがない。また預言者 ﷺ の香りより芳しい匂いも香りも嗅いだことがない。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：スライマーン・ブン・ハルブ ← ハンマード・ブン・ザイド ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』美徳の書、預言者 ﷺ の特徴の章、ハディース第 3561 番。第 1973 番、およびムスリム第 2330 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3561

このハディースの教訓

ハンダクの塹壕を掘り、モスク建設のために石を運び、戦場で剣を握った指導者の手。それでもその手は**絹のように柔らかかった**。そしてその体はいつも**芳しかった**。身につけた香料のためだけでなく、体そのものの香りのためである。

教友たちによれば、**使徒の汗は真珠のようで**、麝香よりも芳しかった。ウンム・スライム رضى الله عنها は、使徒が自分の家で眠っているとき、その汗を集めて香料に混ぜたことがある（『サヒーフ・ムスリム』2331）。

使徒の手の柔らかさはまた、人々への**触れ方の優しさ**を象徴している。使徒は孤児の頭をなで、不安な教友の胸に手を当て、相手が先に手を離すまでしっかりと握手をした。

この柔らかな手は、また**働く手**でもあった。アル＝バラー رضى الله عنه によれば、ハンダクの塹壕を掘った日、アッラーの使徒 ﷺ は自ら土を運び、その腹の皮膚が土埃で覆われるほどであった（『サヒーフ・ブハーリー』2837）。使徒の優しさは、苦労を知らない者の優しさではなかった。

使徒はまた、出会ったときに握手することを勧め、こう言った：「**二人のムスリムが出会って握手すれば、別れる前に二人の罪は赦される**」（『スナン・アビー・ダーウード』5212；『ジャーミウ・ティルミズィー』2727 — ハサン）。親しみのこもった握手は、心を結びつけるスンナである。

歩き方

アリー・ブン・アビー・ターリブ رضي الله عنه は言った：「**使徒は歩くとき、まるで坂を下るかのように前かがみになった**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3637 — ハサン・サヒーフ）。これは、怠惰でも傲慢でもない、**しっかりとして力強く、目的のある**足取りを描いている。

アブー・フライラ رضي الله عنه も言った：「**わたしはアッラーの使徒 ﷺ より速く歩く人を見たことがない。まるで大地が使徒のために折りたたまれるかのようであった。わたしたちは懸命に追いかけたが、使徒は少しも苦にしていなかった**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3648 — 伝承経路は弱いと評価されるが、意味は上記のアリーの伝承によって裏づけられる）。

使徒の歩き方は、慈悲深き御方のしもべたちの特質を映している：「**慈悲深き御方のしもべたちは、謙虚に地上を歩く者**」（識別章 25:63） — 『イブン・カスィール注釈』25:63。

しっかりとしていながら傲慢でなく、速くても慌ただしくない——これこそ使徒が教えた**均衡**である。ムスリムは目的をもって歩き、体を揺らしたり見せびらかしたりはしない。

話し方

アーイシャ رضى الله عنها は言った：「**預言者 ﷺ は、数えようと思えば数えられるほどの言葉で話した**」（『サヒーフ・ブハーリー』3567）。彼女は、ハディースを早口で語る男をたしなめて言った：「アッラーの使徒 ﷺ は、あなたのように早口で話さなかった。」

別の伝承では彼女はこう言った：「**使徒ははっきりと明瞭に話したので、共に座る者はそれを暗記することができた**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3639 — サヒーフ）。アナス رضى الله عنه によれば、使徒は理解されるように**大切な言葉を三度繰り返した**（『サヒーフ・ブハーリー』95）。

使徒はまた**決して下品な言葉を口にしなかった**。アブドッラー・ブン・アムル رضى الله عنهما は言った：「預言者 ﷺ は、言葉の汚い人でも、わざと汚い言葉を使う人でもなかった。」そして使徒は言った：「**あなたがたの中で最も優れた者は、最も人柄の良い者である**」（『サヒーフ・ブハーリー』3559）。

使徒の話し方は、**効果的なコミュニケーションの手本**である。ゆっくりと明瞭で、大切なことは繰り返し、粗い言葉は一切ない。教師、親、指導者は、ここから多くを学ぶことができる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

微笑みと笑い

アブドッラー・ブン・アル＝ハーリス・ブン・ジャズウ رضى الله عنه は言った：「**わたしはアッラーの使徒 ﷺ ほどよく微笑む人を見たことがない**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3641 — ハサン）。使命という重い荷を負いながらも、使徒はいつも**にこやかな顔**で人々に接した。

しかし使徒の笑いは**控えめ**であった。アーイシャ رضى الله عنها は言った：「**わたしは預言者 ﷺ が、のどちんこが見えるほど大笑いするのを見たことがない。使徒はただ微笑むだけであった**」（『サヒーフ・ブハーリー』6092）。本当にうれしいときには、奥歯が見えるほど笑うこともあった。

使徒はまた、**微笑みは施しである**と教えた：「あなたの兄弟に向ける微笑みは施しである」（『ジャーミウ・ティルミズィー』1956 — ハサン）。ジャリール・ブン・アブドッラー رضى الله عنه は言った：「わたしがイスラームに入ってから、アッラーの使徒 ﷺ はわたしを見るたびに必ず微笑みかけてくれた」（『サヒーフ・ブハーリー』3035）。

使徒はまた**冗談を言った**が、その冗談に嘘が含まれることは決してなかった。ある老女が自分は天国に入れるかと尋ねると、使徒は冗談まじりに、老女は天国に入らないと答えた。その意味は、天国では若返らされるということであった（ティルミズィー『シャマーイル』— アルバーニーはハサンと評価）。使徒の冗談は**人を傷つけずに喜ばせた**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

帳の奥の乙女よりも恥じらい深く

アッラーの使徒 ﷺ の最も際立った特質の一つは、**恥じらい（ハヤー）**である。アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه はこう描写した：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3562 番

حَدَّثَنَا مُسَدَّدٌ، حَدَّثَنَا يَحْيَى، عَنْ شُعْبَةَ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أَبِي عُتْبَةَ، عَنْ أَبِي سَعِيدٍ الْخُدْرِيِّ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَشَدَّ حَيَاءً مِنَ الْعَذْرَاءِ فِي خِدْرِهَا.

訳：

アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه によれば、彼は言った：「**預言者 ﷺ は、帳の奥にいる乙女よりも恥じらい深かった。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムサッダド・ブン・ムサルハド ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝カッターン ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージ ← カターダ・ブン・ディアーマ ← アブドゥッラー・ブン・アビー・ウトバ ← アブー・サイード・アル＝フドリー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』美徳の書、預言者 ﷺ の特徴の章、ハディース第 3562 番。第 6102 番、およびムスリム第 2320 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3562

このハディースの教訓

当時の帳の奥の乙女は、とても恥ずかしがりで、めったに外に出ず、見知らぬ人と話すこともまれであった。アッラーの使徒 ﷺ は**それ以上に恥じらい深かった。**同じ伝承で、アブー・サイードはこう付け加えている：「**使徒が何かを好まないとき、わたしたちはその顔からそれを知ることができた**」（『サヒーフ・ブハーリー』6102）——使徒は人前で厳しくとがめることはしなかった。

この恥じらいは、アッラーの権利が侵されるときに**真実をはっきりと語る**ことを妨げなかった。使徒の恥じらいは高貴な恥じらいである。人を傷つけることを恥じ、人に恥をかかせることを恥じ、アッラーに対して恥じる。使徒は言った：「**恥じらいは信仰の一部である**」（『サヒーフ・ブハーリー』24）。

誰かの誤りをたしなめる必要があるとき、使徒はしばしば名前を挙げずにこう言った：「**なぜある人々はこのようなことをするのか**」。これこそ、他人の名誉を守るたしなめ方の作法である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：25 / 211

使徒の衣服

ウンム・サラマ رضى الله عنها は言った：「**アッラーの使徒 ﷺ が最も好んだ衣服はカミース（長いシャツ）であった**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』1762 — ハサン）。カミースとは、体をしっかり覆い、着やすい丈の長い服である。

使徒はまた**白い衣服**を勧めた：「白い衣服を着なさい。それはあなたがたの最良の衣服の一つである。そして死者を白い布で包みなさい」（『ジャーミウ・ティルミズィー』994 — ハサン）。しかし使徒はほかの色も着た。アル＝バラー رضى الله عنه は、使徒が**赤い外衣**を着ているのを見て言った：「わたしは使徒より美しいものを見たことがない」（『サヒーフ・ブハーリー』3551）。

使徒の衣服は**質素で清潔**であった。贅沢でもなく、ぼろでもなかった。使徒は男性が絹と金を身につけることを禁じ、傲慢から衣服を引きずることを禁じた。また新しい服を着るときには、アッラーへの感謝のしるしとして祈りの言葉を唱えることを教えた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

指輪、履物、ターバン

アッラーの使徒 ﷺ が諸王に書簡を送ろうとしたとき（第 17 巻）、彼らは印のない書簡を受け取らないと告げられた。そこで使徒は**銀の指輪**を作り、**「ムハンマド・ラスールッラー（アッラーの使徒ムハンマド）」**と刻ませた。アナスは言った：「わたしは今でも、使徒の指に光るその指輪の輝きが見えるようだ」（『サヒーフ・ブハーリー』5872）。

その指輪は、石の部分も含めて**すべて銀でできていた**（『サヒーフ・ブハーリー』5870）。使徒は金の指輪をはめず、男性がそれをはめることを禁じた。学者たちによれば、刻印はアッラーの御名への礼儀として三行に並べられていた。上に「アッラー」、中に「使徒」、下に「ムハンマド」である。

使徒の履物は**二本の鼻緒のついたサンダル**であった（『サヒーフ・ブハーリー』5857）。マッカ征服の日、使徒は頭に**黒いターバン**を巻いて説教をした（『サヒーフ・ムスリム』1359）。これらはすべて、使徒が当時の普通のアラブ人のように、**贅沢も傲慢もなく**装っていたことを示している。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

香り

アッラーの使徒 ﷺ は**香り**をとても好んだ。アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は言った：「**預言者 ﷺ は、香料の贈り物を決して断らなかった**」（『サヒーフ・ブハーリー』2582）。使徒は最上の香料を用い、アーイシャは使徒の髪の分け目に麝香が光るのを見たことがある。

教友たちは、使徒が残していった**芳しい香り**によって、使徒の通った道を知ることができた。ジャービル・ブン・サムラ رضي الله عنه によれば、幼い頃、使徒が彼の頬をなでてくれた。その手は冷たく芳しく、まるで香料の容器から取り出したばかりのようであった（『サヒーフ・ムスリム』2329）。

とくにモスクへ行くときや金曜礼拝のときに香りをつけることは、**スンナ**である。それは他人への敬意であり、集まりをより心地よいものにする。ただし女性については、外出時に非親族の男性に香りが届くような香料をつけることを使徒は禁じた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

「二つの黒いもの」：使徒の食事

アラビア半島全体の指導者は、どのような食事をしていたのだろうか。アーイシャ رضى الله عنها は驚くべき答えを伝えている：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 6459 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ الأُوَيْسِيُّ، حَدَّثَنِي ابْنُ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ رُومَانَ، عَنْ عُرْوَةَ، عَنْ عَائِشَةَ، أَنَّهَا قَالَتْ لِعُرْوَةَ ابْنَ أُخْتِي إِنْ كُنَّا لَنَنْظُرُ إِلَى الْهِلاَلِ ثَلاَثَةَ أَهِلَّةٍ فِي شَهْرَيْنِ، وَمَا أُوقِدَتْ فِي أَبْيَاتِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم نَارٌ. فَقُلْتُ مَا كَانَ يُعِيشُكُمْ قَالَتِ الأَسْوَدَانِ التَّمْرُ وَالْمَاءُ إِلاَّ أَنَّهُ قَدْ كَانَ لِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم جِيرَانٌ مِنَ الأَنْصَارِ كَانَ لَهُمْ مَنَائِحُ، وَكَانُوا يَمْنَحُونَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنْ أَبْيَاتِهِمْ، فَيَسْقِينَاهُ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها によれば、彼女はウルワにこう言った：「甥よ、**わたしたちは新月を見、また新月を見、また新月を見た——二か月の間に三つの新月である——が、その間アッラーの使徒 ﷺ の家々では火が灯されなかった。**」わたしは尋ねた：「では何で命をつないでいたのですか。」彼女は答えた：「**二つの黒いもの、ナツメヤシの実と水です。**ただ、アッラーの使徒 ﷺ には乳用のラクダを持つアンサールの隣人たちがいて、彼らは家からアッラーの使徒 ﷺ に乳を贈ってくれました。使徒はそれをわたしたちに飲ませてくれたのです。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドル・アズィーズ・ブン・アブドッラー・アル＝ウワイスィー ← アブドル・アズィーズ・ブン・アビー・ハーズィム ← その父アブー・ハーズィム・サラマ・ブン・ディーナール ← ヤズィード・ブン・ルーマーン ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← 信徒の母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』心を和らげる書、預言者 ﷺ と教友たちの暮らしぶりの章、ハディース第 6459 番。第 2567 番、およびムスリム第 2972 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:6459

このハディースの教訓

二か月の間、台所に火が灯らなかった——焼いたパンも、煮た肉もなく、ただナツメヤシの実と水だけ。それは使徒に力がなかったからではない。莫大な戦利品やザカートが使徒の手を通ったが、そのすべてが貧しい人々、教友たち、ウンマのために分配されたのである。

アーイシャはまた言った：「**ムハンマド ﷺ の家族は、マディーナに来てから使徒が亡くなるまで、三日続けて小麦のパンで満腹したことはなかった**」（『サヒーフ・ブハーリー』5416）。それでも使徒は決して不平を言わなかった。また、**アンサールの隣人たち**が使徒の家と乳を分かち合った様子にも注目したい。互いに助け合う社会である。

わたしたちへの教訓：食事の節度はスンナであるだけでなく、**健康にも良い**。使徒は言った：「人の子が満たす器の中で、腹ほど悪いものはない……三分の一を食べ物に、三分の一を飲み物に、三分の一を息のために」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2380 — サヒーフ）。

食事の作法

アッラーの使徒 ﷺ には、とても美しい食事の作法があった。第一に、使徒は**決して食べ物をけなさなかった**：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3563 番

حَدَّثَنِي عَلِيُّ بْنُ الْجَعْدِ، أَخْبَرَنَا شُعْبَةُ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ مَا عَابَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم طَعَامًا قَطُّ، إِنِ اشْتَهَاهُ أَكَلَهُ، وَإِلاَّ تَرَكَهُ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、彼は言った：「**預言者 ﷺ は、決して食べ物をけなさなかった。気に入れば食べ、気に入らなければそのままにした。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アル＝ジャアド ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージ ← スライマーン・アル＝アアマシュ ← アブー・ハーズィム・アル＝アシュジャイー ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』美徳の書、預言者 ﷺ の特徴の章、ハディース第 3563 番。第 5409 番、およびムスリム第 2064 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3563

このハディースの教訓

使徒の継子ウマル・ブン・アビー・サラマ رضى الله عنهما によれば、幼い頃、彼の手は皿の中をあちこち動き回っていた。使徒は優しくたしなめた：「**坊や、アッラーの御名を唱え、右手で食べ、自分の近くのものを食べなさい**」（『サヒーフ・ブハーリー』5376）。ウマルは言った：「それ以来、わたしはそのように食べている。」

使徒はまた言った：「**わたしは寄りかかって食べることはしない**」（『サヒーフ・ブハーリー』5398）——謙遜のしるしである。使徒は三本の指で食べ、食後には指を

なめ、食べ終えるとアッラーを讃えた。使徒はまた**大勢で一緒に食べること**を好んだ。共に食べることに祝福があるからである。

これらの作法は実践しやすいが、その効果は大きい：**感謝すること、糧を尊ぶこと、料理した人の心を大切にすること**である。食べ物をけなせば、苦労して用意した妻や母や主人の心を傷つけかねない。

使徒はまた**食べ物を分かち合うこと**を教えた。使徒は言った：「**二人分の食べ物は三人に足り、三人分の食べ物は四人に足りる**」（『サヒーフ・ブハーリー』5392）。食べ物の祝福はその量にあるのではなく、**共にいることと感謝**にある。

わたしたちの社会でも、忙しさや電子機器のせいで、家族が一つの食卓を囲むことは少なくなっている。「ビスミッラー」で始め、右手で、自分に近いところから食べる——共に食べるというスンナをよみがえらせることは、家族の絆を深める簡単な方法である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：32 / 211

使徒の好んだ食べ物

アーイシャ رضى الله عنها は言った：「**アッラーの使徒 ﷺ は甘いものと蜂蜜を好んだ**」（『サヒーフ・ブハーリー』5431）。アナス رضى الله عنه は、ある仕立て屋に食事に招かれたとき、使徒が**皿の中のひょうたんを探して**食べるのを見た。そして言った：「その日から、わたしはひょうたんが好きになった」（『サヒーフ・ブハーリー』5379）。

使徒はまた**乳**、**ナツメヤシの実**、**酢**を好んだ——使徒は言った：「最良のおかずは酢である」（『サヒーフ・ムスリム』2051）——そして**前脚の肉**も好んだ。使徒は断食明けに生のナツメヤシの実、なければ乾燥したナツメヤシの実、それもなければ水で断食を解いた。

アナスの姿勢に注目したい：**アッラーの使徒 ﷺ への愛ゆえに、使徒の好むものを好きになった**のである。たとえそれがひょうたんにすぎなくとも。これこそ真の愛である——言葉だけでなく、小さなことにおいても愛する人に似たいと願う心である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

使徒の眠り

アッラーの使徒 ﷺ は、**イシャー（夜）の礼拝の前に眠ることと、その後に雑談することを好まなかった**（『サヒーフ・ブハーリー』568）。夜の礼拝のために起きられるよう、早く床に就いた。眠るときには手を頬の下に置き、こう祈った：「**ビスミカ・アッラーフンマ・アムートゥ・ワ・アフヤー**」——「アッラーよ、あなたの御名において、わたしは死に、生きる」（『サヒーフ・ブハーリー』6314）。

使徒はまた教友たちに、眠る前に小浄をし、**右側を下にして横になり**、自らをアッラーに委ねる祈りを唱えるよう教えた：「アッラーよ、わたしは自らをあなたに委ねます……」（『サヒーフ・ブハーリー』6311）。目覚めると、使徒はこう言った：「わたしたちを死なせた後に生かしてくださったアッラーに讃えあれ。かれのもとに復活するのである」（『サヒーフ・ブハーリー』6314）。

使徒の寝床もまた**とても質素**であった。アブドッラー・ブン・マスウード رضي الله عنه によれば、使徒はむしろの上で眠り、**脇腹にその跡が残る**ほどであった。教友たちが敷布団を用意しようと申し出ると、使徒は言った：「**わたしと現世に何の関わりがあろう**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2377 — ハサン）。このハディースには第 29 章で再び触れる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

夜の礼拝：「感謝するしもべ」

夜、人々が眠っているとき、アッラーの使徒 ﷺ は起きて主に語りかけた。アーイシャ رضى الله عنها はこう伝えている：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4837 番

حَدَّثَنَا الْحَسَنُ بْنُ عَبْدِ الْعَزِيزِ، حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يَحْيَى، أَخْبَرَنَا حَيْوَةُ، عَنْ أَبِي الأَسْوَدِ، سَمِعَ عُرْوَةَ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ أَنَّ نَبِيَّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم كَانَ يَقُومُ مِنَ اللَّيْلِ حَتَّى تَتَفَطَّرَ قَدَمَاهُ فَقَالَتْ عَائِشَةُ لِمَ تَصْنَعُ هَذَا يَا رَسُولَ اللَّهِ وَقَدْ غَفَرَ اللَّهُ لَكَ مَا تَقَدَّمَ مِنْ ذَنْبِكَ وَمَا تَأَخَّرَ قَالَ أَفَلاَ أُحِبُّ أَنْ أَكُونَ عَبْدًا شَكُورًا. فَلَمَّا كَثُرَ لَحْمُهُ صَلَّى جَالِسًا فَإِذَا أَرَادَ أَنْ يَرْكَعَ قَامَ، فَقَرَأَ ثُمَّ رَكَعَ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها によれば、預言者 ﷺ は**両足が裂ける（腫れる）ほど夜に立って礼拝した**。アーイシャは尋ねた：「アッラーの使徒よ、アッラーはあなたの過去と未来の罪を赦されたのに、なぜこのようになさるのですか。」使徒は答えた：「**わたしは感謝するしもべでありたいと思わないだろうか**」。晩年、体が重くなると、使徒は座って礼拝し、ルクーウ（立礼）しようとするときには立ち上がって読誦し、それから立礼した。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アル＝ハサン・ブン・アブドル・アズィーズ ← アブドッラー・ブン・ヤフヤー ← ハイワ・ブン・シュライフ ← アブー・アル＝アスワド・ムハンマド・ブン・アブドッ＝ラフマーン ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← 信徒の母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』啓典解釈の書、勝利章、ハディース第 4837 番。第 1130、4836 番、およびムスリム第 2820 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4837

このハディースの教訓

アーイシャの問いはもっともである。すべての罪が赦されているなら、なぜ苦労するのか。使徒の答えは、崇拝についてのわたしたちの理解を変える：**崇拝とは罪を償うためだけのものではなく、感謝を表すものである**。受けた恵みが多いほど、表すべき感謝も多くなる。

使徒の夜の礼拝は**長かった**。一回のラクア（礼拝の単位）で、雌牛章、婦人章、イムラーン家章を読誦したこともある（『サヒーフ・ムスリム』772）。しかし晩年に体が重くなると、使徒は座って礼拝した。崇拝は能力に合わせて行うものであり、**決してやめてしまうものではない**ことを示している。

忙しく疲れているわたしたちへの使徒の教えはこうである：**アッラーに最も愛される行いは、たとえわずかでも続けられるものである**（『サヒーフ・ブハーリー』6464）。眠る前やファジュル（夜明け）の前の二ラクアを続けて行うことは、ときおりの長い礼拝にまさる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：36 / 211

ズィクルと赦しの祈り

アッラーの使徒 ﷺ は、**常にアッラーを念じていた**。起きるとき、眠るとき、家に出入りするとき、食べるとき、服を着るとき、乗り物に乗るとき、旅をするとき。アーイシャは言った：「預言者 ﷺ は、あらゆる状態においてアッラーを念じていた」（『サヒーフ・ムスリム』373）。

使徒は罪から守られていたにもかかわらず、**一日に七十回以上赦しを請うた**。使徒は言った：「**アッラーにかけて、わたしは一日に七十回以上、アッラーに赦しを請い、悔い改めている**」（『サヒーフ・ブハーリー』6307）。

最も高貴な人がこれほど赦しを請うたのなら、過ちに満ちたわたしたちはなおさらである。赦しを請うことは大罪のためだけのものではない。それは心を清め、糧の扉を開き、アッラーに近づける**生き方**である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使徒の断食

アーイシャ رضى الله عنها は言った：「**アッラーの使徒 ﷺ は、もう断食をやめないのではないかとわたしたちが思うほど断食を続け、もう断食しないのではないかと思うほど断食をしなかった。ラマダーン以外に丸一か月断食するのを見たことはなく、シャアバーン月ほど多く断食した月を見たことはない**」（『サヒーフ・ブハーリー』1969）。

使徒はまた、行いがアッラーのもとに上げられる日である**月曜日と木曜日**に断食し、さらに**毎月三日間**断食した。月曜日について使徒は言った：「それはわたしが生まれた日であり、わたしが遣わされた日である」（『サヒーフ・ムスリム』1162）。

しかし使徒は**行き過ぎを禁じた**。ある教友たちが休みなく毎日断食しようとしたとき、使徒はそれを止め、こう言った。自分は断食もすれば断食しない日もあり、夜に礼拝もすれば眠りもし、結婚もしている。わたしのスンナを嫌う者は、わたしの仲間ではない（『サヒーフ・ブハーリー』5063）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

家の中で

アッラーの使徒 ﷺ は家の中でどのように過ごしていたのか。アル＝アスワドはアーイシャ رضي الله عنها に尋ねた：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 676 番

حَدَّثَنَا آدَمُ، قَالَ حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، قَالَ حَدَّثَنَا الْحَكَمُ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ، عَنِ الأَسْوَدِ، قَالَ سَأَلْتُ عَائِشَةَ مَا كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَصْنَعُ فِي بَيْتِهِ قَالَتْ كَانَ يَكُونُ فِي مِهْنَةِ أَهْلِهِ ـ تَعْنِي خِدْمَةَ أَهْلِهِ ـ فَإِذَا حَضَرَتِ الصَّلاَةُ خَرَجَ إِلَى الصَّلاَةِ.

訳：

アル＝アスワドによれば、彼は言った：わたしはアーイシャ رضي الله عنها に尋ねた：「預言者 ﷺ は家で何をしていましたか。」彼女は答えた：「**使徒はいつも家族の仕事を手伝っていました**——つまり家族に仕えていたのです——**そして礼拝の時刻になると、礼拝に出かけていきました。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アーダム・ブン・アビー・イヤース ← シュウバ・ブン・アル＝ハッジャージ ← アル＝ハカム・ブン・ウタイバ ← イブラーヒーム・アン＝ナハイー ← アル＝アスワド・ブン・ヤズィード ← 信徒の母アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アザーンの書、家族の用事をしているときにイカーマが唱えられた者の章、ハディース第 676 番。第 5363、6039 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:676

このハディースの教訓

別の伝承でアーイシャは、使徒が**自分の服を繕い、履物を直し、山羊の乳を搾った**と述べている（『ムスナド・アフマド』— サヒーフ）。国家の指導者であり、軍の

司令官であり、アッラーの使徒である。しかし家では、**手伝い、負担をかけない夫**であった。

使徒はまた**妻たちと親しく打ち解けていた**。アーイシャと駆けっこをし（『スナン・アビー・ダーウード』2578 — サヒーフ）、アーイシャが口をつけたところから飲み、彼女の話に辛抱強く耳を傾けた。使徒の家庭は**愛情と冗談と互いへの敬意**に満ちていた。

今日の夫たちにとって、これは明確な模範である：**家事を手伝うことは男の威厳を損なうものではない**。それは最も高貴な人のスンナに従うことである。そしてアザーンが響くと、使徒はすべてを置いて礼拝に向かった——**家族の権利とアッラーの権利**の均衡である。

使徒の家は食事の面でもとても質素であった。アーイシャ رضى الله عنها によれば、預言者 ﷺ の家々では一、二か月も料理の火が灯されないことがあり、ナツメヤシの実と水で暮らしていた（『サヒーフ・ブハーリー』2567）。それでもその家に、満足とズィクルと愛情が絶えることはなかった。

わたしたちにとってこれは、家の尊さがその大きさや家具ではなく、住む人の**信仰と慈しみと人柄**によって測られることを思い起こさせる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

召使いとともに

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は十歳のとき、母ウンム・スライムに連れられて、アッラーの使徒 ﷺ に仕えはじめた。十年後、彼はこう証言している：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 6038 番

حَدَّثَنَا مُوسَى بْنُ إِسْمَاعِيلَ، سَمِعَ سَلاَّمَ بْنَ مِسْكِينٍ، قَالَ سَمِعْتُ ثَابِتًا، يَقُولُ حَدَّثَنَا أَنَسٌ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ خَدَمْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم عَشْرَ سِنِينَ، فَمَا قَالَ لِي أُفٍّ. وَلاَ لِمَ صَنَعْتَ وَلاَ أَلاَّ صَنَعْتَ.

訳：

アナス رضى الله عنه によれば、彼は言った：「**わたしは十年間預言者 ﷺ に仕えたが、使徒は一度もわたしに『ちぇっ』と言わず、『なぜそうしたのか』『なぜそうしなかったのか』と言ったこともなかった。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー・ブン・イスマーイール ← サッラーム・ブン・ミスキーン ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』礼儀の書、良い人柄と寛大さの章、ハディース第 6038 番。第 2768 番、およびムスリム第 2309 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:6038

このハディースの教訓

十年——子どもがさまざまな失敗をした何千日もの間——それでも使徒は**ただの一度も**「ちぇっ」と言わず、「なぜそうしたのか」と問いただすこともなかった。ある伝承では、アナスは用事を言いつけられたのに、市場で子どもたちと遊んでいた。アッラーの使徒 ﷺ はやって来て、後ろから彼の首筋をつかみ、**微笑みながら**尋ね

た：「ウナイスよ、わたしが頼んだところへ行ったかい」（『サヒーフ・ムスリム』2310）。

今日、多くの人が家事手伝いや従業員を抱えている。アッラーの使徒 ﷺ の模範はこう教える：**彼らの過ちに辛抱強くあれ。**罵らず、さげすまず、家族の一員のように接すること。使徒は言った：「あなたがたの兄弟（召使い）は、あなたがたの扶養のもとにある……自分が食べるものを彼らに食べさせ、自分が着るものを彼らに着せなさい」（『サヒーフ・ブハーリー』30）。

アブー・マスウード・アル＝アンサーリー رضى الله عنه は、あるとき自分の奴隷を打っていた。すると背後から声が聞こえた：「**アブー・マスウードよ、知りなさい。あなたがこの者に対して持つ力よりも、アッラーがあなたに対して持つ力のほうが大きいのだ。**」それはアッラーの使徒 ﷺ であった。アブー・マスウードはすぐに、アッラーのためにその奴隷を解放した（『サヒーフ・ムスリム』1659）。

今日、この教えは家事手伝い、労働者、職員にも当てはまる。使徒は言った：「**労働者には、その汗が乾く前に賃金を与えなさい**」（『スナン・イブン・マージャ』2443 — サヒーフ）。他人に対する権力は、やがて問われることになる**預かりもの（アマーナ）**である。

子どもたちとともに

アッラーの使徒 ﷺ は、**子どもたちをとても愛した**。アブー・フライラ رضي الله عنه によれば、使徒はアル＝アクラウ・ブン・ハービスの前で、孫のアル＝ハサン・ブン・アリーに口づけをした。アル＝アクラウは言った：「わたしには十人の子どもがいるが、一人にも口づけしたことがない。」使徒は彼を見て言った：「**慈しまない者は、慈しまれない**」（『サヒーフ・ブハーリー』5997）。

使徒は子どもたちのそばを通るとき、**子どもたちに挨拶をした**。アナス رضي الله عنه はこのスンナを続けて言った：「預言者 ﷺ はいつもそうしておられた」（『サヒーフ・ブハーリー』6247）。使徒はまた子どもたちの頬を一人ずつなで（『サヒーフ・ムスリム』2329）、赤ん坊の泣き声が聞こえると、母親が心を痛めないよう礼拝を短くした（『サヒーフ・ブハーリー』707）。

使徒は**孫娘ウマーマを抱いて**礼拝したことがある。サジダ（平伏）するときには下ろし、立ち上がるとまた抱き上げた（『サヒーフ・ブハーリー』516）。子どもは邪魔者ではなく、**愛すべき預かりもの**とみなされていた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

風よりも気前よく

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った：「**アッラーの使徒ﷺは人々の中で最も気前がよく、ラマダーンにジブリールが会いに来るときには最も気前がよかった……アッラーの使徒ﷺは、善行において、吹き送られる風よりも気前がよかった**」（『サヒーフ・ブハーリー』6）。

ジャービル رضى الله عنه は言った：「**預言者ﷺは、何かを求められて『いいえ』と言ったことは一度もなかった**」（『サヒーフ・ブハーリー』6034）。何も持っていないときには、後で与えると約束するか、求めた人のために良い祈りをした。あるとき使徒は一人の男に**谷いっぱいの羊**を与えた。男は部族のもとに帰って言った：「イスラームに入りなさい。ムハンマドは貧しさを恐れない者のように与えるのだから」（『サヒーフ・ムスリム』2312）。

使徒の気前のよさは称賛を得るためではなく、**アッラーの約束を確信していた**からである。施しによって財産が減ることはない。使徒が貧しく暮らしたのは、財産がなかったからではなく、**すべてを与えてしまった**からである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

使徒の勇気

アナス رضى الله عنه は言った：「**預言者 ﷺ は、人々の中で最も善良で、最も勇敢であった。**」ある夜、マディーナの人々は恐ろしい物音に驚いた。彼らが音のする方へ出て行くと、**アッラーの使徒 ﷺ がすでに先に行っていた。**使徒はアブー・タルハの馬に鞍なしで乗り、首に剣を掛けて、こう言った：「恐れるな、恐れるな」（『サヒーフ・ブハーリー』2908）。

名高い勇士であったアリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه は言った：「**戦いが激しくなると、わたしたちはアッラーの使徒 ﷺ の陰に身を寄せた。わたしたちの中で、使徒ほど敵に近い者はいなかった**」（『ムスナド・アフマド』— サヒーフ）。フナインでは、多くの者が逃げたときも、使徒はラバの上にとどまり、こう叫んだ：「わたしは預言者である、偽りではない」（第 22 巻）。

使徒の勇気は**慈しみ**と結びついていた。使徒が危険に立ち向かったのは、他人を守るためであり、見せびらかすためではなかった。真の指導者は、危険のときに**先頭に立つ**のであって、後ろに隠れはしない。

易しい道を選び、赦す

アーイシャ رضى الله عنها がしばしば並べて語った使徒の二つの特質は、**易しくすること**と**赦すこと**である：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3560 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ عُرْوَةَ بْنِ الزُّبَيْرِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ أَنَّهَا قَالَتْ مَا خُيِّرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بَيْنَ أَمْرَيْنِ إِلاَّ أَخَذَ أَيْسَرَهُمَا، مَا لَمْ يَكُنْ إِثْمًا، فَإِنْ كَانَ إِثْمًا كَانَ أَبْعَدَ النَّاسِ مِنْهُ، وَمَا انْتَقَمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لِنَفْسِهِ، إِلاَّ أَنْ تُنْتَهَكَ حُرْمَةُ اللَّهِ فَيَنْتَقِمَ لِلَّهِ بِهَا.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها によれば、彼女は言った：「**アッラーの使徒 ﷺ は、二つのことのどちらかを選ぶよう求められると、それが罪でない限り、必ずより易しいほうを選んだ。それが罪であれば、使徒は誰よりもそれから遠ざかった。アッラーの使徒 ﷺ は自分自身のために報復したことは一度もなかった。ただアッラーの禁忌が犯されたときには、アッラーのために報いた。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドッラー・ブン・ユースフ・アッ＝ティンニースィー ← イマーム・マーリク・ブン・アナス ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← 信徒の母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』美徳の書、預言者 ﷺ の特徴の章、ハディース第 3560 番。第 6126、6786 番、およびムスリム第 2327 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3560

このハディースの教訓

どれほど多くの人が使徒を傷つけたかを見てほしい。石を投げたターイフの人々（第 5 巻）、使徒を追放し戦ったクライシュ、使徒に毒を盛ったユダヤ人の女（第 16

巻）、肩掛けを乱暴に引っ張ったベドウィン。それでも使徒は**自分自身のために報復しなかった**。マッカ征服の日、使徒はかつての敵たちに言った：「行きなさい、あなたがたは自由である」（第 21 巻）。

しかし使徒の赦しは**弱さではなかった**。アッラーの禁忌が犯されたとき――正義が損なわれ、弱い者が虐げられたとき――使徒は断固として行動した。ムスリムは自分に対する過ちを赦すが、**アッラーの権利と他者の権利は守り抜く**。

アナス رضى الله عنه によれば、あるベドウィンが使徒の肩掛けをあまりにも乱暴に引っ張ったため、使徒の首に跡が残った。そして彼はアッラーの財産から自分に与えるよう要求した。預言者 ﷺ は彼の方を振り向いて**微笑み**、彼に何かを与えるよう命じた（『サヒーフ・ブハーリー』3149）。

これこそ、今日のわたしたちに必要な均衡である。個人的なことでは寛容で赦し深く、しかし正義とアッラーの定めを守ることには断固としている。

「その人柄はクルアーンであった」

アッラーご自身が、その使徒の人柄を称えておられる：**「本当にあなたは、崇高な徳性を備えている。」**（筆章 68:4）— 『イブン・カスィール注釈』68:4。

サアド・ブン・ヒシャームがアーイシャ رضى الله عنها にアッラーの使徒 ﷺ の人柄について尋ねると、彼女は問い返した：「あなたはクルアーンを読まないのですか。」サアドは「読みます」と答えた。彼女は言った：**「アッラーの預言者 ﷺ の人柄は、クルアーンそのものでした」**（『サヒーフ・ムスリム』746）。

つまり、クルアーンの命じることはすべて使徒が**実践し**、禁じることはすべて**避け**、クルアーンが称えるあらゆる美徳が使徒に備わっていた。使徒は**地上を歩くクルアーン**であった。使徒の人柄を知るにはクルアーンを読み、クルアーンを理解するには使徒の生涯を見ればよい。

使徒自身も言った：**「わたしは高貴な人柄を完成させるために遣わされた」**（『アダブ・ムフラド』273 — サヒーフ）。人柄は宗教の付け足しではない。それは使徒が遣わされた**主な目的**なのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

優しさ

アッラーは、人々がアッラーの使徒 ﷺ に引きつけられた秘密を明かしておられる：**「あなたがかれらに優しくしたのは、アッラーの御慈悲によるものである。もしあなたが薄情で心が荒々しかったならば、かれらはあなたの周りから離れ去ったであろう」**（イムラーン家章 3:159）— 『イブン・カスィール注釈』3:159。

あるとき、ユダヤ人の一団が使徒のもとに来て、皮肉をこめて「アッサーム・アライクム（あなたがたに死を）」と挨拶した。アーイシャは怒って言い返した。使徒は言った：**「落ち着きなさい、アーイシャよ。アッラーはすべてのことにおいて優しさを好まれる」**（『サヒーフ・ブハーリー』6024）。使徒はただ「ワ・アライクム（あなたがたにも）」と答えただけであった。

あるベドウィンがモスクの中で小便をした。教友たちは立ち上がって叱ろうとしたが、使徒は「そのままにしておきなさい」と言い、それから桶一杯の水を注がせて、こう言った：**「あなたがたは易しくするために遣わされたのであり、難しくするために遣わされたのではない」**（『サヒーフ・ブハーリー』220）。そのベドウィンは後にこう祈った：「アッラーよ、わたしとムハンマドに慈悲をお与えください。」

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

「わたしと現世に何の関わりがあろう」

アブドッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は言った：アッラーの使徒 ﷺ は一枚のむしろの上で眠り、起き上がると**脇腹にむしろの跡がついていた**。わたしたちは言った：「アッラーの使徒よ、あなたのために敷布団を用意しましょうか。」使徒は言った：「**わたしと現世に何の関わりがあろう。この世におけるわたしは、木陰でひと休みし、やがてそれを後にして去って行く旅人のようなものにすぎない**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2377 — ハサン・サヒーフ）。

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه は、あるとき使徒の部屋に入り、使徒が敷物もないむしろの上に、椰子の繊維を詰めた革の枕で横たわり、脇腹にむしろの跡がついているのを見た。ウマルは泣いて言った：「ホスローやカエサルは贅沢に暮らしているのに、あなたはアッラーの使徒でありながら……！」使徒は言った：「**彼らには現世があり、わたしたちには来世がある。それで満足ではないか**」（『サヒーフ・ブハーリー』4913）。

使徒はまたイブン・ウマルにこう諭した：「**この世では、よそ者か旅人のようであれ**」（『サヒーフ・ブハーリー』6416）。使徒の禁欲は恵みを嫌ったからではなく、**使徒の心が来世に結びついていた**からである。現世はしばしの木陰であり、永住の家ではない。

万有への慈悲

アッラーは、その使徒の使命全体を一つの節にまとめておられる：「**われは只万有への慈悲として、あなたを遣わしただけである。**」（預言者章 21:107） — 『イブン・カスィール注釈』21:107。

多神教徒を呪うよう求められたとき、使徒は言った：「**わたしは呪う者として遣わされたのではなく、慈悲として遣わされたのである**」（『サヒーフ・ムスリム』2599）。ターイフで追い払われ石を投げられた後、山の天使が彼らを押しつぶそうと申し出たとき、使徒は答えた：「いいえ、わたしはアッラーが彼らの子孫から、アッラーだけを崇める者を生み出してくださることを望みます」（『サヒーフ・ブハーリー』3231）。

使徒の慈悲は**動物**にも及んだ。使徒は、喉の渇いた犬に水を飲ませて赦された男の話（『サヒーフ・ブハーリー』2363）と、猫を閉じ込めて死なせたために罰を受けた女の話（『サヒーフ・ブハーリー』3482）を語った。アッラーもまた使徒を、「あなたがたの悩みごとに心を痛め」る者と描写しておられる（悔悟章 9:128）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

良き模範

アッラーは使徒を、すべての信者の模範とされた：「**本当にアッラーの使徒は、あなたがたにとって立派な模範であった**」（部族連合章 33:21） — 『イブン・カスィール注釈』33:21。

この模範に従うことができるのは、使徒が天使ではなく**人間**だったからである。アッラーは使徒にこう言うよう命じられた：「**わたしはあなたがたと同じ、ただの人間に過ぎない。わたしに啓示されたのである**」（洞窟章 18:110）。使徒は食べ、眠り、結婚し、病み、悲しみ、喜んだ。だからわたしたちの生活のあらゆる面に、使徒の生涯の中に手本がある。

使徒は言った：「**わたしが礼拝するのを見たとおりに礼拝しなさい**」（『サヒーフ・ブハーリー』631）。シャマーイルは感嘆するだけの物語ではなく、**実践するための指針**である。食べ方、眠り方、話し方、装い方、家族との交わり方、人々との接し方である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

使徒を愛すること

アッラーを愛することの証しは、その使徒に従うことである：「**あなたがたがもしアッラーを敬愛するならば、わたしに従え。そうすればアッラーもあなたがたを愛でられ、あなたがたの罪を赦される**」（イムラーン家章 3:31） — 『イブン・カスィール注釈』3:31。

アッラーの使徒 ﷺ は言った：「**わたしが父よりも、子よりも、すべての人々よりも愛しい存在とならない限り、あなたがたの誰も信仰が完全ではない**」（『サヒーフ・ブハーリー』15）。

ある男が使徒に、審判の日はいつかと尋ねた。使徒は問い返した：「そのために何を用意したのか。」男は答えた：「何もありません。ただアッラーとその使徒を愛しているだけです。」使徒は言った：「**あなたは、あなたが愛する者とともにいる。**」アナス رضي الله عنه は言った：「わたしたちは、この言葉ほど何かを喜んだことはなかった」（『サヒーフ・ブハーリー』3688）。

使徒のシャマーイルを知ることは、使徒を**愛する**道である。使徒を愛することは、使徒に**従う**ことにつながる。そして使徒に従うことは、**アッラーの愛**へとつながる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

伝承者たちによる身体的特徴のまとめ

本書の前半の章では、アッラーの使徒 ﷺ の容姿を一つずつ説明してきた。この章では、それらの描写を、伝えた教友の名と出典とともに一つの表にまとめ、読者が使徒を全体として「見る」ことができるようにする――絵ではなく、言葉によって。

ほとんどすべての特徴が、複数の教友によって伝えられていることに注目したい。アナス・ブン・マーリクは十年間、家で使徒を見ていた。アル＝バラー・ブン・アーズィブとジャービル・ブン・サムラは、モスクや道で使徒を見ていた。アーイシャは妻として使徒を見ていた。彼らの描写は互いに補い合い、矛盾することはない。

特徴	描写	伝承者	典拠	等級
標高	中背。高すぎず、低すぎず	アナス；アル＝バラー	ブハーリー 3547、3549	サヒーフ（真正）
顔	最も美しい。月のよう。やや丸い	アル＝バラー；ジャービル・ブン・サムラ	ブハーリー 3552；ムスリム 2344	サヒーフ（真正）
肌の色	明るく輝く白（アズハル）。青白くも黒くもない	アナス	ブハーリー 3547；ムスリム 2330	サヒーフ（真正）
口、目、かかと	口は大きく、白目に赤い筋があり、かかとの肉は薄い	ジャービル・ブン・サムラ	ムスリム 2339	サヒーフ（真正）
髪	緩やかに波打つ。耳たぶまで、ときに肩まで	アル＝バラー；アナス	ブハーリー 3551、5903	サヒーフ（真正）
白髪	20 本に満たない	アナス	ブハーリー 3547	サヒーフ（真正）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

特徴	描写	伝承者	典拠	等級
髭	豊か	ジャービル・ブン・サムラ	ムスリム 2344	サヒーフ（真正）
肩	広い。両肩の間が広い	アル＝バラー	ブハーリー 3551	サヒーフ（真正）
手と足	大きくがっしりしているが、手のひらは絹のように柔らかい	アナス	ブハーリー 5907、3561	サヒーフ（真正）
預言者の印章	両肩の間。鳩の卵ほどの大きさ	ジャービル・ブン・サムラ；アッ＝サーイブ・ブン・ヤズィード	ムスリム 2344；ブハーリー 3541	サヒーフ（真正）
体の香り	麝香や竜涎香よりも芳しい	アナス	ブハーリー 3561；ムスリム 2330	サヒーフ（真正）
汗	真珠のよう。ウンム・スライムが香料として集めた	アナス	ムスリム 2330、2331	サヒーフ（真正）
歩き方	前かがみで、坂を下るかのよう	アリー・ブン・アビー・ターリブ	ティルミズィー 3637	ハサン・サヒーフ
話し方	ゆっくりと明瞭。言葉を数えられるほど	アーイシャ	ブハーリー 3567	サヒーフ（真正）

スィーラの注：ウンム・マアバドの描写

言葉の上で最も美しいアッラーの使徒 ﷺ の描写は、ヒジュラの旅の途中で使徒が出会ったベドウィンの女性、ウンム・マアバド・アル＝フザーイーヤの言葉である（第 7 巻）：「わたしは、美しさのはっきりとした、顔の輝く、体つきの良い男を見ました……」

この話は、アル＝ハーキム、アッ＝タバラーニー、アル＝バイハキー（『預言者性の証し』）が伝えている。その伝承経路についてハディース学者の見解は分かれ、弱いとする者もいれば、伝承経路が多いことからハサンとする者もいる。そのため、上の表ではなく「スィーラの注」に置いた。

参照：『サヒーフ・ムスリム』2339；『サヒーフ・ブハーリー』5907；『サヒーフ・ブハーリー』5903；『サヒーフ・ムスリム』2330；アル＝バイハキー『預言者性の証し』——ウンム・マアバドの話。

教訓

この表は、教友たちがいかに丁寧にアッラーの使徒 ﷺ の描写を守ったかを示している。白目の色やかかとの形までも伝えられているのである。彼らは使徒の教えを伝えるときにも、同じ丁寧さを用いた。使徒の姿がこれほど守られたのなら、使徒のスンナはなおさらである。

しかし、わたしたちの目的は使徒の姿を知ることだけではない。使徒を知ることは、使徒を愛し、使徒に従うための第一歩である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

アッラーの使徒 ﷺ との一日

本書の冒頭の図 1 は、アッラーの使徒 ﷺ の一日を簡潔に示している。この章では、その図を根拠とともに説明する。下の表は決まった時間割ではない——使徒はウンマの必要、旅、戦い、客人に合わせて一日を調整した——が、真正に伝えられたマディーナでの使徒の習慣を描いている。

時	使徒の行い	典拠
夜の初め	イシャーの後は早く眠り、その後の雑談を好まない	ブハーリー 568、1146
夜の終わり	起きて歯を磨き（スィワーク）、夜の礼拝とウィトルを行う	ブハーリー 245、1146
ファジュルの前	軽いファジュルのスンナ礼拝二ラクア。右側を下にしてしばらく横になる	ブハーリー 1171、626
ファジュル（夜明け）	礼拝を導く。日が昇るまで礼拝の場に座る	ムスリム 670
朝	教友たちの話を聞く。ときにドゥハー礼拝	ムスリム 670、719
日中	教え、使節団を迎え、ウンマの用事を片づけ、家族を手伝う	ブハーリー 676
正午	短い昼寝（カイルーラ）	ブハーリー 6281
アスルの後	妻たちの家を一人ずつ訪ねる	ブハーリー 5216
眠る前	小浄。守護の章（ムアウウィザート）を読んで体をなでる。右側を下にして横になり祈る	ブハーリー 5017、6311
毎週	月曜日と木曜日の断食	ティルミズィー 745；ムスリム 1162

アーイシャ رضى الله عنها は使徒の夜をこう描写した：「使徒は夜の初めに眠り、夜の終わりに起きて礼拝した」（『サヒーフ・ブハーリー』1146）。ジャービル・ブン・サムラ رضى الله عنه は使徒の朝をこう描写した。ファジュルの後、使徒は日が昇るまで

礼拝の場から立たなかった。教友たちはジャーヒリーヤ時代の話をして笑い、使徒は微笑んでいた（『サヒーフ・ムスリム』670）。

夕方についてはアーイシャが言った：「アッラーの使徒 ﷺ はアスルの礼拝を終えると、妻たちのもとを訪ね、一人ひとりに近づいた」（『サヒーフ・ブハーリー』5216）。使徒は、ウンマの用事の忙しさに家族の権利を奪わせなかった。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ の一日は均衡がとれていた。夜はアッラーのため、昼は人々のため、夕方は家族のため、そして眠りは体のため。どの権利もおろそかにされなかった。これこそ使徒がアブドッラー・ブン・アムルに教えたことである：「あなたの体にはあなたに対する権利があり、あなたの目にもあなたに対する権利があり、あなたの妻にもあなたに対する権利がある」（『サヒーフ・ブハーリー』1975）。

使徒の一日を一分一秒まねる必要はない。一つの行いから始めよう——早く寝ること、ファジュルの前に起きること、あるいはファジュルの後に座ってズィクルをすること——そしてそれを根気よく続けよう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

妻、子、孫とともに

「家の中で」の章では、アッラーの使徒 ﷺ が家事を手伝っていたことを見た。この章では、使徒と家族一人ひとりとの関係をさらに詳しく見る。使徒自身、人の善良さを家族への接し方で測った：「あなたがたの中で最も優れた者は、家族に最も良く接する者であり、わたしはわたしの家族に最も良く接する者である」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3895 — サヒーフ）。

妻たちとともに

使徒は、ハディージャ رضى الله عنها が亡くなった後も、彼女を決して忘れなかった。使徒は彼女についてこう言った：「わたしは彼女への愛を授かったのである」（『サヒーフ・ムスリム』2435）。羊を屠ると、その一部をハディージャの友人たちに届けた（『サヒーフ・ブハーリー』3818）。

使徒は妻の気持ちをよく理解していた。使徒はアーイシャに言った：「あなたがわたしに満足しているときと、怒っているときがわかるよ。」満足しているとき、アーイシャは「ムハンマドの主にかけて」と誓い、怒っているときは「イブラーヒームの主にかけて」と誓ったのである（『サヒーフ・ブハーリー』5228）。アーイシャがモスクでアビシニア人たちの槍の遊びを見物したとき、使徒は自分の体で彼女を覆い隠し、彼女自身が飽きるまでそうしていた（『サヒーフ・ブハーリー』454）。また同じ器から飲むとき、アーイシャが口をつけたところに自分の口をつけた（『サヒーフ・ムスリム』300）。

アーイシャはまた証言した：「アッラーの使徒 ﷺ は、アッラーの道における戦い以外で、自分の手で何かを打ったことは一度もなかった——女性も召使いも」（『サヒーフ・ムスリム』2328）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

娘ファーティマとともに

ファーティマ رضى الله عنها が入って来ると、使徒は立ち上がって迎え、彼女の手をとって口づけし、自分の席に座らせた。使徒が彼女のもとを訪ねると、ファーティマも同じようにした（『スナン・アビー・ダーウード』5217 — サヒーフ）。多くのアラブの男が娘の誕生を恥じた時代に、人々の前で娘を大切にする父親であった。

孫たちとともに

アル＝バラー رضى الله عنه は、使徒が孫のアル＝ハサン・ブン・アリーを肩に乗せ、こう祈るのを見た：「アッラーよ、わたしはこの子を愛しています。どうかこの子を愛してください」（『サヒーフ・ブハーリー』3749）。あるとき使徒は、孫のアル＝ハサンかアル＝フサインが背中に乗ったため、サジダ（平伏）を長くした。礼拝の後、使徒は言った：「この子がわたしに乗っていたので、満足するまで急がせたくなかったのだ」（『スナン・ナサーイー』1141 — サヒーフ）。

子を失ったとき

息子イブラーヒームが乳児のうちに亡くなったとき、使徒の目から涙が流れた。アブドッ＝ラフマーン・ブン・アウフは尋ねた：「アッラーの使徒よ、あなたも（泣かれるのですか）。」使徒は言った：「目は涙を流し、心は悲しむ。しかしわたしたちは、主が喜ばれること以外は口にしない。イブラーヒームよ、わたしたちはあなたとの別れをとても悲しんでいる」（『サヒーフ・ブハーリー』1303）。家族への愛は、アッラーの定めへの満足と矛盾しない。

教訓

家の外でどれほど偉大でも、家の中で粗暴であれば意味はない。ウンマの指導者であったアッラーの使徒 ﷺ は、理解ある夫であり、娘を大切にする父であり、サジダの間に孫を背中で遊ばせておく祖父であった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

今日の夫や父にとって、その基準は明らかである。自分の人柄については、外の人ではなく、妻や子どもたちに尋ねてみるとよい。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

隣人、客人、非ムスリムとともに

アッラーの使徒 ﷺ の人柄は、家族や教友に限られなかった。それは隣人、客人、弱い人々、そしてムスリムでない人々にも及んだ。この章では、真正に伝えられたいくつかの例を集める。

隣人と客人

使徒は言った：「ジブリールはわたしに隣人について繰り返し勧めたので、隣人を相続人にするのではないかと思うほどであった」（『サヒーフ・ブハーリー』6014）。使徒はまた言った：「アッラーと最後の日を信じる者は、客人を手厚くもてなしなさい」（『サヒーフ・ブハーリー』6018）。

使徒は、ごちそうが小さくても招待に応じた：「たとえ羊の足（のごちそう）に招かれても、わたしは応じる」（『サヒーフ・ブハーリー』2568）。アナス رضي الله عنه によれば、マディーナの奴隷女でさえ、アッラーの使徒 ﷺ の手をとって、自分の用事のために好きなところへ使徒を連れて行くことができた（『サヒーフ・ブハーリー』6072）。

非ムスリムとともに

使徒に仕えていたユダヤ人の少年が病気になった。使徒は彼を見舞い、その枕元に座って、イスラームに招いた。少年は父親を見た。父親は言った：「アブー・アル＝カースィムに従いなさい。」少年はイスラームに入り、使徒は外に出ながら言った：「この子を火獄から救ってくださったアッラーに讃えあれ」（『サヒーフ・ブハーリー』1356）。

ユダヤ人の葬列が通りかかると、使徒は立ち上がった。教友たちが「あれはユダヤ人の葬列です」と言うと、使徒は言った：「それもまた一つの魂ではないか」（『サヒーフ・ブハーリー』1312）。使徒はユダヤ人とも売り買いをした。使徒が

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

亡くなったとき、その鎧はまだ、大麦三十サーアの担保として一人のユダヤ人のもとに質入れされていた（『サヒーフ・ブハーリー』2916）。

バヌー・ハニーファの首長スマーマ・ブン・ウサールは捕らえられ、三日間モスクにつながれていた。使徒は毎日彼の様子を尋ね、それから身代金なしで彼を解放した。スマーマはすぐに沐浴して戻って来てイスラームに入り、こう言った：「アッラーにかけて、かつて地上にあなたの顔ほど憎い顔はありませんでした。今ではあなたの顔が、わたしにとって最も愛しい顔となりました」（『サヒーフ・ブハーリー』4372）。

スィーラの注：「行け、あなたがたは自由だ」

マッカ征服の日にアッラーの使徒 ﷺ がマッカの人々に言った言葉——「行きなさい、あなたがたは自由である」——は、スィーラ書（イブン・イスハーク、イブン・ヒシャーム）でとてもよく知られている。その伝承経路はハディース学者によって弱いと評価されているが、その日に使徒がマッカの人々に与えた全面的な赦しについての真正な伝承によって、意味は裏づけられている（第 20 巻・第 21 巻）。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ の人柄は、最も効果的な宣教であった。ユダヤ人の少年もスマーマも、そして多くの人々も、強制されたからではなく、使徒の接し方に心を動かされてイスラームに入った。隣人に親切で、客人に気前よく、非ムスリムに公正なムスリムは、言葉を使わずにイスラームを伝えているのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

確かめるべき有名な伝承

アッラーの使徒 ﷺ への愛ゆえに、使徒の特質についての多くの話が、講話や本やソーシャルメディアで広まっている。その一部は真正であり、一部は弱く、一部は根拠がない。ハディース学者たちはそれらを一つひとつ検証してきた。使徒がこう言ったからである：「故意にわたしについて嘘をつく者は、火獄に自分の席を用意するがよい」（『サヒーフ・ブハーリー』110）。

下の表は、使徒の特質についてのよく知られた伝承を、ハディース学者の評価とともに挙げたものである。弱い伝承が必ずしも捏造とは限らない。その一部は、真正なハディースによって意味が裏づけられている。しかし、それを確かなこととしてアッラーの使徒 ﷺ に帰することはできない。

伝承	評価	説明
アリー・ブン・アビー・ターリブによる長い描写（『ジャーミウ・ティルミズィー』3638）	ダイーフ（弱い）	伝承経路が途切れている。内容の大部分は『ジャーミウ・ティルミズィー』3637（ハサン・サヒーフ）によって裏づけられる
使徒の継子ヒンド・ブン・アビー・ハーラによる長い描写（ティルミズィー『シャマーイル』8）	ダイーフ（弱い）	素性の知られない伝承者がいる。意味の一部は真正な伝承によって裏づけられる
「まるで太陽がその顔の中をめぐっているかのよう」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3648）	ダイーフ（弱い）	伝承経路が弱い。意味は『サヒーフ・ムスリム』2344（「太陽と月のよう」）によって裏づけられる
「使徒の前歯にはすき間があった」（ティルミズィー『シャマーイル』）	ダイーフ（弱い）	イブン・アッバースから弱い伝承経路で伝えられる

伝承	評価	説明
使徒は割礼を受けた状態で生まれた	見解が分かれるもの	すべての伝承経路が弱い。イブン・アル＝カイイムが『トゥフファト・アル＝マウドゥード』でこの見解の相違を論じている
使徒には影がなかった	真正な伝承経路はない	非常に弱いムルサル伝承であり、信頼できるハディース集には見られない
ハエが使徒の体にとまらなかった	根拠なし	ハディース集の中に伝承経路つきで見いだされない
「ムハンマドの光が最初の被造物である」	真正ではない	知られたハディース集の中に真正な伝承経路で見いだされず、多くのハディース学者が退けている
「あなたがいなければ、わたしは宇宙を創造しなかった」	捏造（マウドゥーウ）	アッ＝サガーニーとアルバーニーが捏造と評価（『弱いハディース集』282）
今日展示されている使徒の遺品（髪、足跡など）	確認できない	教友たちは確かに使徒の髪を保管していた（『サヒーフ・ブハーリー』170、5896）が、今日の遺品の多くは、その真正性を確かめられる伝承経路を持たない

スィーラの注：光ではなく、人間

クルアーンはこう明言している：「言ってやるがいい。『わたしはあなたがたと同じ、ただの人間に過ぎない。わたしに啓示されたのである……』」（洞窟章 18:110）。使徒は食べ、眠り、病み、汗をかき、そして亡くなった（第 30 巻）。使徒の尊さは、啓示と預言者性と人柄にある——確かでない超常的な特質にあるのではない。

アッラーはまた使徒を「光り輝く灯火」（部族連合章 33:46）と描写し、わたしたちのもとに「光と明白な啓典」が来たと述べておられる（食卓章 5:15）。注釈者たちは、その光とは使徒がもたらした導きの光であると説明している。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

参照：『ジャーミウ・ティルミズィー』3638；『ジャーミウ・ティルミズィー』3648；ティルミズィー『シャマーイル』8；『サヒーフ・ブハーリー』170；イブン・アル＝カイイム『トゥフファト・アル＝マウドゥード・ビ・アフカーム・アル＝マウルード』；アルバーニー『弱いハディース集』第 282 番。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ への愛は、真正でない話を必要としない。『サヒーフ・ブハーリー』、『サヒーフ・ムスリム』、信頼できるハディース集に確かに伝えられていることだけで、心を感嘆と愛で満たすのに十分である。

使徒についての話を人に伝える前に、こう問いかけよう：誰がそれを伝えたのか、その出典はどこにあるのか。それは愛が足りないしるしではない——真実で礼儀ある愛のしるしである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：66 / 211

シャマーイルに関するよくある質問

1. なぜイスラームはアッラーの使徒 ﷺ を絵で描かないのか。

学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ の尊厳を守り、行き過ぎた崇拝への扉を閉ざすため、使徒の絵や像を禁じることで一致している。教友たちがしたような言葉による描写で十分であり、そのほうが礼儀にかなっている。

2. 夢の中でアッラーの使徒 ﷺ を見ることはできるか。

できる。使徒は言った：「夢の中でわたしを見た者は、確かにわたしを見たのである。悪魔はわたしの姿をまねることができないからである」（『サヒーフ・ブハーリー』110）。ムハンマド・ブン・スィーリーンはこう説明した：それは、使徒の本当の姿で見た場合のことである（ブハーリーがハディース第 6993 番の前に引用）。だからこそシャマーイルを知ることが大切なのである。ただし夢は宗教の規定の根拠にはならない。

3. わたしたちは使徒の身体的なことをすべてまねなければならないのか。

学者たちは、崇拝や法として行われ、従うことが求められる使徒の行いと、食べ物の種類やその民の服の形のように、慣習や人間の本性（ジビッリーヤ）に従った事柄とを区別している。後者は、ひょうたんを好きになったアナスのように（『サヒーフ・ブハーリー』5379）、愛ゆえに従うのは許され良いことであるが、義務ではない。

4. 使徒は髪を染めたか。

アナスによれば、使徒の白髪はごくわずかで、染めるほどではなかった（『サヒーフ・ブハーリー』5895）。ウンム・サラマは、赤みを帯びた使徒の髪を数本保管していた（『サヒーフ・ブハーリー』5896）。ラビーアは、その色は香料によるものだと述べている（『サヒーフ・ブハーリー』3547）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

5. 使徒はどちらの手に指輪をはめたか。

どちらも真正に伝えられている：右手（『サヒーフ・ムスリム』2094）と、左手の小指（『サヒーフ・ムスリム』2095）である。したがって男性は、銀の指輪であれば、どちらの手にはめてもよい。

6. 使徒は一度も笑わなかったというのは本当か。

使徒は笑った。ときには奥歯が見えるほど笑ったが、多くは微笑みであり、大笑いすることはなかった（『サヒーフ・ブハーリー』6092；「微笑みと笑い」の章）。

7. 使徒の髪の長さはどれくらいだったか。

時期によって異なる。耳たぶまでのときもあれば（『サヒーフ・ブハーリー』3551）、肩までのときもあった（『サヒーフ・ブハーリー』5903）。使徒はまた、ハッジとウムラのときには頭を剃った。

8. 使徒は普通の人間か、それとも光の存在か。

使徒は人間であり（洞窟章 18:110）、啓示と預言者性によって尊ばれ、導きの光をもたらした（部族連合章 33:46）。「検証が必要なよく知られた伝承」の章を参照。

9. シャマーイルを学ぶのに最良の書は何か。

ティルミズィーの『シャマーイル・ムハンマディーヤ』とその注釈書、各伝承の等級を明らかにしたアルバーニーの『シャマーイル要約』、カーディー・イヤードの『アッ＝シファー』、そしてイブン・アル＝カイイムの『ザード・アル＝マアード』である。

10. 財産があふれていたのに、なぜ使徒はあれほど質素に暮らしたのか。

使徒は来世を選んだからである：「わたしと現世に何の関わりがあろう」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2377）。入ってきた財産はウンマに分け与えられ、亡くなったときにも鎧はまだ質に入っていた（『サヒーフ・ブハーリー』2916）。

11. 今日、使徒に近づくための最も簡単な行いは何か。

使徒への祝福を祈ること（サラワート）である：「わたしのために一度祝福を祈る者に、アッラーは十度祝福を与えられる」（『サヒーフ・ムスリム』408）。そして使徒の人柄にならうこと——微笑み、優しさ、気前のよさである。

12. 審判の日に使徒に最も近いのは誰か。

使徒は言った：「あなたがたの中でわたしが最も愛し、審判の日にわたしの最も近くに座る者は、あなたがたの中で最も人柄の良い者である」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2018 — ハサン）。

教訓

これらの質問は、アッラーの使徒 ﷺ を知ることが生きた学問であることを示している。すべての答えはクルアーンと真正なハディースに立ち返らなければならず、使徒についてのすべての知識は行いにつながらなければならない。祝福を祈り、良い人柄を身につけ、そのスンナに従うことである。

教訓と結び

教友たちは、わたしたちが使徒を「見る」ことができるよう、アッラーの使徒 ﷺ の描写を丁寧に守った。最も大切な教訓は次のとおりである：

教訓	本巻から
身体の完全さ	「月のよう」。中背で、顔は輝く
恥じらいと慎み	帳の奥の乙女よりも恥じらい深い
質素	むしろ、大麦のパン、「わたしと現世に何の関わりがあろう」
崇拝行為	足が腫れるまでの夜の礼拝。一日七十回の赦しの祈り
家族と召使い	家事を手伝う。アナスは一度もとがめられなかった
気前のよさと勇気	「風よりも気前よく」。危険に向かって先頭に立つ
赦しと優しさ	自分のために報復しない
クルアーンの人柄	「その人柄はクルアーンであった」

わたしたちへの教え

わたしたちは使徒の顔を見ることはできなかった。しかし、わたしたちの微笑み、優しさ、気前のよさ、崇拝の中に、**使徒のスンナをよみがえらせる**ことはできる。使徒を知ることで愛が深まり、その愛によって天国で使徒に会うことができますように——「**あなたは、あなたが愛する者とともにいる。**」アッラーフンマ・サッリ・アラー・ムハンマド（アッラーよ、ムハンマドに祝福を）。

インシャーアッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**第 32 巻『信徒の母たち（ウンマハート・アル＝ムウミニーン）**』へと続く。アッラーの使徒 ﷺ の妻たちの物語を二

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

部に分け、ハディージャからマイムーナ رضى الله عنهن までを語る。アッラーこそ最もよく知っておられる。

第 31 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『クルアーン大注釈』（イムラーン家章 3:31、3:159；洞窟章 18:110；預言者章 21:107；識別章 25:63；部族連合章 33:21；筆章 68:4）。https://tafsir.app/ibn-katheer/68/4

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』6、15、24、30、95、110、220、516、568、631、676、707、1969、2363、2567、2582、2837、2908、3035、3149、3231、3482、3541、3547、3549、3551、3552、3555、3556、3558、3559、3560、3561、3562、3563、3567、3688、4837、4913、5063、5216、5376、5379、5392、5398、5416、5431、5857、5870、5872、5997、6024、6034、6038、6092、6102、6117、6247、6307、6311、6314、6416、6459、6464。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』373、670、746、772、1359、1659、2051、2310、2312、2329、2331、2344、2599。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』994、1762、1956、2377、2380、3637、3638、3639、3641、3648；『スナン・アビー・ダーウード』2578、4163、5212；『ジャーミウ・ティルミズィー』2727；『スナン・イブン・マージャ』2443；『アダブ・ムフラド』273。https://sunnah.com

シャマーイルの書と注釈

ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』。https://sunnah.com/shamail

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』——美徳の書、預言者 ﷺ の特徴の章；アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』——美徳の書。

カーディー・イヤード『アッ＝シファー』；イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』。

イブン・サアド『大列伝（タバカート）』；サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

一般の歴史

ウィキペディア「ムハンマド」。https://en.wikipedia.org/wiki/Muhammad

ウィキペディア「ティルミズィー」。https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Tirmidhi

ウィキペディア「スンナ」。https://en.wikipedia.org/wiki/Sunnah

ウィキペディア「ヒルヤ」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hilya

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ムスリム』2339（使徒の口、目、かかと）。https://sunnah.com/muslim:2339

『サヒーフ・ブハーリー』5907（がっしりとした手と足）。https://sunnah.com/bukhari:5907

『サヒーフ・ブハーリー』1146（夜の初めに眠り、夜の終わりに起きる）。https://sunnah.com/bukhari:1146

『サヒーフ・ムスリム』670（ファジュルの後、日が昇るまで座る）。https://sunnah.com/muslim:670a

『サヒーフ・ブハーリー』5216（アスルの後に妻たちを訪ねる）。https://sunnah.com/bukhari:5216

『ジャーミウ・ティルミズィー』3895（家族に最も良く接する者）。https://sunnah.com/tirmidhi:3895

『サヒーフ・ムスリム』2328（女性や召使いを一度も打たなかった）。https://sunnah.com/muslim:2328

『サヒーフ・ブハーリー』1356（病気のユダヤ人の少年を見舞う）。https://sunnah.com/bukhari:1356

『サヒーフ・ブハーリー』4372（スマーマ・ブン・ウサール）。https://sunnah.com/bukhari:4372

ティルミズィー『シャマーイル』8（ヒンド・ブン・アビー・ハーラの描写）。https://sunnah.com/shamail:8

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

第二部

信徒の母たち 1

預言者伝（スィーラ）— 第 32 巻

信徒の母たち（ウンマハート・アル＝ムウミニーン）第 1 部：ハディージャ、サウダ、アーイシャ、ハフサ、ザイナブ・ビント・フザイマ — クルアーンと真正なハディースに基づいて

信徒の母たち

第 31 巻では**アッラーの使徒** ﷺ の人となりを知った。本巻第 32 巻では、**使徒の家**の中に入り、使徒に最も近かった女性たち——アッラーが**信徒の母たち**（**ウンマハート・アル＝ムウミニーン**）と呼ばれた使徒の妻たち——を知る。

彼女たちは単に一人の男性の妻ではなかった。自分たちの家に下った**啓示の証人**であり、家の中で使徒のスンナを守った**師**であり、すべてのムスリム女性と家庭にとっての**模範**である。夫婦生活、清め、夜の礼拝、家庭での作法に関する規定の多くは、彼女たちを通してわたしたちに届いた。

彼女たちの物語は長いので、本シリーズは**二部**に分けられている。この第 1 部では五人を取り上げる：**ハディージャ、サウダ、アーイシャ、ハフサ、ザイナブ・ビント・フザイマ** رضي الله عنهن。第 2 部（第 32B 巻）では残りの六人を取り上げる。

本書では、クルアーン、**サヒーフ（真正）とハサン（良好）**のハディース、そして信頼できるスィーラ書を用いる。よく知られていても伝承経路の弱い伝承や、歴史家の間で見解が分かれる事柄は、「スィーラの注」の枠に置く。

注：本書のクルアーンの節の和訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠に記す。出来事の年はスィーラ書による概算であり、一部には異説がある。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

信徒の母たちとは誰か

「信者の母」という呼び名は、アッラーご自身から来ている：「**預言者は、信者にとりかれら自身よりも近く、またかれ（聖預言者）の妻たちはかれら（信者たち）の母である。またアッラーの定めでは実の血縁関係者は互いに、信仰上の兄弟（アンサール）や（マッカよりの）移住者よりも親近である。だがあなたがたの味方のためには、親切にしてやれ。これは啓典に記されていることである。**」（部族連合章 33:6） — 『イブン・カスィール注釈』33:6。

学者たちは、預言者 ﷺ の妻たちが二つの点で「母」であると説明する：母のように**敬い尊ばなければならないこと**、そして使徒の後に**結婚することが禁じられていること**である（部族連合章 33:53）。ただし、二人きりになったり帳なしで会ったりしてよいという意味でのマフラム（近親）ではない。教友たちは帳の後ろから彼女たちに尋ねた。

使徒とともに暮らした妻は**十一人**である。二人——**ハディージャ**と**ザイナブ・ビント・フザイマ**——は使徒の存命中に亡くなり、九人は使徒が亡くなった時に存命であった。第 4 章の図は、その結婚の順序を示している。

彼女たちの名を口にする時、わたしたちは رضي الله عنها——アッラーが彼女たちに満足されますように——と祈る。彼女たちを愛し敬うことは**アッラーの使徒** ﷺ を愛することの一部であり、彼女たちを罵ることは使徒を傷つけることである。

この呼び名はまた、すべてのムスリムへの**戒め**でもある。子が母の侮辱を見過ごさないように、信者は**その名誉を守る**——預言者 ﷺ の妻たちの名誉を。そして善いこと以外で彼女たちを語らない。

栄誉と責任

アッラーは彼女たちを特別な地位に置き、より重い責任を課された：「**預言者の妻たちよ、あなたがたは（外の）女たちと同じではない。もしあなたがたがアッラーを畏れるならば、心に病ある者の意を動かさせないよう、言葉が軽くてはならない。端正な言葉でものを言え。**」（部族連合章 33:32） — 『イブン・カスィール注釈』33:32。

その前の節は、彼女たちが従順であれば**報奨が二倍になり**、醜行を犯せば罰も倍加されることを述べている（部族連合章 33:30–31）。高い地位は**より大きな信託**を伴う。彼女たちはウンマ全体が見つめる模範だからである。

そしてアッラーは仰せられた：「**家の者たちよ、アッラーはあなたがたから不浄を払い、あなたがたが清浄であることを望まれる。**」（部族連合章 33:33） — 『イブン・カスィール注釈』33:33。

この節の文脈は、明らかに**預言者の妻たち** ﷺ に呼びかけている。また別のハディースでは、使徒はアリー、ファーティマ、アル＝ハサン、アル＝フサイン رضى الله عنهم をも家の者（アフル・アル＝バイト）に含められた（『サヒーフ・ムスリム』2424）。したがって、使徒の妻たちは、アッラーが清められた**家の者の一部**である。

「母」という言葉はまた、**慈しみと教育**の意味をも含む。母が子を育てるように、預言者 ﷺ の妻たちは、自ら伝えた知識を通してウンマを育てた。家庭でスンナを実践するたびに、わたしたちは実は**自分たちの母から学んでいる**のである。

アッラーの使徒 ﷺ の結婚の英知

なぜアッラーの使徒 ﷺ には多くの妻がいたのかと、多くの人が疑問に思う。その答えは**歴史の事実**を見れば明らかになる。使徒は約 25 年間、**ただ一人の妻**ハディージャとだけ暮らした——25 歳から 50 歳近くまで、すなわち女性への欲求が最も強い若い時期にである。

その他の結婚は **50 歳を過ぎてから**であり、その多くは戦いと宣教に満ちたマディーナの十年間に行われた。そしてすべての妻のうち、**処女はアーイシャだけ**であった。他は未亡人で、一部は年長であり、多くは夫を殉教や移住で失っていた。

学者たちはいくつかの英知を挙げている：(1) **ウンマの教育**——使徒の妻たちは、男性には伝えられない家庭の規定を伝えた；(2) 殉教者や移住者の**未亡人の保護**；(3) アブー・バクルやウマルのような主だった教友たち、またアラブの諸部族との**絆を強め**、多くの人がイスラームに入った；(4) 養子の規定のような**ジャーヒリーヤの慣習の廃止**（第 32B 巻）。

ウンマに対しては、アッラーは公正を条件に妻の数を四人までとされた：「**だが公平にしてやれそうにもないならば、只 1 人だけ（娶る）**」（女性章 4:3） — 『イブン・カスィール注釈』4:3。

アッラーの使徒 ﷺ はこの点でアッラーから特例を与えられた（部族連合章 33:50）が、妻たちに対して非常に**公正**であった。旅に出る時は妻たちの間でくじを引き、昼と夜の順番を一人一人に分け与えた（『サヒーフ・ブハーリー』2593）。

使徒の公正さは**気持ち**にまで及んだ。毎日アスルの後、使徒は妻たちを一人ずつ訪ねて様子を尋ね、ともに座り、その後で順番の妻の家に泊まった（『サヒーフ・ブハーリー』5216）。誰一人おろそかにされなかった。

したがって、アッラーの使徒 ﷺ の結婚を**欲望**の尺度で測る者は大きな誤りを犯している。妻たちとの使徒の生活は**質素で、責任と崇拝に満ちた**ものであった：小さな部屋、わずかな食べ物、そして礼拝に費やされた夜々。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

使徒の結婚の年表

下の図は、スィーラ書によるアッラーの使徒 ﷺ の結婚の順序を示している。最初の五人が本巻の主題であり、残りの六人は第 32B 巻で取り上げる。



図 1：信徒の母たち——アッラーの使徒 ﷺ の結婚の順序。

本巻の五人の妻のうち四人が、**困難な状況**の中で娶られたことに注目しよう：ハディージャは使徒がまだ預言者となる前、サウダは悲しみの年の後、ハフサとザイナブ・ビント・フザイマは夫を失った後である。どの結婚も**慈しみと保護の物語**である。

ハディージャ：クライシュの清らかな女性

ハディージャ・ビント・フワイリド・ブン・アサド رضى الله عنها は、クライシュの高貴な家系の出身である。その系譜は、共通の祖先クサイ・ブン・キラーブにおいてアッラーの使徒 ﷺ の系譜と合わさる。ジャーヒリーヤの時代から、その気高い人柄と貞淑さゆえに**アッ＝ターヒラ**——清らかな女性——と呼ばれていた。

彼女は**成功した商人**であった。男たちを雇い、報酬または利益の分配によって自分の商品をシャームへ運ばせていた。二度未亡人となった後、クライシュの多くの有力者が求婚したが、彼女は断った。

マッカの人々からアル＝アミーン（信頼できる者）と呼ばれていた**ムハンマドの誠実さ**を聞くと、彼女は自分の使用人**マイサラ**とともに商品をシャームへ運ぶよう、他の者より高い報酬で申し出た（第 2 巻）。その商いは大きな利益をもたらした。

マイサラは道中の**ムハンマドの人柄**について語って帰ってきた：その誠実さ、売買における正直さ、そして気高い品性である。人を見る目のある賢い女性であったハディージャは、その青年に**他の者にはない何か**を見た。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

祝福された結婚

最初の一歩を踏み出したのはハディージャ自身であった。彼女は友人の**ナフィーサ・ビント・ムンヤ**を遣わし、ムハンマドになぜまだ結婚しないのか、高貴で裕福で家柄の良い女性から求婚されたら受けるかどうかを尋ねさせた。ムハンマドは承諾し、**父方のおじ**がハディージャの家族のもとへ求婚に行った。

イブン・イスハークによれば、その時ムハンマドは **25 歳**、ハディージャは **40 歳**で、婚資は若いラクダ二十頭であった。この結婚は**預言者としての召命の 15 年前**のことである。

スィーラの注：ハディージャの年齢

よく知られた見解は、イブン・イスハークとイブン・サアドによる、結婚時 40 歳というものである。しかし別の伝承もあり、その中にはワーキディーらを通したイブン・アッバースからの伝承として 28 歳とするものがある。学者たちは両方の見解を挙げており、この点を決定づける真正なハディースはない。

確かなこと：ハディージャは**六人の子**を産んだ。アッラーの使徒 ﷺ の子——アル＝カースィム、アブドッラー、ザイナブ、ルカイヤ、ウンム・クルスーム、ファーティマ——であり、イブラーヒーム（マーリヤの子）を除く使徒のすべての子である。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）——アッラーの使徒 ﷺ の結婚の章；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

二人の家庭は**安らぎと互いへの敬意**に満ちていた。ハディージャは夫を助けるために財産を差し出し、ムハンマドは妻の尊厳を守った。二人の息子は幼くして亡くなった——二人がともに忍耐して乗り越えた重い試練である。

ハディージャの家ではまた、**ザイド・ブン・ハーリサ**が育った。ハディージャが夫に贈った奴隷で、後に解放されて養子となった人である。同じく、ともに暮らした

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

使徒のいとこ**アリー・ブン・アビー・ターリブ**もいた。その家はイスラームの**最初の世代**が生まれる場となった。

ハディージャの家庭はまた、夫婦の**協力関係**の手本でもあった。彼女は財産を与えるだけでなく**賢明な意見**も述べ、使徒もその意見を尊重した。二人の関係は単なる必要ではなく**信頼**の上に築かれていた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

最初に信じた人

最初の啓示の後、アッラーの使徒 ﷺ が震える心でヒラーの洞窟から帰ると、ハディージャに言った：「**わたしを包んでくれ、わたしを包んでくれ！**」 落ち着くと、起こったことを語り、「わが身が心配だ」と言った（『サヒーフ・ブハーリー』3）。

ハディージャの答えは、歴史上最も美しい言葉の一つとなった：「**決してそんなことはありません！アッラーにかけて、アッラーがあなたを辱めることは決してありません。あなたは親族の絆を大切にし、弱い者の重荷を担い、持たざる者に与え、客人をもてなし、真理のために災難に遭った人を助けておられます。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3）。

ハディージャは慰めるだけではなかった。使徒を**連れて**いとこの**ワラカ・ブン・ナウファル**のもとへ行った。以前の啓典に通じたワラカは、それが**ナームース**（ジブリール）であり、かつてムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ に下ったものだと確認した（第 3 巻）。

学者たちは、**ハディージャこそ最初の信者**であり、アッラーの使徒 ﷺ を最初に信じた人であることで一致している。彼女の論拠を見てほしい。彼女は奇跡を見たのではなく、**夫の人柄**を知っていたのである。十五年間ともに暮らせば、これほど善良な人をアッラーが辱めることはないと確信するのに十分であった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

アッラーからの挨拶

ハディージャの尊さは天から認められた。ジブリール自らが、彼女への**アッラーからの挨拶**を携えて来たのである：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3820 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ فُضَيْلٍ، عَنْ عُمَارَةَ، عَنْ أَبِي زُرْعَةَ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ أَتَى جِبْرِيلُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ يَا رَسُولَ اللَّهِ هَذِهِ خَدِيجَةُ قَدْ أَتَتْ مَعَهَا إِنَاءٌ فِيهِ إِدَامٌ أَوْ طَعَامٌ أَوْ شَرَابٌ، فَإِذَا هِيَ أَتَتْكَ فَاقْرَأْ عَلَيْهَا السَّلاَمَ مِنْ رَبِّهَا وَمِنِّي، وَبَشِّرْهَا بِبَيْتٍ فِي الْجَنَّةِ مِنْ قَصَبٍ، لاَ صَخَبَ فِيهِ وَلاَ نَصَبَ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、ジブリールが預言者 ﷺ のもとに来て言った。「アッラーの使徒よ、ハディージャがおかずか食べ物か飲み物の入った器を持ってやって来ます。**彼女があなたのもとに着いたら、彼女の主とわたしからの挨拶を伝え、中が空洞の真珠でできた天国の家——そこには騒がしさも疲れもない——の吉報を告げてください。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ムハンマド・ブン・フダイル ← ウマーラ・ブン・アル＝カアカーア ← アブー・ズルア・ブン・アムル ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アンサールの美徳の書、預言者 ﷺ とハディージャの結婚およびその美徳の章、ハディース第 3820 番。ムスリム第 2432 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3820

このハディースの教訓

想像してみてほしい。**万有の主**が一人の女性に挨拶を送られ、ジブリールが自らの挨拶を添えたのである。学者たちは、これは人間に**めったに与えられない**栄誉であると述べている。

その報いにも注目しよう：**騒がしさも疲れもない家**。学者たちは、これはハディージャの行いにふさわしいと説明する。彼女は決して声を荒らげず、夫を困らせることもなく、むしろ安らぎと支えによって使徒の疲れを取り除いた。だからアッラーは**永遠の安らぎ**で報いられたのである。

そして吉報が下った時、彼女は**夫のための食べ物**を運んでいた——愛情のこもった小さな行いである。家庭の小さな行いも、誠実であれば**アッラーに見られ、尊ばれる**。

学者たちによれば、ハディージャは生涯一度も夫の**心を傷つけた**ことがなく、アッラーの使徒 ﷺ に逆らうこともなかった。外でのあらゆる苦難の後に使徒が帰る場所が彼女であった——重荷を増やす場所ではなく、**安らぎの場としての家**である。

すべての妻と夫への教訓：心を落ち着かせる言葉、苦しい時の支え、伴侶への信頼は、現世だけでなく天国にまで届く報いをもたらす**投資**である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

財産と身を捧げて

ハディージャは**全財産**を宣教のために差し出した。クライシュがハーシム家とムッタリブ家を**アビー・ターリブの谷**で約三年間ボイコットした時（第 5 巻）、裕福な暮らしに慣れていたハディージャも夫とともに閉じ込められ、飢えと苦難に耐えた。

ボイコットが終わって間もなく、**召命 10 年目**に、ハディージャは約 65 歳で亡くなり、マッカの**アル＝ハジューン**に葬られた。同じ年、使徒の父方のおじアブー・ターリブも亡くなった。その年は**アーム・アル＝フズン**——悲しみの年——として知られる。

アッラーの使徒 ﷺ は二人の主な支えを失った。外から使徒を守ったアブー・ターリブと、**内から使徒を慰めたハディージャ**である。その後クライシュの迫害は一層厳しくなり、使徒はターイフへ向かった（第 5 巻）。

ハディージャは、イスラームの勝利も、マディーナへのヒジュラも、マッカの征服も見ることはなかった。彼女が見たのは**最も苦しい年月**だけであった。しかし、だからこそその地位はこれほど高い。彼女は**人々が不信仰であった時に信じ**、現世の報いが何もない時に身を捧げたのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

色あせない愛

ハディージャへのアッラーの使徒 ﷺ の愛は、その死後も**色あせなかった**。その後最も愛された妻であるアーイシャ رضى الله عنها は、こう認めている：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3818 番

حَدَّثَنِي عُمَرُ بْنُ مُحَمَّدِ بْنِ حَسَنٍ، حَدَّثَنَا أَبِي، حَدَّثَنَا حَفْصٌ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ مَا غِرْتُ عَلَى أَحَدٍ مِنْ نِسَاءِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مَا غِرْتُ عَلَى خَدِيجَةَ، وَمَا رَأَيْتُهَا، وَلَكِنْ كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يُكْثِرُ ذِكْرَهَا، وَرُبَّمَا ذَبَحَ الشَّاةَ، ثُمَّ يُقَطِّعُهَا أَعْضَاءً، ثُمَّ يَبْعَثُهَا فِي صَدَائِقِ خَدِيجَةَ، فَرُبَّمَا قُلْتُ لَهُ كَأَنَّهُ لَمْ يَكُنْ فِي الدُّنْيَا امْرَأَةٌ إِلاَّ خَدِيجَةُ. فَيَقُولُ إِنَّهَا كَانَتْ وَكَانَتْ، وَكَانَ لِي مِنْهَا وَلَدٌ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**わたしは預言者 ﷺ の妻の誰に対しても、ハディージャほどには嫉妬しませんでした。わたしは彼女を見たことがないのに。** でも預言者 ﷺ はよく彼女の名を口にされました。時には羊を屠って幾つかに切り分け、ハディージャの友人たちに送られました。わたしは時々使徒に言いました。『まるでこの世にハディージャのほかに女性はいないかのようですね。』すると使徒は答えられました。『**彼女はこうであり、ああであった。そしてわたしは彼女から子を授かったのだ。**』」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウマル・ブン・ムハンマド・ブン・アル＝ハサン ← その父ムハンマド・ブン・アル＝ハサン ← ハフス・ブン・ギヤース ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アンサールの美徳の書、預言者 ﷺ とハディージャの結婚およびその美徳の章、ハディース第 3818 番。第 3816、3817 番、およびムスリム第 2435 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3818

このハディースの教訓

使徒は思い出すだけではなかった。肉の贈り物によって**ハディージャの友人たちを尊んだ**——墓を越える誠実さである。学者たちは、**愛する人が愛した人を尊ぶこと**こそ真の誠実さのしるしであると述べている。

ある日、ハディージャの姉妹**ハーラ・ビント・フワイリド**が入室の許しを求めた。その声はハディージャに似ていたので、使徒はハディージャが許しを求める様子を思い出し、感極まって言われた：「**アッラーよ、ハーラだ！**」（『サヒーフ・ブハーリー』3821）。

スィーラの注：「アッラーは彼女より良い代わりを与えてはくださらなかった」

イマーム・アフマドの伝承では、アーイシャが嫉妬から、アッラーはもっと良い代わりを与えてくださったと言った時、使徒は答えられた。「アッラーは彼女より良い代わりを与えてはくださらなかった。人々が不信仰であった時に彼女はわたしを信じ、人々がわたしを嘘つきと呼んだ時に彼女はわたしを真実とし、人々が財産を出し惜しんだ時に彼女は財産でわたしを助け、アッラーは彼女からわたしに子どもたちを授けられた。」

この伝承は『ムスナド・アフマド』（第 24864 番）にある。その伝承経路はハディース学者の間で議論されており、他の伝承の裏付けによってハサン（良好）とする者もいる。その意味は上の真正なハディースによって支持されている。

参照：

『ムスナド・アフマド』24864；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』アンサールの美徳の書。

最良の女性

アッラーの使徒 ﷺ は、ハディージャを**あらゆる時代の最良の女性**の一人に数えられた：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3432 番

حَدَّثَنِي أَحْمَدُ بْنُ أَبِي رَجَاءٍ، حَدَّثَنَا النَّضْرُ، عَنْ هِشَامٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَبِي قَالَ، سَمِعْتُ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ جَعْفَرٍ، قَالَ سَمِعْتُ عَلِيًّا ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ سَمِعْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ خَيْرُ نِسَائِهَا مَرْيَمُ ابْنَةُ عِمْرَانَ، وَخَيْرُ نِسَائِهَا خَدِيجَةُ.

訳：

アブドッラー・ブン・ジャアファルは言った。わたしはアリー رضى الله عنه がこう言うのを聞いた。わたしは預言者 ﷺ がこう言われるのを聞いた：「**（その時代の）最良の女性はイムラーンの娘マルヤムであり、（このウンマの）最良の女性はハディージャである。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・アビー・ラジャー ← アン＝ナドル・ブン・シュマイル ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アブドッラー・ブン・ジャアファル ← アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者たちの物語の書、「天使たちがこう言った時を思い起せ。『マルヤムよ』」というアッラーの御言葉の章、ハディース第 3432 番。第 3815 番、およびムスリム第 2430 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3432

このハディースの教訓

このハディースでハディージャとともに挙げられたマルヤムは、アッラーが称賛された女性である：「**誠にアッラーはあなたを選んであなたを清め、万有の女人を越**

えて御選びになられた。」（イムラーン家章 3:42） — 『イブン・カスィール注釈』3:42。

マルヤムとともに挙げられることは、この上ない栄誉である。二人はともに身を守った**清らかな女性**であり、重い試練の中で**揺るがぬ信仰**を保ち、高貴な子孫の母となった。

ハディージャからは、天国の女性たちの長である**ファーティマ** رضى الله عنها が生まれ、ファーティマからはアル＝ハサンとアル＝フサインが生まれた。今日存在する**アッラーの使徒** ﷺ の子孫はすべて、ハディージャに由来している。

わたしたちへの教訓：女性の尊さは財産や美しさにではなく、**信仰、誠実さ、献身**にある。ハディージャは裕福であったが、彼女を尊くしたのは、その富をどう用いたかであった。

ハディージャの尊さは、あらゆる時代の学者たちによっても認められてきた。学者の中には、ハディージャとアーイシャがファーティマに次いでこのウンマの**最も優れた二人の女性**であり、それぞれに長所があるとする者もいる。ハディージャは**初期の信仰と献身**において、アーイシャは**知識とスンナの普及**においてである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：90 / 211

サウダ・ビント・ザムア：アビシニアへの移住者

サウダ・ビント・ザムア رضي الله عنها はクライシュのアーミル・ブン・ルアイ家の出身で、マッカで**早くにイスラームに入った**人々の一人である。彼女と夫の**アッ＝サクラーン・ブン・アムル**は、クライシュの迫害から信仰を守るためにアビシニアへ移住した（第 4 巻）。

マッカに戻った後、夫が亡くなり、サウダはまだ多神教徒である一族の中で**身寄りのない未亡人**となった。彼女の父自身もまだイスラームに入っていなかった。

同じ頃、アッラーの使徒 ﷺ はハディージャを亡くして悲しみの中にあり、世話を必要とする娘たちを抱えていた。スィーラの伝承によれば、**ハウラ・ビント・ハキーム** رضي الله عنها が使徒にサウダとの結婚を勧め、使徒は承諾した。結婚は**召命 10 年目**にマッカで行われた。

この結婚は、信仰のために身を捧げた**女性移住者の保護**であり、同時に、使徒の家に子どもたちの世話をする母をもたらした。サウダは**ハディージャの後の最初の妻**であり、約三年間ただ一人の妻として使徒とともにいた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

預言者の家に寄り添って

サウダはアッラーの使徒 ﷺ の家族とともにマディーナへ移住し、彼女の家は預言者のモスクのそばに建てられた**最初の部屋**の一つであった。マディーナでの苦しい初期の年月、彼女は使徒の家事を切り盛りした。

ふだんは他の妻たちに嫉妬していたアーイシャ رضي الله عنها が、サウダについてこう言った：「**サウダ・ビント・ザムアほど、その人のようになりたいと思った女性を、わたしは見たことがありません**」。彼女はやや気の強い人ではあったが（『サヒーフ・ムスリム』1463）。

この言葉は、二人の**良い関係**を示している。預言者 ﷺ の家は、嫉妬のような人間らしい感情のない家ではなかった。しかしそれは、その感情が**信仰と品性によって抑えられた**家であった。

サウダはまた**気前の良さ**で知られていた。スィーラ学者の伝えるところでは、彼女は自らの手で働いて皮をなめし、その収入を施した。ウマルが治世中にお金の入った器を彼女に送った時、彼女はそのすべてを貧しい人々に分け与えた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

寛大な心

年を重ねるにつれ、サウダは離縁されてアッラーの使徒 ﷺ の妻としての栄誉を失うことを恐れた。そこで彼女は、**知恵と寛大さ**を示す決断をした：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 5212 番

حَدَّثَنَا مَالِكُ بْنُ إِسْمَاعِيلُ، حَدَّثَنَا زُهَيْرٌ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ، أَنَّ سَوْدَةَ بِنْتَ زَمْعَةَ، وَهَبَتْ، يَوْمَهَا لِعَائِشَةَ، وَكَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَقْسِمُ لِعَائِشَةَ بِيَوْمِهَا وَيَوْمِ سَوْدَةَ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها によれば：「**サウダ・ビント・ザムアは自分の順番をアーイシャに譲った。そこで預言者 ﷺ は、アーイシャ自身の日とサウダの日をアーイシャに割り当てられた。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：マーリク・ブン・イスマーイール ← ズハイル・ブン・ムアーウィヤ ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』婚姻の書、妻が自分の順番を他の妻に譲ることの章、ハディース第 5212 番。ムスリム第 1463 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:5212

このハディースの教訓

サウダは現世の権利よりも**来世**を選んだ。イブン・アッバースの伝承によれば、彼女はこう言った：「**わたしを離縁しないでください。わたしをとどめ、わたしの順番をアーイシャのものにしてください。**」 現世でも来世でも預言者 ﷺ の妻であり続けられるなら、彼女は喜んで自分の順番を譲ったのである。

イブン・アッバースの伝承によれば、この出来事は女性章 4:128 の**夫婦の和解**に関するアッラーの御言葉と関係している：「両人の間を、和解させるのは罪ではない」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3040——サヒーフ）。イスラームは、家庭を守るために妻が自らの権利の一部を進んで手放すことを認めている。

また、アッラーの使徒 ﷺ が**サウダの決断を尊重し**、生涯の終わりまで妻としてとどめたことにも注目しよう。彼女はおろそかにされず、使徒は他の妻たちと同じように毎日彼女を訪ねた。

サウダの態度はまた**成熟**を示している。アーイシャがより若く、使徒により愛されていることを理解していた彼女は、使徒の愛する人に自分の順番を譲ることで**夫を喜ばせた**。大きな心は嫉妬に支配されない。

思い出の中のサウダ

『サヒーフ・ブハーリー』のいくつかの出来事が、サウダの思い出をとどめている。別れの巡礼の時、体が大きく動きの遅い女性であったサウダは、人々より先に**ムズダリファを早めに出発する**許しを求め、使徒はそれを許された（『サヒーフ・ブハーリー』1680）。この出来事から弱い人々のための**ルフサ（軽減措置）**が生まれ、今日の巡礼者もそれを実践している。

ヒジャーブの節が下った後、サウダは用を足すために夜に外出した。ウマルは体の大きさから彼女だと気づき、とがめた。サウダは帰ってアッラーの使徒 ﷺ に訴えると、啓示が下った：「**あなたがた（女性）は、自分の用のために外出することを許された**」（『サヒーフ・ブハーリー』4795）。

この出来事は、イスラームが**女性を閉じ込めない**ことを示している。ヒジャーブは保護であって牢獄ではない。そしてそれは、勇気をもって尋ねた預言者 ﷺ の妻の訴えから生まれたのである。

サウダ رضي الله عنها はマディーナで亡くなった——一説ではウマルの治世の終わり、別の説ではヒジュラ暦 54 年である。彼女は**誠実で、気前がよく、場を明るくする妻**として記憶されている。スィーラ学者たちは、彼女が時々冗談でアッラーの使徒 ﷺ を微笑ませたと述べている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

アーイシャ：スィッディークの娘

アーイシャ・ビント・アビー・バクル・アッ＝スィッディーク رضى الله عنها は、アッラーの使徒 ﷺ を最も早く真実と認めた男性の家に、イスラームの中で生まれた。母はウンム・ルーマーンである。彼女は偶像崇拝を知らなかった。彼女は言った。「わたしは、両親がこの宗教を奉じている姿しか知りません。」

アーイシャが預言者 ﷺ の妻に選ばれたことは、**アッラーの導き**によるものであった：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3895 番

حَدَّثَنَا مُعَلَّى، حَدَّثَنَا وُهَيْبٌ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ لَهَا أُرِيتُكِ فِي الْمَنَامِ مَرَّتَيْنِ، أَرَى أَنَّكِ فِي سَرَقَةٍ مِنْ حَرِيرٍ وَيَقُولُ هَذِهِ امْرَأَتُكَ فَاكْشِفْ عَنْهَا فَإِذَا هِيَ أَنْتِ فَأَقُولُ إِنْ يَكُ هَذَا مِنْ عِنْدِ اللَّهِ يُمْضِهِ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها によれば、預言者 ﷺ は彼女に言われた：「**あなたは夢の中で二度、わたしに示された。** 絹の布に包まれたあなたを見た。（天使が）『これはあなたの妻です。覆いを取りなさい』と言った。覆いを取ると、それはあなただった。そこでわたしは言った。『**もしこれがアッラーからのものであるなら、アッラーはそれを実現されるだろう。**』」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムアッラー・ブン・アサド ← ウハイブ・ブン・ハーリド ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アンサールの美徳の書、預言者 ﷺ とアーイシャの結婚の章、ハディース第 3895 番。第 5125 番、およびムスリム第 2438 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3895

このハディースの教訓

預言者たちの夢は啓示である。したがってこの結婚は単なる個人的な選択ではなく、**アッラーの定め**であった。そして使徒の作法に注目しよう。「もしこれがアッラーからのものであるなら、アッラーはそれを実現されるだろう」――使徒は急がず、**アッラーに委ねられた**のである。

アッラーの使徒 ﷺ は、彼女に子がいなかったにもかかわらず、甥のアブドッラー・ブン・アッ＝ズバイルにちなんで**ウンム・アブディッラー**というクンヤ（呼び名）を与えた（『スナン・アビー・ダーウード』4970――サヒーフ）。アーイシャは使徒の妻の中でただ一人の**処女**であった。

アーイシャはまた、アッラーの使徒 ﷺ が**自分の衣を縫い、履物を繕って**いたこと（『ムスナド・アフマド』――サヒーフ）、そして**家事を手伝って**いたこと（『サヒーフ・ブハーリー』676）を伝えている。今日わたしたちが知る預言者 ﷺ の家庭の姿の多くは、アーイシャの伝承から来ている。

愛に満ちた家庭

婚約（ニカーフの契約）はヒジュラ前にマッカで結ばれ、アーイシャはマディーナで**ヒジュラ暦 1 年または 2 年のシャウワール月**に使徒と暮らし始めた（『サヒーフ・ブハーリー』5133）。アーイシャは言った。「アッラーの使徒 ﷺ はシャウワール月にわたしと結婚し、シャウワール月にわたしと暮らし始められました。使徒の妻の中で、わたし以上に使徒のもとで恵まれた人がいたでしょうか。」（『サヒーフ・ムスリム』1423）。こうして彼女は、シャウワールを結婚に不吉な月とする**ジャーヒリーヤの迷信を退けた**。

> **スィーラの注：アーイシャの年齢について**
>
> 『サヒーフ・ブハーリー』5133 と『サヒーフ・ムスリム』1422 のハディースは、アーイシャが婚約の時に六歳、使徒と暮らし始めた時に九歳であったと述べている。これが真正な伝承であり、大多数の学者が拠っている見解である。
>
> 七世紀のアラブ社会、そして当時の世界の多くの社会では、**成熟は年齢ではなく成年（バリーグ）によって測られた**。今日とは異なる。使徒の落ち度を探し求めていた当時のイスラームの敵の誰一人として、この結婚を非難の材料にしなかった。それが彼らの社会において**ごく普通のこと**だったからである。今日の結婚の規定は、公益（マスラハ）とそれぞれの国の法律に従う。
>
> **参照：**
> イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』婚姻の書；ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』婚姻の書。

二人の家庭は**親しみ**に満ちていた。アーイシャは、自分が器から飲むと、使徒がそれを取り、**彼女が口をつけた所に口をつけて**飲んだと伝えている（『サヒーフ・ムスリム』300）。使徒は彼女と駆けっこもした。最初はアーイシャが勝ち、二度目は使徒が勝って、「これはこの前のお返しだ」と言われた（『スナン・アビー・ダーウード』2578――サヒーフ）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

使徒はまた**彼女の気持ちを理解していた**。使徒は彼女に言われた。「あなたがわたしに満足している時と怒っている時が、わたしには分かる。」どうしてかと尋ねられると、使徒は答えられた。「満足している時は『いいえ、ムハンマドの主にかけて』と言い、怒っている時は『いいえ、イブラーヒームの主にかけて』と言う。」アーイシャは答えた：「**その通りです、アッラーの使徒よ。わたしが離れるのはあなたのお名前だけです**」（『サヒーフ・ブハーリー』5228）。

最も愛された人

アムル・ブン・アル＝アース رضى الله عنه はアッラーの使徒 ﷺ に尋ねた：「**あなたが最も愛する人は誰ですか。**」 使徒は答えられた：「**アーイシャだ。**」 アムルは尋ねた。「男性の中では？」 使徒は答えられた：「**その父だ。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3662）。

使徒は教友たちの前で妻への愛を口にすることを恥じなかった。これは夫たちにとって大切な教訓である：**妻への愛情は弱さではなく**、むしろ尊いスンナである。

使徒はまた言われた：「**他の女性たちに対するアーイシャの優越は、他の食べ物に対するサリードの優越のようなものである**」（『サヒーフ・ブハーリー』3770）。サリードとは肉の汁に浸したパンで、当時のアラブ人にとって最も好まれ、最も滋養のある食べ物であった。

教友たちはこの地位を知っていた。彼らは使徒がその日を喜ばれることを知っていたので、わざわざ**アーイシャの順番の日に**使徒へ贈り物を送った（『サヒーフ・ブハーリー』2581）。そして最後に、アッラーの使徒 ﷺ はアーイシャの家で看病されることを選び、**彼女の膝に頭を乗せて**亡くなられた（第 30 巻）。

アーイシャが友だちと人形で遊んでいる時、使徒はそれを禁じず、むしろ**友だちが遊びに来るのを許された**（『サヒーフ・ブハーリー』6130）。使徒はまだ若い妻の必要を理解しておられた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：100 / 211

中傷事件（イフク）

大きな愛は大きな試練によって試される。ムスタリク族の遠征（ヒジュラ暦 5 年または 6 年）の後、アーイシャはなくした首飾りを探していて一行から取り残された。教友の**サフワーン・ブン・アル＝ムアッタル**が彼女を見つけ、自分のラクダに乗せて連れ帰った（『サヒーフ・ブハーリー』4750）。

アブドッラー・ブン・ウバイイに率いられた偽信者たちは、アーイシャの名誉に対する卑劣な**中傷**を広めた。中傷が広まった一か月の間、啓示は下らず、アーイシャは何が言われているのかも知らずに病に伏した。それを知ると、彼女は夜も昼も泣き続けた。

アッラーの使徒 ﷺ が彼女に尋ねると、アーイシャは預言者ヤアクーブ عَلَيْهِ السَّلَامُ の言葉で答えた：「**（わたしには）見事な忍耐あるのみ。あなたがたの言うことに対しては、アッラーに御助けを請うばかり**」（『サヒーフ・ブハーリー』4750）。彼女は誓いによって身の潔白を訴えるのではなく、**ひたすらアッラーに頼った**のである。

そしてアッラーは、七つの天の上から彼女の潔白を示す御光章の十の節を下された：「**本当にこの虚言を広めた者は、あなたがたの中の一団である。これをあなたがたへの災いと思ってはならない。いや、それはあなたがたのため良いことである。**」（御光章 24:11）— 『イブン・カスィール注釈』24:11。

この出来事はウンマに**大きな教訓**を残した：証拠なしに告発を広めることは禁じられ、信者同士は互いに善意をもって考えなければならず（御光章 24:12）、アッラーは不当に扱われた者を守られる。学者たちは、これらの節が下った後にアーイシャを告発する者は**クルアーンを否定した**ことになると一致している。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：101 / 211

ジブリールからの挨拶

アッラーから挨拶を受けたハディージャのように、アーイシャも**ジブリールからの挨拶**を受けた：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3768 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ بُكَيْرٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ يُونُسَ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، قَالَ أَبُو سَلَمَةَ إِنَّ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمًا يَا عَائِشُ، هَذَا جِبْرِيلُ يُقْرِئُكِ السَّلاَمَ. فَقُلْتُ وَعَلَيْهِ السَّلاَمُ وَرَحْمَةُ اللَّهِ وَبَرَكَاتُهُ، تَرَى مَا لاَ أَرَى. تُرِيدُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم.

訳：

アブー・サラマによれば、アーイシャ رضى الله عنها は言った。ある日アッラーの使徒 ﷺ が言われた：「**アーイシュよ、ジブリールがあなたに挨拶を送っている。**」わたしは答えた：「**ワ・アライヒッサラーム・ワ・ラフマトゥッラーヒ・ワ・バラカートゥフ（彼の上にも平安とアッラーの慈悲と祝福がありますように）。**」あなた（アッラーの使徒）には、わたしに見えないものが見えるのですね。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤフヤー・ブン・ブカイル ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← ユーヌス・ブン・ヤズィード ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アブー・サラマ・ブン・アブドゥッラフマーン ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』預言者 ﷺ の教友たちの美徳の書、アーイシャの美徳の章、ハディース第 3768 番。ムスリム第 2447 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3768

このハディースの教訓

使徒の親しみのこもった呼びかけに注目しよう：「**アーイシュよ**」——愛情のしるしとして名前を縮めて呼んだのである。そしてアーイシャの作法にも注目しよう。彼

女は「ワ・ラフマトゥッラーヒ・ワ・バラカートゥフ」と**より丁寧に**挨拶を返し、「更に丁重な挨拶をするか、または同様の挨拶を返せ」（女性章 4:86）というアッラーの御言葉を実践した。

使徒ご自身がウンム・サラマに、**アッラーの使徒 ﷺ に啓示が下るのは、アーイシャの掛け布の中にいる時であり**、それは他の妻たちには起こらない特別なことだと説明された（『サヒーフ・ブハーリー』2581）。彼女の家は**啓示の下る場所**であり、ついには使徒の眠る場所となった。

アーイシャ自身はとても**謙虚**であった。彼女の潔白を示す節が下った時、母は立ってアッラーの使徒 ﷺ に礼を言うよう促したが、彼女は言った：「**アッラーにかけて、わたしは使徒のもとに立ちません。わたしが讃えるのはアッラーだけです**」（『サヒーフ・ブハーリー』4750）。

このジブリールからの挨拶はまた、御光章の節が地上での彼女の潔白を示すのと同じく、**天におけるアーイシャの地位**をも示している。天使たちが彼女を知り敬っているのだから、信者が彼女を貶めることはふさわしくない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・バクル家の祝福

ある旅で、アーイシャの首飾りがまたなくなった。アッラーの使徒 ﷺ と教友たちは、**水のない**場所に止まってそれを探した。礼拝の時刻が来て、人々はアブー・バクルに不満を訴え、アブー・バクルはみなを困らせたと娘を叱った（『サヒーフ・ブハーリー』334）。

そこでアッラーは**タヤンムム（砂による清め）の節**を下された。ウサイド・ブン・フダイル رضي الله عنه は言った：「**アブー・バクルの家の人々よ、これはあなたがたの最初の祝福ではない。**」 アーイシャのラクダを立たせると、首飾りはその下から見つかった（『サヒーフ・ブハーリー』334）。

一つの小さな困難から、最後の審判の日まで続く**ウンマ全体のための容易さ**が生まれた。水が得られない者はタヤンムムをしてよい。これは、困難の陰にアッラーがしばしば**思いもよらない慈悲**を蓄えておられることを教えている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウンマの師

アーイシャ رضى الله عنها は**最も多くのハディースを伝えた人**の一人となった——二千以上のハディースが彼女から伝えられている。彼女は妻だけが知りうる事柄を伝えた：使徒の夜の礼拝、沐浴の仕方、斎戒、そして家の中での使徒の人柄である。

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه は言った：「**わたしたちアッラーの使徒 ﷺ の教友が、あるハディースについて分からないことがあってアーイシャに尋ねると、必ず彼女のもとにその知識があった**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3883——ハサン）。

彼女はまた**深い理解力**で知られていた。一部の教友のハディースの理解を正し、帳の後ろから女性にも男性にも教え、**約 50 年**にわたってアッラーの使徒 ﷺ の亡き後を生き、タービウーン（次世代）に知識を伝えた。

アーイシャは**ヒジュラ暦 57 年または 58 年のラマダーン月**にマディーナで亡くなり、バキーウに葬られた。彼女が病床にあった時、イブン・アッバースが見舞って言った。「信徒の母よ、あなたは真実なる先人たち、アッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクルのもとへ行かれるのです」（『サヒーフ・ブハーリー』3771）。

スィーラ学者たちはまた、アーイシャの**気前の良さ**を伝えている。ある時、多くの財産を受け取った彼女は、自分が斎戒中であったにもかかわらず、その日のうちにすべてを貧しい人々に分け与え、断食明けのための物が何も残らなかった。知識と寛大さが彼女の中で一つになっていた。

ハフサ・ビント・ウマル

ハフサ・ビント・ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنها は、召命の約五年前に生まれた。彼女は、移住者でありバドルの戦いに参加した教友**フナイス・ブン・フザーファ・アッ＝サハミー**と結婚した。フナイスはマディーナで亡くなり、ハフサは若くして未亡人となった。

思いやりのある父であったウマルは、娘のために良い夫を探そうとした：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4005 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي سَالِمُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، أَنَّهُ سَمِعَ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ يُحَدِّثُ أَنَّ عُمَرَ بْنَ الْخَطَّابِ حِينَ تَأَيَّمَتْ حَفْصَةُ بِنْتُ عُمَرَ مِنْ خُنَيْسِ بْنِ حُذَافَةَ السَّهْمِيِّ وَكَانَ مِنْ أَصْحَابِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَدْ شَهِدَ بَدْرًا تُوُفِّيَ بِالْمَدِينَةِ قَالَ عُمَرُ فَلَقِيتُ عُثْمَانَ بْنَ عَفَّانَ فَعَرَضْتُ عَلَيْهِ حَفْصَةَ فَقُلْتُ إِنْ شِئْتَ أَنْكَحْتُكَ حَفْصَةَ بِنْتَ عُمَرَ. قَالَ سَأَنْظُرُ فِي أَمْرِي. فَلَبِثْتُ لَيَالِيَ، فَقَالَ قَدْ بَدَا لِي أَنْ لاَ أَتَزَوَّجَ يَوْمِي هَذَا. قَالَ عُمَرُ فَلَقِيتُ أَبَا بَكْرٍ فَقُلْتُ إِنْ شِئْتَ أَنْكَحْتُكَ حَفْصَةَ بِنْتَ عُمَرَ. فَصَمَتَ أَبُو بَكْرٍ، فَلَمْ يَرْجِعْ إِلَىَّ شَيْئًا، فَكُنْتُ عَلَيْهِ أَوْجَدَ مِنِّي عَلَى عُثْمَانَ، فَلَبِثْتُ لَيَالِيَ، ثُمَّ خَطَبَهَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَنْكَحْتُهَا إِيَّاهُ، فَلَقِيَنِي أَبُو بَكْرٍ فَقَالَ لَعَلَّكَ وَجَدْتَ عَلَىَّ حِينَ عَرَضْتَ عَلَىَّ حَفْصَةَ فَلَمْ أَرْجِعْ إِلَيْكَ قُلْتُ نَعَمْ. قَالَ فَإِنَّهُ لَمْ يَمْنَعْنِي أَنْ أَرْجِعَ إِلَيْكَ فِيمَا عَرَضْتَ إِلاَّ أَنِّي قَدْ عَلِمْتُ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَدْ ذَكَرَهَا، فَلَمْ أَكُنْ لأُفْشِيَ سِرَّ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، وَلَوْ تَرَكَهَا لَقَبِلْتُهَا.

訳：

アブドッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما によれば、ウマル・ブン・アル＝ハッターブは言った。ハフサ・ビント・ウマルが、フナイス・ブン・フザーファ・アッ＝サハミー——バドルに参加し、マディーナで亡くなったアッラーの使徒 ﷺ の教友——を亡くして未亡人となった時、わたしはウスマーン・ブン・アッファーンに会い、ハフサを妻にどうかと申し出た。彼は「考えておこう」と言った。数夜の後、彼は「今は結婚しないでお

こうと思う」と言った。そこでわたしはアブー・バクルに会ってハフサを申し出たが、**アブー・バクルは黙って**何も答えなかった。わたしはウスマーンよりも彼に対して気を悪くした。数夜の後、**アッラーの使徒 ﷺ がハフサに求婚され**、わたしは彼女を使徒に嫁がせた。その後アブー・バクルがわたしに会って言った。「わたしに気を悪くしたのではないか。」わたしは「そうだ」と答えた。彼は言った：**「あなたの申し出に答えなかったのは、アッラーの使徒 ﷺ が彼女のことを口にされたのを知っていたからにほかならない。わたしはアッラーの使徒 ﷺ の秘密を明かしたくなかった。もし使徒が彼女を娶られなかったなら、わたしは受け入れていただろう。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン・アル＝ハカム・ブン・ナーフィウ ← シュアイブ・ブン・アビー・ハムザ ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← サーリム・ブン・アブドッラー・ブン・ウマル ← アブドッラー・ブン・ウマル رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』諸遠征の書、ハディース第 4005 番。第 5122 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4005

このハディースの教訓

このハディースは教訓に満ちている。父親は娘を**善良な男性に申し出てもよい**。それは恥ずべきことではない。そして**アブー・バクルの誠実さ**を見てほしい。彼はアッラーの使徒 ﷺ の秘密を守るために、親友から悪く思われることも厭わなかった。

アッラーの使徒 ﷺ は**ヒジュラ暦 3 年**にハフサと結婚した。この結婚によって、使徒はアブー・バクルの娘婿となったのと同じく、ウマルの娘婿となり、最も優れた二人の教友との**絆を強めた**。

アブー・バクルの忍耐もまた**報われた**。彼は秘密を明かさず、最後には自らウマルに説明した。二人の友情は続き、二人ともアッラーの使徒 ﷺ のかたわらに葬られている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：107 / 211

クルアーンの写本の守り手

ハフサは、当時**読み書きができた**数少ない女性の一人であった。アッラーの使徒 ﷺ はアッ＝シファー・ビント・アブドッラーに言われたことがある。「彼女に書くことを教えたように、なぜアリ（ナムラ）のルクヤも教えないのか」（『スナン・アビー・ダーウード』3887――サヒーフ）。

この技能と与えられた信頼によって、ハフサは**クルアーンの写本の守り手**となった。ヤマーマの戦いで多くのクルアーン暗記者が殉教した後、アブー・バクルはザイド・ブン・サービトにクルアーンを紙葉（スフフ）にまとめるよう命じた（『サヒーフ・ブハーリー』4986）

ザイドは言った：「**その紙葉はアブー・バクルが亡くなるまで彼のもとにあり、その後ウマルの存命中は彼のもとに、その後ハフサ・ビント・ウマルのもとにあった**」（『サヒーフ・ブハーリー』4986）。ウスマーンがイスラームの各地に送るために写本を作った時、ハフサからその紙葉を借り、その後返した（『サヒーフ・ブハーリー』4987）。

この信託を想像してみてほしい。**クルアーンの原本**――アッラーの使徒 ﷺ の逝去後にまとめられたもの――が、一人の女性の家に保管されていたのである。今日わたしたちが読むすべての写本は、ハフサ رضي الله عنها がかつて守った紙葉とつながっている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

崇拝に励む人

ハフサは**多くの崇拝**で知られていた：よく斎戒し、よく夜に起きて礼拝した。アーイシャと同じく、父から受け継いだ気の強さもあり、その家庭生活にも夫婦間のふつうの試練がなかったわけではない。

スィーラの注：「彼女はよく斎戒し、よく夜に礼拝する」

アッラーの使徒 ﷺ はかつてハフサを取り消し可能な離縁（ラジュイー）で離縁し、その後復縁された（『スナン・アビー・ダーウード』2283——サヒーフ）。ハーキムとタバラーニーの伝承では、ジブリールが使徒に言った。「ハフサと復縁しなさい。彼女は**よく斎戒し、よく夜に礼拝する**人であり、**天国でのあなたの妻**だからです。」

このジブリールの伝承は、伝承経路の裏付けによって一部の学者——その中にアルバーニー（『サヒーフ・アル＝ジャーミウ』4351）がいる——から**ハサン（良好）**と評価されている。その意味は、ハフサの崇拝について知られていることと合致している。

参照：

『スナン・アビー・ダーウード』2283；ハーキム『アル＝ムスタドラク』；アルバーニー『サヒーフ・アル＝ジャーミウ・アッ＝サギール』4351。https://sunnah.com/abudawud:2283

この話から、家庭の中での**過ちや争い**がその人の尊さを否定するものではないことを学ぶ。大切なのは**善に立ち返る**ことであり、アッラーはその人の崇拝の全体を見ておられる。

ハフサは約 **60 のハディース**をアッラーの使徒 ﷺ から伝え、ムアーウィヤの時代まで生きた。彼女は**ヒジュラ暦 41 年または 45 年**にマディーナで亡くなり、バキーウに葬られた。

ハフサの物語はまた、任意の斎戒や夜の礼拝といった**個人的な崇拝**こそ信者の真の装いであることを思い起こさせる。それは人には見えないが、アッラーには見え、天使たちによって語られる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ザイナブ・ビント・フザイマ：貧しい者たちの母

ザイナブ・ビント・フザイマ・アル＝ヒラーリーヤ رضى الله عنها は、ジャーヒリーヤの時代からすでに**ウンム・アル＝マサーキーン**——貧しい者たちの母——という呼び名で知られていた。困っている人々に多くの食べ物を与え、施しをしていたからである。

彼女の夫は**ウフドの戦いで殉教した**（ヒジュラ暦 3 年）。よく知られた見解では、その夫はアブドッラー・ブン・ジャハシュ رضى الله عنه である。アッラーの使徒 ﷺ はその後、**殉教者の未亡人の保護**として彼女と結婚された。

しかし彼女が使徒とともに暮らしたのは**わずか数か月**で、その後亡くなった。アッラーの使徒 ﷺ 自ら彼女の葬儀の礼拝を行い、バキーウに葬られた。ハディージャを除けば、彼女は**使徒の存命中に亡くなった唯一の妻**である。

スィーラの注：ザイナブ・ビント・フザイマに関する伝承

ザイナブ・ビント・フザイマは早くに亡くなったため、彼女についての情報はごくわずかである。スィーラ学者たちは、前夫の名（アブドッラー・ブン・ジャハシュかアッ＝トゥファイル・ブン・アル＝ハーリスか）、結婚の年（ヒジュラ暦 3 年か 4 年か）、アッラーの使徒 ﷺ とともにいた期間（二か月から八か月）について見解が分かれている。

一致していること：彼女は**ウンム・アル＝マサーキーン**と呼ばれ、戦死または死去したムスリムの未亡人であり、アッラーの使徒 ﷺ の存命中に亡くなった。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）——アッラーの使徒 ﷺ の結婚の章；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

短いとはいえ、ザイナブの物語は**良い名は行いによって築かれる**ことを教えている。彼女は有名なハディースを伝えたわけでも、大きな出来事に関わったわけでもないが、**貧しい人々への寛大さ**ゆえにその名は残っている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

預言者の妻たちの選択

ハイバルの征服の後、ムスリムの暮らしは楽になり、預言者 ﷺ の妻たちは**生活費の増額**を求めた。アッラーの使徒 ﷺ は悲しまれ、一か月間妻たちから離れて過ごされた（『サヒーフ・ムスリム』1478）。そこでアッラーは次の節を下された：

「預言者よ、あなたの妻たちに言ってやるがいい。『もしあなたがたが、現世の生活とその煌びやかさを望むなら来るがいい。わたしは贈り物を与えて、立派に別れよう。』」（部族連合章 33:28）— 『イブン・カスィール注釈』33:28。

「だがあなたがたがもしアッラーとその預言者、そして来世の住まいを求めるならば、あなたがたの中で善行に勤しむ者には、アッラーは偉大な報奨を準備して下さっている。」（部族連合章 33:29）— 『イブン・カスィール注釈』33:29。

アッラーの使徒 ﷺ はアーイシャから始められた：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4785 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَبُو سَلَمَةَ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، أَنَّ عَائِشَةَ، رضى الله عنها زَوْجَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم أَخْبَرَتْهُ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم جَاءَهَا حِينَ أَمَرَ اللَّهُ أَنْ يُخَيِّرَ أَزْوَاجَهُ، فَبَدَأَ بِي رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ إِنِّي ذَاكِرٌ لَكِ أَمْرًا فَلاَ عَلَيْكِ أَنْ تَسْتَعْجِلِي حَتَّى تَسْتَأْمِرِي أَبَوَيْكِ، وَقَدْ عَلِمَ أَنَّ أَبَوَىَّ لَمْ يَكُونَا يَأْمُرَانِي بِفِرَاقِهِ، قَالَتْ ثُمَّ قَالَ إِنَّ اللَّهَ قَالَ {يَا أَيُّهَا النَّبِيُّ قُلْ لأَزْوَاجِكَ}. إِلَى تَمَامِ الآيَتَيْنِ فَقُلْتُ لَهُ فَفِي أَيِّ هَذَا أَسْتَأْمِرُ أَبَوَىَّ فَإِنِّي أُرِيدُ اللَّهَ وَرَسُولَهُ وَالدَّارَ الآخِرَةَ.

訳：

預言者 رضى الله عنها の妻アーイシャ ﷺ によれば：アッラーが妻たちに選択を与えるよう命じられた時、アッラーの使徒 ﷺ は彼女のもとに来られた。アッラーの使徒 ﷺ はわたしから始めて言われた。「あなたに一つのことを話そう。両親に相談するまでは急いで答えなくてよい。」使徒は、わたしの両親がわたしに使徒と別れるよう勧めるはずがないことを知っておられた。それから使徒は「預言者よ、あなたの妻たちに言ってやるがい

い……」というアッラーの御言葉を、二つの節の終わりまで読まれた。わたしは言った：「**このことで、どうして両親に相談する必要があるでしょう。わたしが望むのはアッラーとその使徒、そして来世の住まいです。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン・アル＝ハカム・ブン・ナーフィウ ← シュアイブ・ブン・アビー・ハムザ ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アブー・サラマ・ブン・アブドッラフマーン ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン解釈の書、「預言者よ、あなたの妻たちに言ってやるがいい」というアッラーの御言葉の章、ハディース第 4785 番。ムスリム第 1475 番にもある。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4785

このハディースの教訓

アーイシャは一瞬もためらわなかった：「**わたしが望むのはアッラーとその使徒、そして来世の住まいです。**」 その後、使徒の他の妻たちもみな**同じ選択**をした。現世を選んだ者は一人もいなかった。

これこそが彼女たちの尊さの秘密である。彼女たちは小さな部屋に住み、時には二か月も煮炊きの火がなかったが、**とどまることを選んだ**。彼女たちの尊さは財産によるのではなく、**心の選択**によるのである。

彼女たちの家はとても質素であった。アーイシャは、アッラーの使徒 ﷺ の家々では時に二か月も煮炊きの火が灯されず、ナツメヤシの実と水で暮らしたと述べている（『サヒーフ・ブハーリー』2567）。それでも彼女たちは、その選択を悔やまなかった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

預言者 ﷺ の家庭の中の嫉妬

預言者 ﷺ の妻たちは高貴な女性であったが、それでも**人間**であった。彼女たちには感情があり、その中には**嫉妬**もあった。クルアーンもハディースもこのことを隠さない。むしろ、アッラーの使徒 ﷺ がそれにどう対処されたかを学べるよう、ありのままに語っている。

アナス رضى الله عنه は伝えている。預言者 ﷺ が妻の一人の家におられた時、別の妻が食べ物の皿を届けさせた。使徒がいた家の妻は**使用人の手を打ち**、皿は落ちて割れた。預言者 ﷺ は皿のかけらを集め、その上に食べ物を拾い集めながら言われた：**「あなたがたの母は嫉妬したのだ。」**（『サヒーフ・ブハーリー』5225）。

使徒の**落ち着き**を見てほしい。使徒は叱らず、人前で妻に恥をかかせることもなく、むしろ**彼女のために言い訳を見つけられた**：「あなたがたの母は嫉妬したのだ。」そして、食べ物を届けた妻の権利が失われないよう、割れた皿を良い皿に取り替えられた。

使徒の妻たちはかつて**二つのグループ**に分かれ、人々からの贈り物について公平にするよう求めて、ウンム・サラマを、次いでファーティマを使徒のもとに送った（『サヒーフ・ブハーリー』2581）。使徒は忍耐強く耳を傾け、実際の状況を説明され、誰に対しても決して不当なことはされなかった。

わたしたちへの教訓：嫉妬は**人間の本性（フィトラ）**であるが、不正につながらないよう**抑えなければならない**。そして賢い夫は、怒りではなく**優しさと公正さ**によって妻の気持ちに対処する。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

使徒の妻たちへの祝福の祈り

アッラーの使徒 ﷺ への祝福を祈るたびに、わたしたちは実は**使徒の妻たち**のためにも祈っている。教友たちが尋ねた。「アッラーの使徒よ、わたしたちはどのようにあなたへの祝福を祈ればよいでしょうか。」使徒は答えられた：「**こう言いなさい。アッラーよ、イブラーヒームの家族を祝福されたように、ムハンマドとその妻たちとその子孫を祝福してください……**」（『サヒーフ・ブハーリー』3369）。

このハディースは、使徒の妻たちが祝福の祈りの中で祈られる**家族の一員**であることを示しており、彼女たちが使徒の**家の者（アフル・アル＝バイト）**に含まれることの明白な証拠である。

したがって、彼女たちに対するわたしたちの作法は：**彼女たちを善く語り**、アッラーのご満悦を祈り、その物語と伝承を学び、あらゆる罵りから**その名誉を守る**ことである。彼女たちを愛することは、アッラーの使徒 ﷺ を愛することの一部である。

子どもたちにも彼女たちの名を教えよう。**ハディージャ、サウダ、アーイシャ、ハフサ**、そして他の母たちを知る世代は、今日の芸能界やメディアの人物よりもはるかに気高い**女性の模範**とともに育つだろう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

今日の家庭のための模範

アッラーは、信仰する男性と女性に同じ報いを約束された：「**本当にムスリムの男と女、信仰する男と女**」（部族連合章 33:35） — 『イブン・カスィール注釈』33:35。

この節は、信仰する女性たちが、なぜクルアーンは男性のことを多く述べて女性のことを述べないのかと尋ねた時に下った——その中には**ウンム・ウマーラ・アル＝アンサーリーヤ**（『ジャーミウ・ティルミズィー』3211——ハサン）、また別の伝承では**ウンム・サラマ** رضى الله عنها がいた。本巻の五人の女性は、信仰する女性がさまざまな形で**尊さに到達する**ことの生きた例を示している：

ハディージャ——夫を支え、宣教のために財産を捧げることによって。**サウダ——寛大さ**と来世を優先することによって。**アーイシャ——知識**とウンマへの教えによって。**ハフサ——崇拝**とクルアーンの信託を守ることによって。**ザイナブ・ビント・フザイマ**——貧しい人々への**施し**によって。

夫たちにとっては、アッラーの使徒 ﷺ こそ最良の模範である：亡き妻に**誠実**であり、妻たちの間で**公正**であり、**親しみ深く**愛情を口にすることを恥じず、妻の気持ちを**理解し**、家事を**手伝う**。使徒は言われた。「あなたがたの中で最も良い者は、家族に最も良く接する者である。そしてわたしは、あなたがたの中で家族に最も良く接する者である」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3895——サヒーフ）。

五人の信徒の母の一覧表

これまでの章では、五人の信徒の母の物語を一人ずつ語ってきた。本章では、読者が容易に比べられるよう、彼女たちの基本的な情報を一つの表にまとめる：家系、アッラーの使徒 ﷺ との結婚前の状況、結婚の年、逝去の年である。

この表の年は、スィーラ書とタバカート（列伝）書でよく知られた見解である。その一部は歴史家の間で見解が分かれており、その相違は関連する章の「スィーラの注」の枠で述べている。

信徒の母	家系	結婚前	結婚	逝去と墓所
ハディージャ・ビント・フワイリド	クライシュ族アサド家	未亡人（二度）	召命の 15 年前、マッカにて	召命 10 年目；マッカのアル＝ハジューン
サウダ・ビント・ザムア	クライシュ族アーミル・ブン・ルアイ家	未亡人；アビシニアへの移住者	召命 10 年目、マッカにて	ウマルの治世の終わり（別説ではヒジュラ暦 54 年）；バキーウ
アーイシャ・ビント・アビー・バクル	クライシュ族タイム家	処女	婚約はマッカにて；同居はヒジュラ暦 1 年または 2 年のシャウワール月	ヒジュラ暦 57 年または 58 年のラマダーン月；バキーウ
ハフサ・ビント・ウマル	クライシュ族アディー家	フナイス・ブン・フザーファの未亡人	ヒジュラ暦 3 年、マディーナにて	ヒジュラ暦 41 年または 45 年；バキーウ
ザイナブ・ビント・フザイマ	ヒラール・ブン・アーミル族	殉教者の未亡人	ヒジュラ暦 3 年または 4 年、マディーナにて	数か月後；バキーウ

この表から、五人の妻のうち四人がクライシュの出身であり、五人のうち四人が未亡人であったことが分かる。処女はアーイシャだけである。二人がアッラーの使徒

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ﷺ の存命中に亡くなった——マッカのハディージャとマディーナのザイナブ・ビント・フザイマ——が、アッラーの使徒 ﷺ は二人の埋葬を自ら執り行われた。

スィーラの注：ハディージャの埋葬

イブン・サアドの伝承によれば、アッラーの使徒 ﷺ 自らアル＝ハジューンのハディージャの墓穴に降りられた。当時はまだ葬儀の礼拝が定められていなかったので、彼女は葬儀の礼拝なしに埋葬された。

この伝承は、真正なハディース集からではなく、スィーラ書とタバカート書から来ている。しかし、知られていることとは矛盾しない。葬儀の礼拝はマディーナで定められたからである。

参照：イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』第 8 巻；ザハビー『高貴なる人々の伝記（スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー）』第 2 巻；イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』。

教訓

わたしたちの母たちは、さまざまな背景から来ていた。裕福な商人、夫を失った移住者、最も親しい教友の娘、バドルの戦士の未亡人、そして施しで知られた女性。アッラーの使徒 ﷺ の家は彼女たちすべてを迎え入れ、一人一人がその尊い場所を得た。

これはまた、イスラームにおける女性の価値が、処女か未亡人か、裕福か貧しいか、若いか年長かによってではなく、信仰と行いによって測られることを教えている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

預言者 ﷺ の妻たちに関するクルアーンの節

クルアーンが預言者 ﷺ の妻たちほど多く言及した女性の集団はない。彼女たちに関する節は単なる物語ではなく、どの節もウンマ全体のための規定と教訓を含んでいる。下の表は主な節をまとめたもので、その一部はこれまでの章で説明した。

節	内容の要約	教訓
部族連合章 33:6	預言者の妻たちは信徒の母である	敬わなければならない；使徒の後に結婚することは禁じられる
部族連合章 33:28–29	現世か来世かの選択	全員がアッラーとその使徒と来世を選んだ（第 27 章）
部族連合章 33:30–31	報奨も罪も二倍になる	高い地位は重い信託を伴う
部族連合章 33:32–33	他の女性とは異なる；家の者は清められる	話し方、装い、家にとどまることの作法（第 2 章）
部族連合章 33:34	あなたがたの家で読誦されるアッラーの印と英知を銘記せよ	彼女たちはクルアーンとスンナの伝え手である
部族連合章 33:50	預言者 ﷺ の婚姻に関する特有の規定	使徒の特例（フスースィーヤ）であり、ウンマのためではない
部族連合章 33:51	順番についての緩和	緩和を与えられても使徒は公正であった
部族連合章 33:52	妻を増やすことも替えることも禁じられる	使徒の結婚が欲望によるものではない証拠
部族連合章 33:53	帳の後ろから尋ねる；使徒の後に結婚することは禁じられる	第 32B 巻で説明
御光章 24:11–20	中傷からのアーイシャの潔白	証拠なしの告発は禁じられる（第 19 章）
禁止章 66:1–5	二人の妻への戒め	悔悟と善への立ち返り

学びの場としての家：部族連合章 33:34

アッラーは預言者 ﷺ の妻たちに仰せられた：「あなたがたの家で読誦される、アッラーの印と英知を銘記せよ」（部族連合章 33:34） — 『イブン・カスィール注釈』33:34。

イブン・カスィールは、カターダや初期の学者たちから、この節の「英知（ヒクマ）」とはスンナのことであると引用している。したがって預言者 ﷺ の妻たちは、聞いたことを実践するだけでなく、それを銘記し伝えるよう命じられたのである。第 33 章は、この命令がどのように果たされたかを示している。

特例と禁止：部族連合章 33:50–52

アッラーはアッラーの使徒 ﷺ に、ウンマには許されない結婚を許され、こう明言された：「これはあなただけの（特例）で、外の信者たちには許されない」（部族連合章 33:50）。

次の節は、順番について使徒に緩和を与えた（部族連合章 33:51）。アーイシャは、この節が下った後も、アッラーの使徒 ﷺ は別の妻の家へ行こうとする時、順番の日にあたる妻に許しを求められたと伝えている（『サヒーフ・ブハーリー』4789）。緩和はアッラーが与えられたが、使徒は公正を選ばれたのである。

そしてアッラーは仰せられた：「あなたはこの後、女（を娶ること）もまた妻たちを取り替えることも許されない。仮令その美貌があなたの気をひいても」（部族連合章 33:52） — 『イブン・カスィール注釈』33:52。イブン・カスィールは、この節は使徒の妻たちがアッラーとその使徒を選んだことへの報いであると述べている。

禁止章の出来事（66:1–5）

アッラーは仰せられた：「預言者よ、アッラーがあなたのために合法とされていることを（アッラーの御好意を求めるためではなく）只あなたの妻たちの御機嫌をと

る目的だけで何故自ら禁止するのか」（禁止章 66:1） — 『イブン・カスィール注釈』66:1。

アーイシャ自身がこの節の啓示の背景を伝えている。アッラーの使徒 ﷺ はザイナブ・ビント・ジャハシュの家でよく蜂蜜を飲み、そこにしばらくとどまっておられた。アーイシャとハフサは、使徒が入って来た時に「あなたからマガーフィール（匂いのある樹脂の一種）の匂いがします」と言おうと申し合わせた。そこで使徒はもうその蜂蜜を飲まないと誓われ、この節が下った（『サヒーフ・ブハーリー』4912；『サヒーフ・ムスリム』1474）。

イブン・アッバースはかつて、「もし悔悟してアッラーに帰るならば、あなたがた 2 人の心は」（禁止章 66:4）というアッラーの御言葉に出てくる二人の妻についてウマルに尋ねた。ウマルは答えた。「それはアーイシャとハフサだ」（『サヒーフ・ブハーリー』4913）。この長いハディースはまた、アッラーの使徒 ﷺ が一か月間妻たちから離れて過ごされたこと、そしてウマルが娘のハフサに忠告したことも伝えている（『サヒーフ・ブハーリー』5191）。

スィーラの注：節の啓示の背景に関する別の伝承

『サヒーフ・ブハーリー』の別の伝承（5268）では、蜂蜜はハフサの家で飲まれ、申し合わせたのはアーイシャ、サウダ、サフィーヤとされている。イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』の中で、ザイナブ・ビント・ジャハシュとする伝承を強めている。二人はアーイシャとハフサであるというウマルの言葉と合致するからである。

また、この節はマーリヤ・アル＝キブティーヤに関して下ったとするナサーイーの伝承（3959）もある。イブン・ハジャルをはじめ一部の学者は、この節は両方の出来事のために下ったのかもしれないとしている。確かなことは、アッラーは預言者がアッラーの許されたものを禁じることを望まれなかったということである。

スンナの民（アフル・アッ＝スンナ）の学者たちは、この戒めがアーイシャとハフサの尊さを損なうものではないと説明している。アッラーは二人に悔悟を呼びかけ、

二人は悔悟した。その後二人はアッラーとその使徒と来世の住まいを選び（部族連合章 33:29）、アッラーの使徒 ﷺ は生涯の終わりまで二人を妻としてとどめられた。

参照：『サヒーフ・ブハーリー』4912；『サヒーフ・ブハーリー』4913；『サヒーフ・ブハーリー』5268；『サヒーフ・ブハーリー』4789；イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（部族連合章 33:34、33:50–52；禁止章 66:1–5）；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』クルアーン解釈の書。

教訓

クルアーンは預言者 ﷺ の妻たちを正直に語っている：彼女たちの尊さ、選択、そして人間らしい小さな過ちも。これは、尊いことが無謬であることを意味しないと教えている。尊い人々を際立たせるのは、すぐに悔悟してアッラーに立ち返ることである。

これらの節はまた、預言者 ﷺ の家庭が啓示によって直接導かれていたことを示している。その中の小さな出来事の一つ一つが、最後の審判の日までムスリムの家庭を導く規定となった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

彼女たちはスンナを伝えた

預言者 ﷺ の妻たちに「アッラーの印と英知」を銘記するよう命じた部族連合章 33:34 のアッラーの命令は、見事に果たされた。彼女たちを通して、ウンマは男性の教友たちには見えなかった事柄を知った：使徒の夜の礼拝、沐浴と清めの仕方、斎戒、そして家の中での使徒の人柄である。

信徒の母	ハディースの概数	弟子の例	伝承の例
ハディージャ	直接の伝承なし	—	シャリーアの大部分が下る前に逝去
サウダ	約 5	イブン・アッバース	死んだ羊の皮をなめしたこと（『サヒーフ・ブハーリー』6686）
アーイシャ	約 2,210	ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル、アル＝カースィム・ブン・ムハンマド、アムラ・ビント・アブドッラフマーン、マスルーク	啓示の始まり、夜の礼拝、沐浴、使徒の人柄
ハフサ	約 60	アブドッラー・ブン・ウマル（兄弟）、ハムザ・ブン・アブドッラー（甥）	ファジュル前の軽い二ラクア（『サヒーフ・ブハーリー』618）
ザイナブ・ビント・フザイマ	知られた伝承なし	—	結婚の数か月後に逝去

上のハディースの数は、ザハビーが『高貴なる人々の伝記（スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー）』の中でバキー・ブン・マハラドから引用した概数で、異なる伝承経路による重複も含む。アーイシャは、アブー・フライラ、イブン・ウマル、アナスに次いで、教友の中で四番目に多くを伝えた人である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アーイシャ：理解を正した師

アーイシャの特長は伝承の数だけでなく、その理解力にある。彼女は届いたハディースをしばしばクルアーンに照らして吟味した。死者は家族の泣き声によって罰せられるという伝承が届いた時、彼女はそのハディースの本当の意味を説明し、「重荷を負う者は、外の者の重荷を負わない」（家畜章 6:164）というアッラーの御言葉を読んだ（『サヒーフ・ブハーリー』1288）。

マスルークが、アッラーの使徒 ﷺ はミウラージュの夜に主を見たのかと尋ねた時、彼女は「視覚ではかれを捉えることはできない」（家畜章 6:103）というアッラーの御言葉を論拠とした（『サヒーフ・ブハーリー』4855）。後に学者たちは、彼女による訂正をザルカシーの書『アーイシャが教友たちに補正したことの提示（アル＝イジャーバ）』にまとめた。

そして、アッラーの使徒 ﷺ の人柄を最も簡潔に描いたのも彼女であった。使徒の人柄について尋ねられると、彼女は答えた。「使徒の人柄はクルアーンそのものでした」（『サヒーフ・ムスリム』746）。

スィーラの注：アーイシャの知識への学者たちの称賛

イブン・シハーブ・アッ＝ズフリーは言った。「もしアーイシャの知識を、預言者 ﷺ のすべての妻の知識とすべての女性の知識と合わせたとしても、アーイシャの知識の方が勝るだろう。」この言葉はハーキムとタバラーニーが伝えている。

彼女の甥ウルワ・ブン・アッ＝ズバイルは、法学（フィクフ）、医学、詩についてアーイシャ以上に詳しい人を見たことがないと言った。この伝承は、アブー・ヌアイムが『聖者たちの装飾（ヒルヤ・アル＝アウリヤー）』に、ザハビーが『スィヤル』に引用している。

参照：『サヒーフ・ブハーリー』1288；『サヒーフ・ブハーリー』4855；『サヒーフ・ムスリム』746；『サヒーフ・ブハーリー』618；『サヒーフ・ブハーリー』

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：124 / 211

6686；ザハビー『高貴なる人々の伝記（スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー）』；ザルカシー『アル＝イジャーバ』。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ の生活の半分は家の中で営まれた。使徒の妻たちがいなければ、そのスンナの半分は失われていただろう。だから、夜の礼拝、沐浴の作法、家族との接し方のスンナを実践するたびに、わたしたちは自分たちの母の知識の実りを味わっているのである。

アーイシャの物語はまた、イスラームが女性の知識を尊ぶことを示している。主だった教友たちやタービウーンが彼女のもとに座って学び、その見解は今日に至るまで法学で参照されている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの使徒 ﷺ の結婚をめぐる疑問に答える

アッラーの使徒 ﷺ の結婚は、特にオリエンタリストの時代以来、一部の西洋の著述家によってしばしば疑問の的とされてきた。ムスリムはこうした疑問を聞いても、怒ったり動揺したりする必要はない。真正な典拠に基づいて歴史の事実を落ち着いて示し、事実自身に語らせれば十分である。

第一の疑問：欲望によるものだったのか

第 3 章で見た事実が、この疑問に答えている。アッラーの使徒 ﷺ は若い時期の約 25 年間、ただ一人の妻とだけ暮らした。その後、すべての妻のうち処女は一人だけで、他は未亡人であり、一部は年長で子どもがいた。

結婚の多くは、戦いと使節団と宣教に満ちたマディーナの十年間に行われた。使徒の家は、時に二か月も煮炊きの火がない小さな部屋であった（第 27 章）。そして最後には、アッラーご自身が使徒に妻を増やすことも替えることも禁じられた——「仮令その美貌があなたの気をひいても」（部族連合章 33:52）。欲望に支配された人が、そのような暮らしをすることはない。

第二の疑問：アーイシャの年齢

真正な伝承は、アーイシャが婚約の時に六歳、アッラーの使徒 ﷺ と暮らし始めた時に九歳であったと述べている（『サヒーフ・ブハーリー』5133；『サヒーフ・ブハーリー』3894；『サヒーフ・ムスリム』1422）。ムスリムはこの伝承を退けたり恥じたりする必要はなく、その時代の文脈の中で理解すればよい。

第一に、七世紀のアラブ社会——そしてその後何世紀にもわたる世界の多くの社会——では、結婚は現代の法律が定める年齢ではなく、成熟と成年によって測られていた。第二に、アフマドとイブン・サアドの伝承によれば、アーイシャはアッラーの使徒 ﷺ より先にジュバイル・ブン・ムトイムの家から求婚されていた。これは、それが当時の社会でごく普通のことであったことを示している。第三に、使徒を非難

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

するためにあらゆる落ち度を探していた敵たちも、この結婚を非難の材料にしたことは一度もなかった。

第四に、そしてこれが最も重要なことだが、アーイシャ自身が自分の結婚を大きな喜びと誇りをもって思い出している（『サヒーフ・ムスリム』1423）。そして彼女は、このウンマで最も学識ある女性へと成長した。彼女自身の証言は、十四世紀後に現れた誰の推測よりも価値がある。

スィーラの注：現代の著述家による年齢の計算

現代の著述家の中には、姉アスマーの年齢やその他の年代と比べてアーイシャの年齢を計算し直し、彼女は 16 歳から 19 歳であったとする者もいる。この計算は年代の推定と歴史上の伝承に基づいており、それはブハーリーとムスリムの伝承ほど強いものではない。

ハディース学者の大多数は真正な伝承に拠っている。同時に、今日の結婚の規定は、公益（マスラハ）、身体的・精神的な準備、そしてそれぞれの国の法律に従う——そしてイスラーム自身も、結婚が害をもたらしてはならないと定めている（「害を与えてはならず、害を受けてもならない」）。

第三の疑問：使徒の妻たちは抑圧されていたのか

クルアーン自身が彼女たちに立派に別れる選択肢を与えたが、彼女たちは全員とどまることを選んだ（部族連合章 33:28–29）。彼女たちは自由に意見を述べ、尋ね、すねることさえあった。アーイシャは怒ると「イブラーヒームの主にかけて」と言い、使徒はそれを理解しておられた（第 17 章）。ウンム・サラマはフダイビヤで使徒が従った助言をしている（第 32B 巻）。

アーイシャはまた証言している。「アッラーの使徒 ﷺ は、アッラーの道で戦う時を除いて、女性であれ使用人であれ、何ものもご自分の手で打たれたことはありませ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

んでした」（『サヒーフ・ムスリム』2328）。これこそ、アッラーがウンマ全体の模範とされた夫である。

参照：『サヒーフ・ブハーリー』5133；『サヒーフ・ブハーリー』3894；『サヒーフ・ムスリム』1422；『サヒーフ・ムスリム』1423；『サヒーフ・ムスリム』2328；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』婚姻の書；ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ に関する疑問に答えるには、知識と作法が必要である。わたしたちは真正な伝承を隠さず、また誰かを喜ばせるために伝承を作り出すこともしない。事実を示し、文脈を説明し、その判断を誠実な理性に委ねるのである。

答えることより大切なのは、知ることである。アッラーの使徒 ﷺ が妻たちとともに送った生活——その誠実さ、公正さ、優しさ——を本当に知る人は、その中に慈悲以外のものを見いださないだろう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

確かめるべき有名な伝承

預言者 ﷺ の妻たちについての多くの話が、講話やソーシャルメディアで広まっている。その一部は真正で、一部は弱く、捏造されたものもある。わたしたちの母への愛ゆえに、彼女たちやアッラーの使徒 ﷺ に真実でないことを帰さないよう気をつけなければならない。

伝承	評価	説明
「あなたがたの宗教の半分を、このフマイラーから受け取りなさい」	捏造；根拠なし	ミッズィー、ザハビー、イブン・カスィールが虚偽と判定した。ただし、アーイシャが非常に多くの知識を伝えたことは事実である。
「ヤー・フマイラー（フマイラーよ）」と呼びかけるハディース	大半は弱いか捏造	イブン・アル＝カイイムは、その大半が虚偽であると述べている。アビシニア人の遊戯を見たことに関するナサーイーの伝承のように、ごく一部は真正である。
「これは現世でも来世でもあなたの妻である」（ジブリールがアーイシャの姿を携えて来た）	ハサン（良好）	『ジャーミウ・ティルミズィー』3880；その意味は『サヒーフ・ブハーリー』3895 によって支持される。
「万有の女性の中で最良なのは、マルヤム、ハディージャ、ファーティマ、アースィヤである」	サヒーフ（真正）	『ジャーミウ・ティルミズィー』3878。
「アッラーは彼女より良い代わりを与えてはくださらなかった」（ハディージャについて）	一部の学者によればハサン	『ムスナド・アフマド』24864；その意味は真正なハディースによって支持される（第 10 章）。
ハディージャは結婚時 40 歳であった	よく知られているが、見解が分かれる	イブン・イスハークとイブン・サアド；別の見解では 28 歳（第 6 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

伝承	評価	説明
ハディージャは特定の金額を挙げて語られるほど莫大な財産を費やした	真正な数字はない	真正なこと：彼女は財産で使徒を助けた。講話で語られる数字には伝承経路がない。
アッラーの使徒 ﷺ は実際にサウダを離縁し、その後復縁された	弱い（ムルサル）	真正なこと：サウダは離縁されることを恐れ、自分の順番をアーイシャに譲った（『ジャーミウ・ティルミズィー』3040）。
ジブリール：「ハフサと復縁しなさい。彼女はよく斎戒し、夜に礼拝する人だからです」	ハサン（アルバーニー）	ハーキムとタバラーニー；離縁と復縁そのものは真正である（『スナン・アビー・ダーウード』2283）。
ザイナブ・ビント・フザイマが使徒とともにいた期間	見解が分かれるもの	スィーラ学者によれば二か月から八か月（第 26 章）。

スィーラの注：「アル＝フマイラー」という呼び名

アル＝フマイラーとは「赤みがかった人」という意味で、アーイシャの赤みを帯びた白い肌を指している。この呼び名はいくつかの真正な伝承の中で実際に使われているので、敬意をもって用いることは誤りではない。

避けるべきは、この呼び名を用いた真正でないハディースをアッラーの使徒 ﷺ に帰することである。イブン・アル＝カイイムは『アル＝マナール・アル＝ムニーフ』の中で、これらの伝承を警戒すべきハディースの例として挙げている。

参照：イブン・アル＝カイイム『真正と弱伝承に関する明らかな灯台（アル＝マナール・アル＝ムニーフ）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；『ジャーミウ・ティルミズィー』3880；『ジャーミウ・ティルミズィー』3878；『ジャーミウ・ティルミズィー』3040；『スナン・アビー・ダーウード』2283。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：130 / 211

教訓

アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「わたしについて故意に嘘をつく者は、地獄に自分の座を用意するがよい」（『サヒーフ・ブハーリー』110）。使徒の妻たちの尊さは、真正なもので十分である。彼女たちを尊ぶために捏造された伝承は必要ない。

ある話を広める前に尋ねよう：誰がそれを伝えたのか、どの書物にあるのか。これこそ、あらゆる伝承を注意深く吟味したアーイシャ自身が遺した作法である。

信徒の母たちについてのよくある質問

以下は、アッラーの使徒 ﷺ の妻たちについてよく尋ねられる質問と、クルアーン、真正なハディース、信頼できる学者の見解に基づく簡潔な答えである。

1. なぜアッラーの使徒 ﷺ には四人より多くの妻がいたのか。

それはアッラーが使徒だけに与えられた特例である（部族連合章 33:50）。その後アッラーは、使徒が妻を増やすことも替えることも禁じられた（部族連合章 33:52）。ウンマにとっては、公正を条件に四人が上限である（女性章 4:3）。

2. ハディージャとアーイシャ、どちらがより優れているか。

学者の見解は分かれている。イブン・タイミーヤとイブン・アル＝カイイムは、それぞれに固有の長所があると説明している。ハディージャは初期の信仰、支え、献身において、アーイシャは知識とスンナの普及においてである。二人とも天国を約束されている。

3. 預言者 ﷺ の妻たちは、天国でも使徒の妻となるのか。

アンマール・ブン・ヤースィルはアーイシャについて言った。「本当に彼女は、現世でも来世でもあなたがたの預言者の妻である」（『サヒーフ・ブハーリー』7100）。学者たちは、使徒の妻として亡くなったすべての妻がこの栄誉に含まれると述べている。彼女たちはアッラーとその使徒と来世の住まいを選んだからである。

4. 禁止章の戒めは、アーイシャとハフサの尊さを損なうのか。

いいえ。二人は悔悟し、使徒の生涯の終わりまでその妻であり続けた。人間らしい小さな過ちも、悔悟が続けば、その人の尊さを消し去ることはない（第 32 章を参照）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. クルアーンが潔白を示した告発でアーイシャを罵ることの規定は何か。

学者たちは、アッラーが御光章でその潔白を示された告発でアーイシャを責める者は、クルアーンを否定したことになると一致している。イブン・カスィールは御光章 24:23 の注釈でこのことを述べている。

6. なぜハディージャには葬儀の礼拝が行われなかったのか。

彼女がマッカで亡くなった時、葬儀の礼拝はまだ定められていなかったからである。イブン・サアドの伝承によれば、アッラーの使徒 ﷺ 自ら彼女の墓穴に降りられた（第 31 章）。

7. アーイシャを「アル＝フマイラー」と呼んでもよいか。

よい。敬意をもってであれば。この呼び名はいくつかの真正な伝承の中にあるからである。しかし「ヤー・フマイラー」と呼びかけるハディースの大半は真正ではなく、アッラーの使徒 ﷺ に帰してはならない（第 35 章）。

8. アーイシャの年齢について、子どもや若者にどう説明すればよいか。

正直に、落ち着いて：真正な伝承を述べ、成熟の尺度は時代によって異なることを説明し、アーイシャ自身が自分の結婚を幸せに思い、ウンマの師となったことを強調する。今日の結婚の規定は、公益と法律に従う（第 34 章）。

9. 預言者 ﷺ の妻たちはどれほどのハディースを伝えたのか。

ザハビーが引用した概数によれば、アーイシャは約 2,210、ウンム・サラマは約 378、ハフサは約 60 のハディースを伝えた。重複を含めた総数は 2,800 を超える。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

10. なぜアッラーの使徒 ﷺ は一か月間妻たちから離れて過ごされたのか。

彼女たちが生活費の増額を求め、また禁止章に語られた出来事が起こったからである。一か月後、選択の節（部族連合章 33:28–29）が下り、彼女たちは全員アッラーとその使徒を選んだ（『サヒーフ・ブハーリー』5191；『サヒーフ・ムスリム』1478）。

11. 彼女たちの物語を学ぶのに最も良い書物は何か。

イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』（第 8 巻）、ザハビー『高貴なる人々の伝記（スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー）』、イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』、そして『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』の美徳の章とその注釈書である。

12. 今日、彼女たちにどう倣えばよいか。

女性は信仰、知識、崇拝、施しにおいて彼女たちに倣う。男性は妻への誠実さ、公正さ、優しさにおいてアッラーの使徒 ﷺ に倣う。そしてすべてのムスリムは彼女たちのために祈り、その伝承を学び、その名誉を守る。

教訓

信徒の母たちについてのどの質問にも、知識と作法をもって答えなければならない。彼女たちはわたしたちの母である。だからわたしたちは、良い子が母について語るように——愛と敬意と真実をもって——彼女たちについて語るのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

本巻の五人の信徒の母は、計り知れない教訓を残した。その中でも最も大切なもの：

信徒の母	主な教訓
ハディージャ	人々が不信仰であった時に信じた；夫を慰め支えた；アッラーからの挨拶を受けた
サウダ	忍耐強い移住者；来世のために順番を譲った；寛大さ
アーイシャ	最も愛された妻；クルアーンによって潔白とされた；ウンマの師
ハフサ	崇拝に励む人；クルアーンの紙葉の守り手；読み書きができた
ザイナブ・ビント・フザイマ	「貧しい者たちの母」；良い名は施しによって築かれる
全員	アッラーとその使徒と来世の住まいを選んだ（部族連合章 33:29）

わたしたちへの教え

わたしたちのこれらの母は、単なる歴史書の中の名前ではない。彼女たちは、信仰がどのように家庭を形づくるかの**生きた模範**である。アッラーが彼女たちすべてに満足され、わたしたちを天国で彼女たちとともに集めてくださいますように。

インシャーアッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 32B 巻——信徒の母たち（第 2 部）**へと続く：ウンム・サラマ、ザイナブ・ビント・ジャハシュ、ジュワイリーヤ、ウンム・ハビーバ、サフィーヤ、マイムーナ رضي الله عنهن、そしてマーリヤ・アル＝キブティーヤについての注。アッラーこそ最もよく知っておられる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 32 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（イムラーン家章 3:42；女性章 4:3、4:128；御光章 24:11–20；部族連合章 33:6、33:28–35）。https://tafsir.app/ibn-katheer/33/6

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』3、334、676、1680、2567、2581、2593、3369、3432、3662、3768、3770、3771、3818、3820、3821、3895、4005、4750、4785、4795、4986、4987、5133、5212、5216、5225、5228、6130。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』300、1422、1423、1463、1475、1478、2424、2432、2435。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』3040、3211、3883、3895；『スナン・アビー・ダーウード』2283、2578、3887、4970；『ムスナド・アフマド』24864；アルバーニー『サヒーフ・アル＝ジャーミウ』4351。https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）——アッラーの使徒 ﷺ の結婚とその妻たちの章。

イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』第 8 巻（女性の伝記）；ザハビー『高貴なる人々の伝記（スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー）』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』と『教友識別の書（アル＝イサーバ）』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

サフィユッラフマーン・ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』——預言者 ﷺ の家庭の章。

一般の歴史

ウィキペディア「Mothers of the Believers」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mothers_of_the_Believers

ウィキペディア「Khadija bint Khuwaylid」https://en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

ウィキペディア「Sawda bint Zam'a」。https://en.wikipedia.org/wiki/Sawda_bint_Zam%27a

Wikipedia「Aisha」。https://en.wikipedia.org/wiki/Aisha

ウィキペディア「Hafsa bint Umar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hafsa_bint_Umar

ウィキペディア「Zaynab bint Khuzayma」。https://en.wikipedia.org/wiki/Zaynab_bint_Khuzayma

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4912（禁止章の啓示の背景）。https://sunnah.com/bukhari:4912

『サヒーフ・ブハーリー』4913（禁止章 66:4 の二人の妻）。https://sunnah.com/bukhari:4913

『サヒーフ・ブハーリー』5191（アッラーの使徒 ﷺ が一か月離れて過ごされたこと）。https://sunnah.com/bukhari:5191

『サヒーフ・ブハーリー』4789（緩和を与えられても許しを求めたこと）。https://sunnah.com/bukhari:4789

『サヒーフ・ブハーリー』1288（死者への泣き声に関するアーイシャの訂正）。https://sunnah.com/bukhari:1288

『サヒーフ・ブハーリー』4855（アーイシャと家畜章 6:103）。https://sunnah.com/bukhari:4855

『サヒーフ・ムスリム』746（使徒の人柄はクルアーンであった）。https://sunnah.com/muslim:746a

『サヒーフ・ブハーリー』3894（アーイシャの年齢）。https://sunnah.com/bukhari:3894

『サヒーフ・ムスリム』2328（女性を打たれたことは一度もない）。https://sunnah.com/muslim:2328

『サヒーフ・ブハーリー』7100（現世でも来世でも預言者の妻）。https://sunnah.com/bukhari:7100

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

『ジャーミウ・ティルミズィー』3878（万有の女性の中で最良の者）。
https://sunnah.com/tirmidhi:3878

第三部

信徒の母たち 2

預言者伝（スィーラ）— 第 32B 巻

信徒の母たち（ウンマハート・アル＝ムウミニーン）第 2 部：ウンム・サラマ、ザイナブ・ビント・ジャフシュ、ジュワイリーヤ、ウンム・ハビーバ、サフィーヤ、マイムーナ — クルアーンと真正なハディースに基づいて

信徒の母たち

第 32 巻（第 1 部）では、五人の信徒の母を知った：**ハディージャ、サウダ、アーイシャ、ハフサ、ザイナブ・ビント・フザイマ** رضي الله عنهن。この第 32B 巻では、さらに六人の物語を続ける：**ウンム・サラマ、ザイナブ・ビント・ジャフシュ、ジュワイリーヤ、ウンム・ハビーバ、サフィーヤ、マイムーナ**。そして**マーリヤ・アル＝キブティーヤ**についての注も加える。

この六人の女性は、**まったく異なる境遇**から来た：マフズーム族の女性移住者、ハーシム家につながる使徒のいとこ、捕虜となった部族の首長の娘、イスラームに敵対したクライシュの指導者の娘、ナディール族のユダヤ人首長の娘、そしてイブン・アッバースとハーリド・ブン・アル＝ワリードの母方のおばであるヒラール族の女性である。

しかしイスラームは彼女たちを一つの家に結び合わせ、アッラーは彼女たち全員に同じ呼び名を授けて尊ばれた：**信徒の母たち**。彼女たちの物語は、アッラーの使徒 ﷺ がどのように部族の間に**橋を架け**、ジャーヒリーヤ（無明時代）の慣習を廃し、すべてを失った女性たちを守られたかを示している。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

信徒の母たち：アッラーの使徒の結婚の順序

1	**ハディージャ・ビント・フワイリド** 預言者としての召命の15年前	約25年間ただ一人の妻。召命10年目に逝去
2	**サウダ・ビント・ザムア** 召命10年目	ハディージャの逝去後。アビシニアへ移住した未亡人
3	**アーイシャ・ビント・アビー・バクル** 婚約はヒジュラ前、同居はヒジュラ暦1年	唯一の処女の妻
4	**ハフサ・ビント・ウマル** ヒジュラ暦3年	マディーナで没したフナイス（バドルの戦士）の未亡人
5	**ザイナブ・ビント・フザイマ** ヒジュラ暦3〜4年	「貧しい者たちの母」。数か月後に逝去
6	**ウンム・サラマ** ヒジュラ暦4年	アブー・サラマ（ウフド）の未亡人
7	**ザイナブ・ビント・ジャフシュ** ヒジュラ暦5年	アッラーが結婚させた（部族連合章 33:37）
8	**ジュワイリーヤ・ビント・アル＝ハーリス** ヒジュラ暦5〜6年	ムスタリク族の遠征の後
9	**ウンム・ハビーバ** ヒジュラ暦6〜7年	アブー・スフヤーンの娘。アビシニアで婚約
10	**サフィーヤ・ビント・フヤイ** ヒジュラ暦7年	ハイバルの後
11	**マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス** ヒジュラ暦7年	補いのウムラ（ウムラ・アル＝カダー）の折

第1部（第32巻）　第2部（本巻）

年はイブン・サアド、イブン・ヒシャーム、ムバーラクプーリーに基づく概算で、一部はスィーラ学者の間で見解が分かれる。

図 1：信徒の母たち——アッラーの使徒ﷺの結婚の順序。第 2 部は茶色で示されている。

注：本書のクルアーンの節の和訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠に記す。出来事の年はスィーラ書による概算であり、一部には異説がある。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

母たちの物語の続き

アッラーは預言者 ﷺ の妻たちに、彼女たちが授かった大きな恵みを思い起こさせられる：「**またあなたがたの家で読誦される、アッラーの印と英知を銘記せよ。本当にアッラーは親切にして全知であられる。**」（部族連合章 33:34） — 『イブン・カスィール注釈』33:34。

彼女たちの家は、イスラームにおける**最初の学び舎**であった。そこでは毎日クルアーンが読まれ、スンナが生かされた。この節はまた**託された責任**でもある：彼女たちが聞き見たことはウンマに伝えなければならない——そして彼女たちは生涯それを果たした。

この第 2 部の六人の妻は、数百のハディースを伝えた。**ウンム・サラマ**だけでも 400 近くのハディースを伝え、アーイシャに次いで使徒の妻たちの中で二番目に多くを伝えた人となった。任意の定めの礼拝（ラワーティブ）、大汚れの後の沐浴（グスル）の仕方、服喪、朝の唱念、災難の時の祈りなどに関するハディースは、彼女たちを通してわたしたちに届いた。

第 1 部と同じく、本書ではクルアーン、**サヒーフ（真正）とハサン（良好）**のハディース、そして信頼できるスィーラ書を用いる。弱い伝承や見解の分かれる伝承は、「スィーラの注」の枠に置く。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウンム・サラマ：最初に移住した家族

ウンム・サラマ رضي الله عنها、本名**ヒンド・ビント・アビー・ウマイヤ**は、クライシュの有力な部族の一つマフズーム族の出身である。父は**ザード・アッ＝ラーキブ**——「旅人の糧」——という異名で知られていた。旅に出る時、同行するすべての人の糧食を引き受けたからである。

夫の**アブー・サラマ・アブドゥッラー・ブン・アブド・アル＝アサド**は、アッラーの使徒 ﷺ の父方のおばの子（いとこ）であり乳兄弟でもあって、早くにイスラームに入った人の一人であった。二人は**アビシニア**へ移住し、その後マッカに戻り、さらにマディーナへ移住した。

スィーラの注：ウンム・サラマの移住の物語

イブン・イスハークはウンム・サラマから次のように伝えている。彼らがマディーナへ移住しようとした時、彼女の一族であるムギーラ家が彼女を引き止め、アブー・サラマの一族は息子のサラマを連れ去った。アブー・サラマは一人で移住した。ほぼ一年の間、ウンム・サラマは毎朝アブタフに出て、夕方まで泣き続けた。

ついに一族は彼女を哀れんで出発を許し、息子も返された。彼女は息子と二人きりで旅立ち、**ウスマーン・ブン・タルハ**——当時まだムスリムではなかった——が深い敬意をもってクバーまで付き添った。この話はスィーラ書に伝えられており、よく知られているが、その伝承経路については学者たちが論じている。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）——アッラーの使徒 ﷺ の結婚の章；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

この物語から、**移住（ヒジュラ）の代償**が見える：家族は引き裂かれ、子は奪われ、一人の母が一年もの間泣き続けた。それでもウンム・サラマは引き返さなかった。この不屈さこそが、彼女を**信徒の母**となるにふさわしい人にしたのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・サラマ一家の移住はまた、**信仰のための犠牲**が時に最も愛する人との別離を伴うことを教えている。しかしアッラーはその犠牲を無にはされなかった：引き裂かれた家族はやがてマディーナで再び一つになり、ウンム・サラマはのちに信徒の母として尊ばれた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

災難の時の祈り

アブー・サラマはウフドの戦いで負傷し、数か月後のヒジュラ暦 4 年に亡くなった。アッラーの使徒 ﷺ ご自身が来て、彼の目を閉じ、「魂が取り去られる時、視線はそれを追うのである」と言われ、彼のために祈られた（『サヒーフ・ムスリム』920）。

ウンム・サラマは愛する夫を失い、幼い子どもたちが残された。その時、彼女はかつてアッラーの使徒 ﷺ から教わった祈りを実践した：

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 918B 番

وَحَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ سَعْدِ بْنِ سَعِيدٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي عُمَرُ بْنُ كَثِيرِ بْنِ أَفْلَحَ، قَالَ سَمِعْتُ ابْنَ سَفِينَةَ، يُحَدِّثُ أَنَّهُ سَمِعَ أُمَّ سَلَمَةَ، زَوْجَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم تَقُولُ سَمِعْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ مَا مِنْ عَبْدٍ تُصِيبُهُ مُصِيبَةٌ فَيَقُولُ إِنَّا لِلَّهِ وَإِنَّا إِلَيْهِ رَاجِعُونَ اللَّهُمَّ أْجُرْنِي فِي مُصِيبَتِي وَأَخْلِفْ لِي خَيْرًا مِنْهَا إِلاَّ أَجَرَهُ اللَّهُ فِي مُصِيبَتِهِ وَأَخْلَفَ لَهُ خَيْرًا مِنْهَا. قَالَتْ فَلَمَّا تُوُفِّيَ أَبُو سَلَمَةَ قُلْتُ كَمَا أَمَرَنِي رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَأَخْلَفَ اللَّهُ لِي خَيْرًا مِنْهُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم.

訳：

ウンム・サラマ رضى الله عنها——預言者 ﷺ の妻——によれば、彼女は言った。わたしはアッラーの使徒 ﷺ がこう言われるのを聞いた：「**しもべが災難に遭い、『インナー・リッラーヒ・ワ・インナー・イライヒ・ラージウーン。アッラーフンマ・ウジュルニー・フィー・ムスィーバティー・ワ・アフリフ・リー・ハイラン・ミンハー』（本当にわたしたちはアッラーのもの、かれの御許にわたしたちは帰ります。アッラーよ、この災難においてわたしに報いを与え、これよりも良いものをわたしに代わりにお与えください）と言えば、アッラーは必ずその災難において報いを与え、それよりも良いものを代わりに与えてくださる。**」彼女は言った。アブー・サラマが亡くなった時、わたしはアッラーの使徒 ﷺ が命じられた通りに唱えた。**するとアッラーは、彼よりも良い方を代わりにわたしに与えてくださった。アッラーの使徒 ﷺ である。**

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← アブー・ウサーマ・ハンマード・ブン・ウサーマ ← サアド・ブン・サイード ← ウマル・ブン・カスィール・ブン・アフラフ ← イブン・サフィーナ ← ウンム・サラマ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』葬儀の書、災難に遭った時に唱える言葉の章、ハディース第 918b 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:918b

このハディースの教訓

この祈りの前半はクルアーンから来ている：「**災難に遭うと、『本当にわたしたちは、アッラーのもの。かれの御許にわたしたちは帰ります。』と言う者、**」（雌牛章 2:156） — 『イブン・カスィール注釈』2:156。

別の伝承では、ウンム・サラマはこう言った：「アッラーの使徒 ﷺ のもとへ最初に移住した家族であるアブー・サラマよりも良いムスリムが、いったい誰でしょう？」彼女には夫よりも良い後継ぎを想像することができなかった——それでも**確信をもって祈り続けた**。そしてアッラーは彼女に、**アッラーの使徒 ﷺ その方**を代わりに与えられた。

わたしたちへの教え：災難に遭った時、ただ悲しむだけで終わってはならない。**確信をもってこの祈りを唱えなさい**。アッラーがどのように償ってくださるのか、わたしたちの頭では想像できなくても。アッラーからの償いは、しばしば思いがけないところから訪れる。

アッラーの使徒 ﷺ による求婚

待婚期間（イッダ）が明けると、アブー・バクルとウマルが彼女に求婚したが、彼女は断った。その後、アッラーの使徒 ﷺ が使いを送って求婚された。ウンム・サラマは正直に答えた：「アッラーの使徒にお伝えください。**わたしはとても嫉妬深い女**で、**子どもたちがいて**、**ここにはわたしの後見人（ワリー）が一人もいない**と」（『スナン・ナサーイー』3254——ハサン）。

アッラーの使徒 ﷺ は彼女の心配の一つひとつに優しく答えられた：嫉妬については、アッラーがそれを取り除いてくださるよう祈ろう。子どもたちは面倒を見よう。後見人については、居合わせる者も居合わせない者も、誰一人として反対しないであろう、と。こうして彼女は承諾し、結婚は**ヒジュラ暦 4 年**に行われた。

この話は、**誠実さ**ではウンム・サラマの、**賢明さ**ではアッラーの使徒 ﷺ の模範を示している。女性は結婚の前に自分の心配を率直に伝えてよく、善い男性はそれを軽んじることなく、優しさをもって答えるのである。

ウンム・サラマの子どもたち——サラマ、ウマル、ザイナブ、ドゥッラ——は、アッラーの使徒 ﷺ の家で**使徒の継子**として育った。ウマル・ブン・アビー・サラマは、使徒から教わった食事の作法を伝えている：「坊や、アッラーの御名を唱え、右手で食べ、自分の近くから食べなさい」（『サヒーフ・ブハーリー』5376）。ザイナブ・ビント・アビー・サラマは、のちに学識ある女性となった。

ウンム・サラマの誠実さは、**伴侶選び**の模範でもある。彼女は自分の弱さを隠さず、取り繕いもしなかった。最初から誠実さの上に築かれた結婚は、双方が本当の事情を知っているので、守り続けやすいのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ディフヤの姿のジブリールを見る

ウンム・サラマは並外れた体験を授けられた——その時には気づかなかったものの、彼女は**ジブリールを見た**のである：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3634 番

حَدَّثَنِي عَبَّاسُ بْنُ الْوَلِيدِ النَّرْسِيُّ، حَدَّثَنَا مُعْتَمِرٌ، قَالَ سَمِعْتُ أَبِي، حَدَّثَنَا أَبُو عُثْمَانَ، قَالَ أُنْبِئْتُ أَنَّ جِبْرِيلَ ـ عَلَيْهِ السَّلاَمُ ـ أَتَى النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم وَعِنْدَهُ أُمُّ سَلَمَةَ، فَجَعَلَ يُحَدِّثُ ثُمَّ قَامَ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لأُمِّ سَلَمَةَ مَنْ هَذَا. أَوْ كَمَا قَالَ. قَالَ قَالَتْ هَذَا دِحْيَةُ. قَالَتْ أُمُّ سَلَمَةَ ايْمُ اللَّهِ مَا حَسِبْتُهُ إِلاَّ إِيَّاهُ حَتَّى سَمِعْتُ خُطْبَةَ نَبِيِّ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يُخْبِرُ جِبْرِيلَ أَوْ كَمَا قَالَ. قَالَ فَقُلْتُ لأَبِي عُثْمَانَ مِمَّنْ سَمِعْتَ هَذَا قَالَ مِنْ أُسَامَةَ بْنِ زَيْدٍ.

訳：

アブー・ウスマーンによれば、彼は言った。わたしはこう知らされた：ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ が預言者 ﷺ のもとに来た時、ウンム・サラマが使徒のそばにいた。ジブリールは使徒と話し、それから立ち去った。預言者 ﷺ はウンム・サラマに「これは誰か」と尋ねられた。彼女は「ディフヤです」と答えた。ウンム・サラマは言った：「**アッラーにかけて、わたしは彼をディフヤだとばかり思っていました。アッラーの預言者 ﷺ がジブリールについて語られる説教を聞くまでは。**」（伝承者がアブー・ウスマーンに「誰からそれを聞いたのか」と尋ねると、彼は「ウサーマ・ブン・ザイドから」と答えた。）

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アッバース・ブン・アル＝ワリード・アン＝ナルスィー ← ムウタミル・ブン・スライマーン ← スライマーン・アッ＝タイミー（その父） ← アブー・ウスマーン・アン＝ナフディー ← ウサーマ・ブン・ザイド رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』美徳の書、イスラームにおける預言者性のしるしの章、ハディース第 3634 番。第 4980 番、『サヒーフ・ムスリム』第 2451 番も参照。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3634

このハディースの教訓

ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ は時に、容姿の美しさで知られた教友**ディフヤ・アル＝カルビー**の姿で現れた。このハディースは、天使がアッラーのお許しによって人間の姿をとりうることを示している。イスラーム、信仰（イーマーン）、善行（イフサーン）についての有名なジブリールのハディースと同様である。

それはまた、預言者 ﷺ の妻たちの家が**啓示と天使が降りてくる場所**であったことを示している。ウンム・サラマは、啓示が使徒にどのように届くのかを自分の目で見た——ごくわずかな人間だけに許された栄誉である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

フダイビヤでの賢明な助言

ヒジュラ暦 6 年、ウンム・サラマはアッラーの使徒 ﷺ のマッカへの旅に同行した。その旅は**フダイビヤの和約**で終わった（第 15 巻）。和約の条件は一方的に見え、教友たちはひどく落胆した。

和約が結ばれた後、使徒は教友たちに犠牲を屠って頭を剃るよう命じられたが、三度繰り返されても**誰一人立ち上がらなかった**。使徒はウンム・サラマのもとに入り、起きたことを話された（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

ウンム・サラマはきわめて賢明な助言をした：「**アッラーの預言者よ、それが行われることをお望みですか。外にお出になって、ご自分のラクダを屠り、理髪師を呼んで頭を剃らせるまで、彼らの誰とも話さないでください。**」使徒がその通りにされると、教友たちはそれを見て、すぐに立ち上がって屠り、頭を剃った（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。

学者たちはこの出来事を、**ウンム・サラマの賢明さ**と**妻の意見に耳を傾けるアッラーの使徒 ﷺ の姿勢**の証拠として挙げている。彼女は人の心をよく理解していた：**言葉による命令よりも、行いによる模範の方が効果がある**。それはまた、賢い女性の意見が大きな危機を解決しうることも示している。

フダイビヤの出来事はまた、**妻と相談すること**がスンナであることを示している。天から啓示を受けるアッラーの使徒 ﷺ でさえ、問題に直面した時に妻の意見を求めることを恥とされなかった。まして今日の夫たちはなおさらである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

最後に亡くなった妻

ウンム・サラマはアッラーの使徒 ﷺ の後、長く生きた。彼女はマディーナで**知識のよりどころ**となり、とりわけ女性、崇拝行為、そして使徒の家庭生活に関わる事柄で頼られた。教友たちや後継世代（タービウーン）の人々は、帳の後ろから彼女に尋ねに来た。

彼女は**雄弁さ、聡明さ、落ち着き**で知られた。預言者の家族（アフル・アル＝バイト）を深く愛し、よく知られた見解によれば、80 歳を超えて**ヒジュラ暦 61 年か 62 年**に亡くなり、**預言者 ﷺ の妻の中で最後に亡くなった人**となった。バキーウに葬られた。

ウンム・サラマの生涯は、初期イスラーム史のほぼ全体にわたっている：マッカでの迫害の時代、アビシニアとマディーナへの移住、アッラーの使徒 ﷺ とともに過ごした日々、正統カリフの時代、そしてウマイヤ朝の時代まで。彼女はこのウンマの歩みの**生きた証人**であった。

ウンム・サラマが伝えたハディースの中に、アッラーの使徒 ﷺ がよく唱えておられた祈りがある：「**ヤー・ムカッリバル・クルーブ、サッビト・カルビー・アラー・ディーニク**」——心を変えられる御方よ、わたしの心をあなたの教えの上に堅く保ってください（『ジャーミウ・ティルミズィー』3522——ハサン）。なぜそれをよく唱えられるのかと彼女が尋ねると、使徒は、人の心はアッラーの御指の間にあると説明された。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ザイナブ・ビント・ジャフシュ：いとこはアッラーの使徒 ﷺ その人

ザイナブ・ビント・ジャフシュ رضى الله عنها は、アサド・ブン・フザイマ族の出身である。母は**ウマイマ・ビント・アブド・アル＝ムッタリブ**で、アッラーの使徒 ﷺ の父方のおばにあたり、そのためザイナブは使徒の**いとこ**であった。兄弟のアブドゥッラー・ブン・ジャフシュはウフドで殉教した。彼女は美しい高貴な女性で、崇拝に励み、気前がよかった。

アッラーの使徒 ﷺ と結婚する前、使徒ご自身がザイナブを**ザイド・ブン・ハーリサ** رضى الله عنه の妻にと申し込まれた。ザイドは解放奴隷で、使徒の養子とされていた。アラブの慣習では、クライシュの高貴な女性が元奴隷と結婚するのは異例のことであった。ザイナブとその家族は、はじめ気が進まなかった。

一部の注釈者によれば、この出来事についてアッラーは次の節を下された：「**信仰する男も女も、アッラーとその使徒が、何かを決められた時、勝手に選択すべきではない。アッラーとその使徒に背く者は、明らかに迷って（横道に）逸れた者である。**」（部族連合章 33:36） — 『イブン・カスィール注釈』33:36。

ザイナブは**アッラーとその使徒の決定に従い**、ザイドと結婚した。この結婚は、イスラームでは**尊さは主を畏れる心で量られる**のであって、家柄で量られるのではないという教訓となった。しかし二人の家庭は幸せではなく、ザイドは何度もアッラーの使徒 ﷺ のもとへ訴えに来た。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

養子の慣習の廃止

イスラーム以前、アラブ人は**養子を実子と同じ**にあらゆる面で扱っていた：養子の名は養父に連ねられ、養子は相続し、養子の元妻を養父が娶ることは禁じられていた。ザイドご自身も「**ザイド・ブン・ムハンマド**」と呼ばれていた。

アッラーはこの慣習を廃された：「**かれら（養子）の父（の姓）をもってかれらを呼べ。それがアッラーの御目に最も正しいのである**」（部族連合章 33:5） — 『イブン・カスィール注釈』33:5。

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は言った：「わたしたちはザイド・ブン・ハーリサを、ザイド・ブン・ムハンマドとしか呼んでいなかった。『かれらをその父（の姓）をもって呼べ』という節が下るまでは」（『サヒーフ・ブハーリー』4782）。

しかし根深い慣習は、言葉だけでは容易に消えない。アッラーはご自身の使徒による**行いの模範**を望まれた。ザイドがザイナブと離婚した後、アッラーは使徒に彼女を娶るよう命じられた——養子の元妻が**マフラム（結婚が禁じられた近親）ではない**ことを示すためである。

「**それでザイドが、かの女に就いて必要なことを済ませ（離別し）たので、われはあなたをかの女と結婚させた。（これからは）信者が、必要な離婚手続きを完了した時は、自分の養子の妻でも、（結婚にも）差し支えないことにした**」（部族連合章 33:37） — 『イブン・カスィール注釈』33:37。

そしてアッラーは明言された：「**ムハンマドは、あなたがた男たちの誰の父親でもない。しかし、アッラーの使徒であり、また預言者たちの封緘である**」（部族連合章 33:40） — 『イブン・カスィール注釈』33:40。

イスラームは**養子を育てることを禁じてはいない**。それどころか孤児を養うことはきわめて尊い行いである。廃されたのは**血統（ナサブ）を変えること**と、それに関わる規定である。養子は愛され続けるが、その血統は実の父のもとに残る。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ザイド・ブン・ハーリサご自身は、尊ばれ続けた。彼はクルアーンの中で名前がはっきりと挙げられている**唯一の教友**である（部族連合章 33:37）。のちにムウタのイスラーム軍の司令官となり、そこで殉教した（第 19 巻）。

「アッラーがわたしを結婚させた」

これらの節はアッラーの使徒 ﷺ ご自身の心に触れるものであったが、使徒はそれを少しも隠さずに伝えられた：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 7420 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ، حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ أَبِي بَكْرٍ الْمُقَدَّمِيُّ، حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ زَيْدٍ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسٍ، قَالَ جَاءَ زَيْدُ بْنُ حَارِثَةَ يَشْكُو فَجَعَلَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ اتَّقِ اللَّهَ، وَأَمْسِكْ عَلَيْكَ زَوْجَكَ. قَالَتْ عَائِشَةُ لَوْ كَانَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم كَاتِمًا شَيْئًا لَكَتَمَ هَذِهِ. قَالَ فَكَانَتْ زَيْنَبُ تَفْخَرُ عَلَى أَزْوَاجِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم تَقُولُ زَوَّجَكُنَّ أَهَالِيكُنَّ، وَزَوَّجَنِي اللَّهُ تَعَالَى مِنْ فَوْقِ سَبْعِ سَمَوَاتٍ. وَعَنْ ثَابِتٍ {وَتُخْفِي فِي نَفْسِكَ مَا اللَّهُ مُبْدِيهِ وَتَخْشَى النَّاسَ} نَزَلَتْ فِي شَأْنِ زَيْنَبَ وَزَيْدِ بْنِ حَارِثَةَ.

訳：

アナス رضى الله عنه によれば、彼は言った。ザイド・ブン・ハーリサが（妻のことを）訴えに来ると、預言者 ﷺ は「アッラーを畏れ、妻を手もとに留めなさい」と言われた。アーイシャは言った：**「もしアッラーの使徒 ﷺ が（啓示の）何かを隠されるとしたら、きっとこの節を隠されたでしょう。」**アナスは言った：**ザイナブは預言者 ﷺ の他の妻たちに誇ってこう言った：「あなたがたはご家族に嫁がされましたが、わたしは七つの天の上から、至高のアッラーによって嫁がされたのです。」**またサービトによれば、「アッラーが暴露しようとされた、自分の胸の中に隠していたことを……恐れていた」という節は、ザイナブとザイド・ブン・ハーリサについて下された。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド（・ブン・サイヤール）← ムハンマド・ブン・アビー・バクル・アル＝ムカッダミー ← ハンマード・ブン・ザイド ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』唯一性（タウヒード）の書、「かれの玉座は水の上にあった」の章、ハディース第 7420 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:7420

このハディースの教訓

アーイシャのこの言葉はきわめて重要である：**もしアッラーの使徒 ﷺ が啓示の何かを隠されたとすれば**、ご自分を戒めるこの節こそ隠されたはずである。しかし使徒はそれを余すところなく伝えられた。これは使徒が使命を伝えるにあたっての**誠実さ（アマーナ）**の証しである。

学者たちは、「胸の中に隠していたこと」とは、ザイナブが自分の妻となるという**アッラーからの知らせ**であり、使徒は人々が「ムハンマドは息子の元妻を娶った」と言うのを恐れておられたのだと説明している。これがイブン・カスィールやクルトゥビーなどの注釈学者による正しい解釈であり、広まっている弱い話は正しくない。

スィーラの注：真正でない話

アッラーの使徒 ﷺ が、ザイドの妻であったザイナブをふと目にして心を惹かれた、と主張する弱い伝承や捏造の伝承がある。ハディース学者や注釈学者たち——その中にはイブン・カスィール、イブン・ハジャル、イブン・アル＝アラビーがいる——は**これらの伝承を退けている**。ザイナブは使徒が幼い頃から知っていたいとこである。もし使徒が彼女を望まれたのなら、最初から自ら娶ることができたのであり、ザイドとの縁談を申し込まれることはなかったであろう。

真正なのは、クルアーンと『サヒーフ・ブハーリー』が述べることである：この結婚は、ジャーヒリーヤの慣習を廃するための**アッラーの定め**であった。

参照：

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』部族連合章 33:37；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』注釈の書。https://tafsir.app/ibn-katheer/33/37

そしてザイナブはこの栄誉を誇った：「**わたしは七つの天の上から、アッラーによって嫁がされたのです。**」彼女の結婚には地上の後見人が要らなかった。アッラーご自身がクルアーンの中でそれを定められたからである。

披露宴と帳（ヒジャーブ）の節

アッラーの使徒 ﷺ はこの結婚のために**披露宴（ワリーマ）**を催された。アナス رضي الله عنه は言った：「預言者 ﷺ が妻たちの誰かのために、ザイナブの時ほど盛大な披露宴を催されたのを見たことがない。羊を一頭屠られたのである」（『サヒーフ・ブハーリー』5168）。使徒は人々を招き、皆は満腹になるまで食べた。

食事の後、何人かが家の中に**座り込んで話し続けた**。使徒は彼らに帰るよう合図するかのように何度か立ち上がって外に出られたが、彼らは気づかなかった。使徒は恥ずかしく思われて、出て行くよう言うことができなかった（『サヒーフ・ブハーリー』4791）。

そこでアッラーは**帳（ヒジャーブ）の節**を下された：「**またあなたがたが、かの女らに何ごとでも尋ねる時は、必ず帳の後からにしなさい。その方があなたがたの心、またかの女らの心にとって一番汚れがない**」（部族連合章 33:53） — 『イブン・カスィール注釈』33:53。

アナスは言った：「この帳の節について、わたしが一番よく知っている」（『サヒーフ・ブハーリー』4792）。この節は二つの作法を教えている：**客としての作法**——招かれた時に行き、食事が済んだら立ち去ること——と、**家庭の尊厳を守る作法**、すなわち預言者 ﷺ の家庭の尊厳を守ることである。それ以来、教友たちは使徒の妻たちと帳の後ろから話すようになった。

また、**恥じらい（ハヤー）**というアッラーの使徒 ﷺ のご性質にも目を向けよう：使徒は迷惑を受けながらも、客に帰るよう言うことができなかった。そこでアッラーご自身が真実を告げられた：「だがアッラーは真実を（告げることを）遠慮なされない。」

「最も手の長い者」

アッラーの使徒 ﷺ はかつて妻たちに言われた：「**あなたがたの中で（わたしの死後）最も早くわたしに続くのは、最も手の長い者である。**」そこで彼女たちは、誰の手が一番長いかと互いに手の長さを比べた（『サヒーフ・ムスリム』2452）。

アーイシャは言った：「**わたしたちの中で最も手が長かったのはザイナブでした。彼女は自分の手で働き、施しをしていたからです。**」「手が長い」とは**よく施しをする**という意味であった。ザイナブは皮をなめし、縫い物をして、その収入を貧しい人々に施した。

使徒のお言葉は真実となった：ザイナブは**アッラーの使徒** ﷺ の後に最初に亡くなった妻となった。それは**ヒジュラ暦 20 年**、ウマルの治世のことである。ウマルご自身がその葬儀の礼拝を行い、彼女はバキーウに葬られた。

しばしば彼女と張り合っていたアーイシャも、正直に彼女を称えた：「**ザイナブほど信仰が篤く、アッラーを畏れ、言葉が誠実で、親族の絆を大切にし、よく施しをする女性を、わたしは見たことがありません**」（『サヒーフ・ムスリム』2442）。中傷事件（イフク）の時、アーイシャについて尋ねられたザイナブは、「わたしは自分の耳と目を守ります。彼女については善いこと以外何も知りません」と答えた。アーイシャは言った：「アッラーは敬虔さによって彼女を守られた」（『サヒーフ・ブハーリー』4750）。

ザイナブの気前のよさは、**働いて収入を得る**女性にとっての模範でもある。イスラームは女性が尊厳ある仕方で働くことを妨げず、その労働の実りは大きな報いをもたらす施しの源となりうる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジュワイリーヤ：ムスタリク族の首長の娘

ジュワイリーヤ・ビント・アル＝ハーリス رضي الله عنها は、**アル＝ハーリス・ブン・アビー・ディラール**の娘である。父はフザーア族に属する**ムスタリク族**の首長であった。もとの名は**バッラ**であったが、アッラーの使徒 ﷺ がジュワイリーヤと改められた（『サヒーフ・ムスリム』2140）。

ムスタリク族はマディーナを攻めようと準備していた。アッラーの使徒 ﷺ はヒジュラ暦 5 年または 6 年、ムライスィーウの泉で先手を打たれた。彼らの男たちは敗れ、多くの女性と子どもが捕虜となった（『サヒーフ・ブハーリー』2541）。中傷事件（イフク）も、この遠征からの帰路に起きた（第 14 巻）。

部族の首長の娘であったジュワイリーヤは、突然**捕虜**となった。彼女はサービト・ブン・カイス・ブン・シャンマースの取り分となり、**ムカータバ**——一定の額を払って自らを買い戻す契約——を結んだ。そしてその支払いの助けを求めて、アッラーの使徒 ﷺ のもとに来た。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：160 / 211

一つの部族を解放した結婚

アッラーの使徒 ﷺ はもっと良い申し出をされた：**彼女の代価を払い、彼女を妻に迎える**というのである。ジュワイリーヤは承諾した（『スナン・アビー・ダーウード』3931——ハサン）。

その知らせが広まると、教友たちは言った：「**彼ら（ムスタリク族）は今やアッラーの使徒 ﷺ の姻戚だ！**」そして彼らは、自分たちの手もとにいた**捕虜を一人残らず解放した**。アーイシャは言った：「**自分の一族にとって、ジュワイリーヤほど大きな祝福となった女性をわたしは知りません。彼女のおかげで、ムスタリク族の百の家族が解放されたのです**」（『スナン・アビー・ダーウード』3931——ハサン）。

これこそ、**政治と人道の英知**であり、アッラーの使徒 ﷺ の結婚に表れている。一つの結婚によって、イスラームに敵対していた部族が姻戚となり、捕虜は喜んで解放され、その多くがのちにイスラームに入った。

教友たちもまた**高い作法**を示した：アッラーの使徒 ﷺ の親族を奴隷として所有することに耐えられなかったのである。使徒への敬意が、数百人を解放するという具体的な行動となって表れた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

より重い唱念（ズィクル）

ジュワイリーヤは**崇拝に励む人**として知られた。彼女から、イスラームで最も美しい唱念の一つが伝えられている：

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2726 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، وَعَمْرٌو النَّاقِدُ، وَابْنُ أَبِي عُمَرَ، - وَاللَّفْظُ لاِبْنِ أَبِي عُمَرَ - قَالُوا حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، مَوْلَى آلِ طَلْحَةَ عَنْ كُرَيْبٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، عَنْ جُوَيْرِيَةَ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم خَرَجَ مِنْ عِنْدِهَا بُكْرَةً حِينَ صَلَّى الصُّبْحَ وَهِيَ فِي مَسْجِدِهَا ثُمَّ رَجَعَ بَعْدَ أَنْ أَضْحَى وَهِيَ جَالِسَةٌ فَقَالَ مَا زِلْتِ عَلَى الْحَالِ الَّتِي فَارَقْتُكِ عَلَيْهَا. قَالَتْ نَعَمْ. قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لَقَدْ قُلْتُ بَعْدَكِ أَرْبَعَ كَلِمَاتٍ ثَلاَثَ مَرَّاتٍ لَوْ وُزِنَتْ بِمَا قُلْتِ مُنْذُ الْيَوْمِ لَوَزَنَتْهُنَّ سُبْحَانَ اللَّهِ وَبِحَمْدِهِ عَدَدَ خَلْقِهِ وَرِضَا نَفْسِهِ وَزِنَةَ عَرْشِهِ وَمِدَادَ كَلِمَاتِهِ.

訳：

ジュワイリーヤ رضى الله عنها によれば、預言者 ﷺ は、彼女が礼拝の場所に座っていた時、夜明けの礼拝の後の早朝に彼女の部屋を出て行かれた。そして午前（ドゥハー）の時刻を過ぎて戻られると、彼女はまだそこに座っていた。使徒は「わたしが出て行った時のままでいるのか」と尋ねられた。彼女は「はい」と答えた。預言者 ﷺ は言われた：**「わたしはあなたの後に四つの言葉を三度唱えた。それを今朝からあなたが唱えたことと量り比べれば、こちらの方が重いであろう：スブハーナッラーヒ・ワ・ビハムディヒ、アダダ・ハルキヒ、ワ・リダー・ナフスィヒ、ワ・ズィナタ・アルシヒ、ワ・ミダーダ・カリマーティヒ」**（アッラーに栄光あれ、かれに讃えあれ——かれの被造物の数ほどに、かれご自身のご満悦のままに、かれの玉座の重さほどに、かれの御言葉を記すインクの量ほどに）。

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：クタイバ・ブン・サイード、アムル・アン＝ナーキド、イブン・アビー・ウマル ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← タルハ家のマウラー、ムハンマド・ブン・アブド・アッ＝ラフマーン ← クライブ ← イブン・アッバース ← ジュワイリーヤ・ビント・アル＝ハーリス رضى الله عنها。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』唱念と祈りの書、昼の始めと就寝時の賛美の章、ハディース第 2726 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2726

このハディースの教訓

このハディースは、**唱念の質**が量よりも大切であることを教えている。意味に満ちた四つの言葉を三度唱えることは、何時間もの唱念より重い。それはまた、妻に対する使徒の**愛情**をも示している：使徒は彼女の崇拝を容易にし、その報いを増やしたいと望まれたのである。

この唱念は、夜明けの礼拝の後に唱えるのにとてもふさわしく、とりわけ忙しい人に向いている。ジュワイリーヤはムアーウィヤの時代まで生き、**ヒジュラ暦 50 年**（別の見解では 56 年）にマディーナで亡くなり、バキーウに葬られた。

ジュワイリーヤはまた**任意の断食**でも知られた。ある金曜日、彼女が断食しているところへアッラーの使徒 ﷺ が入って来られ、前日に断食したか、あるいは翌日に断食するつもりかと尋ねられた。彼女がどちらもしないと答えると、使徒は断食を解くよう命じられた。金曜日だけを断食の日として特別にすべきではないからである（『サヒーフ・ブハーリー』1986）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：163 / 211

ウンム・ハビーバ：異国の地で揺るがずに

ウンム・ハビーバ رضي الله عنها、本名**ラムラ・ビント・アビー・スフヤーン**は、**アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ**の娘である。父は最も長くイスラームに敵対したクライシュの指導者であった。しかしラムラは父の意に反して、早い時期にイスラームに入った。

彼女は**アビシニア**へ、夫の**ウバイドゥッラー・ブン・ジャフシュ**とともに移住し、そこで娘のハビーバを産んだ——それで「ウンム・ハビーバ（ハビーバの母）」と呼ばれる。信仰を守るために家族から遠く離れた異国で暮らすことは、とても重い試練であった。

スィーラの注：棄教した夫

スィーラ書（イブン・イスハークとイブン・サアド）によれば、ウバイドゥッラー・ブン・ジャフシュはアビシニアでキリスト教に改宗し、そこで亡くなった。ウンム・ハビーバは、幼い子を抱えて異国で一人残され、マッカには自分の信仰に敵対する父がいたにもかかわらず、**イスラームに堅く留まった**。

『スナン・アビー・ダーウード』2107 の伝承では、夫の名がアブドゥッラー・ブン・ジャフシュと記されている。学者たちは、これはウバイドゥッラーのことであると説明している。アブドゥッラーはウフドで殉教したからである。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）——アッラーの使徒 ﷺ の結婚の章；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

ウンム・ハビーバの不屈さは、信仰とは父や夫に左右されない**一人ひとりの選択**であることを教えている。最も近い人が背を向けても、信仰者は真理の上に立ち続ける。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

彼女の物語はまた、**導きはアッラーの賜物**であって、家の遺産ではないことを思い起こさせる。ウンム・ハビーバは多神教徒の指導者の娘でありながら、何年も前に父に先んじてイスラームに入った。反対に、かつてイスラームのために移住した夫は、ついに背を向けてしまった。だからこそわたしたちは、アッラーがわたしたちの心を堅く保ってくださるよう、常に祈るのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ナジャーシーによる婚姻契約

アッラーの使徒 ﷺ はウンム・ハビーバの境遇を聞き、アビシニアの公正な王**ナジャーシー**を通して彼女に求婚された（第 4 巻）。ナジャーシーご自身が彼女をアッラーの使徒 ﷺ と結婚させ、使徒に代わって**四千ディルハムの婚資（マフル）を支払い**、それからシュラフビール・ブン・ハサナとともに彼女をマディーナへ送り届けた（『スナン・アビー・ダーウード』2107——サヒーフ）。

この結婚は**ヒジュラ暦 6 年か 7 年**ごろに行われた。それはアッラーの使徒 ﷺ の結婚の中でただ一つ、**アラビアの外で**、一人の王によって契約され、しかも妻たちの中で最も高い婚資が払われたものであった。

アッラーがウンム・ハビーバの忍耐にどう報いられたかを見よう。彼女は夫を失い、異国で一人きりになったが、アッラーは彼女に**最良の夫**を代わりに与え、彼女を**信徒の母**とされた。これは第 3 章のウンム・サラマの祈りを思い起こさせる。

歴史家たちはまた、この結婚が**アブー・スフヤーンの心を和らげた**と述べている。その知らせを聞いた時、彼はアッラーの使徒 ﷺ について敬意を込めて語ったという。数年後、マッカ征服の際にアブー・スフヤーンはイスラームに入った（第 20 巻）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

父よりも優先される信仰

スィーラの注：敷物とアッラーの使徒 ﷺ

イブン・イスハークとイブン・サアドは次のように伝えている。マッカ征服の前、アブー・スフヤーンはフダイビヤの和約を更新するためにマディーナに来て、娘のウンム・ハビーバの家に入った。彼がアッラーの使徒 ﷺ の敷物に座ろうとすると、ウンム・ハビーバはすぐに**その敷物を畳んだ。**

アブー・スフヤーンは尋ねた：「娘よ、おまえはこの敷物をわたしにふさわしくないと思うのか、それともわたしをこの敷物にふさわしくないと思うのか。」彼女は答えた：**「これはアッラーの使徒 ﷺ の敷物です。あなたは不浄な多神教徒です。わたしはあなたがアッラーの使徒 ﷺ の敷物に座るのを望みません。**」この話はスィーラ書でよく知られているが、真正なハディース集には見られない。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）――アッラーの使徒 ﷺ の結婚の章；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

この伝承はスィーラ書によるものだが、その意味はクルアーンの教えにかなっている：**アッラーとその使徒への愛は優先されなければならない**――父や子や家族への愛よりも（悔悟章 9:24）。それでもウンム・ハビーバは、原則を損なわない仕方で父を敬い続けた。

ウンム・ハビーバはまた**定めの礼拝に付随する任意の礼拝（ラワーティブ）**についてのハディースを伝えた：「一昼夜に十二ラクアを礼拝する者には、天国に一軒の家が建てられる。」彼女は言った：**「アッラーの使徒 ﷺ からそれを聞いて以来、わたしは一度もそれを欠かしたことがありません」**（『サヒーフ・ムスリム』728）。

これが信徒の母の姿勢である：**聞き、そして絶えず実践する。**一つのハディースを着実に実践することは、ただ暗記しただけの千のハディースよりも価値がある。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

三日間の服喪

アブー・スフヤーンはウスマーンの治世に亡くなった。その訃報が届いた時、ウンム・ハビーバは、信仰ある子がどのように**父への愛と聖法への服従を両立させる**かを示した：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1280 番

حَدَّثَنَا الْحُمَيْدِيُّ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، حَدَّثَنَا أَيُّوبُ بْنُ مُوسَى، قَالَ أَخْبَرَنِي حُمَيْدُ بْنُ نَافِعٍ، عَنْ زَيْنَبَ ابْنَةِ أَبِي سَلَمَةَ، قَالَتْ لَمَّا جَاءَ نَعْيُ أَبِي سُفْيَانَ مِنَ الشَّأْمِ دَعَتْ أُمُّ حَبِيبَةَ ـ رضى الله عنها ـ بِصُفْرَةٍ فِي الْيَوْمِ الثَّالِثِ، فَمَسَحَتْ عَارِضَيْهَا وَذِرَاعَيْهَا وَقَالَتْ إِنِّي كُنْتُ عَنْ هَذَا لَغَنِيَّةً، لَوْلاَ أَنِّي سَمِعْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ لاَ يَحِلُّ لاِمْرَأَةٍ تُؤْمِنُ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الآخِرِ أَنْ تُحِدَّ عَلَى مَيِّتٍ فَوْقَ ثَلاَثٍ، إِلاَّ عَلَى زَوْجٍ، فَإِنَّهَا تُحِدُّ عَلَيْهِ أَرْبَعَةَ أَشْهُرٍ وَعَشْرًا.

訳：

ザイナブ・ビント・アビー・サラマによれば、彼女は言った。アブー・スフヤーンの訃報がシャームから届いた時、ウンム・ハビーバ رضى الله عنها は三日目に黄色い香料を求め、両頬と両腕に塗って言った：「**わたしにはこれは必要ありません。ただ、預言者 ﷺ がこう言われるのを聞いたからです：『アッラーと最後の日を信じる女性は、誰の死であれ三日を超えて喪に服すことは許されない。ただし夫の場合は別で、四か月と十日の間、喪に服する。』**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アル＝フマイディー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アイユーブ・ブン・ムーサー ← フマイド・ブン・ナーフィウ ← ザイナブ・ビント・アビー・サラマ ← ウンム・ハビーバ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』葬儀の書、夫以外の者のための女性の服喪の章、ハディース第 1280 番。第 5334 番、『サヒーフ・ムスリム』第 1486 番も参照。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1280

このハディースの教訓

ウンム・ハビーバは父の死を三日間悼み、それから喪の期間が終わったことを示すために**あえて香料をつけた**。彼女に香料は必要なかったが、行いによってウンマにこの規定を**教え**たかったのである。

このハディースは、イスラームにおける**イフダード**（服喪）の規定の基礎となった：親族の死には三日間、夫を亡くした妻には四か月と十日である。イスラームは悲しみを認めるが、それが長引いて生活を妨げることのないよう**節度を設けている**。

ウンム・ハビーバは**ヒジュラ暦 44 年**、兄弟ムアーウィヤの治世にマディーナで亡くなり、バキーウに葬られた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サフィーヤ・ビント・フヤイ：祖先は預言者ハールーン عَلَيْهِ السَّلَامُ

サフィーヤ・ビント・フヤイ・ブン・アフタブ رضى الله عنها は、ユダヤ人の部族**ナディール族**の首長の娘であり、**預言者ハールーン** عَلَيْهِ السَّلَامُ——預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ の兄弟——の子孫であった。父はイスラームの最も激しい敵の一人で、塹壕の戦いではアラブの諸部族を扇動し（第 12 巻）、クライザ族の裏切りの後に処刑された（第 13 巻）。

ナディール族はマディーナから追放された後、**ハイバル**に住みついた。サフィーヤはハイバルの指導者の一人キナーナ・ブン・アッ＝ラビーウと結婚していた。ヒジュラ暦 7 年、ハイバルはムスリム軍によって開かれ（第 16 巻）、夫は殺された。

一瞬のうちに、サフィーヤは**父と夫と一族**を失った。彼女は 17 歳ほどの若い女性で、捕虜となった。アッラーの使徒 ﷺ は、ご自分の最も激しい敵の娘をどのように扱われたのだろうか。

サフィーヤの物語はまた、**父の罪を子が負うことはない**ことを示している。アッラーは仰せられる：「重荷を負う者は、外の者の重荷を負わない」（家畜章 6:164）。フヤイはイスラームに敵対したが、その娘は余すところなく尊ばれた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

解放され、妻とされる

アッラーの使徒 ﷺ はサフィーヤをご自分のために選び、イスラームを勧められると、彼女はイスラームに入った。それから使徒は彼女を**解放された**：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 5086 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادٌ، عَنْ ثَابِتٍ، وَشُعَيْبِ بْنِ الْحَبْحَابِ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَعْتَقَ صَفِيَّةَ، وَجَعَلَ عِتْقَهَا صَدَاقَهَا.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه によれば：「**アッラーの使徒 ﷺ はサフィーヤを解放し、その解放を彼女の婚資とされた。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ハンマード・ブン・ザイド ← サービト・アル＝ブナーニー と シュアイブ・ブン・アル＝ハブハーブ ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』婚姻の書、女奴隷を解放してそれを婚資とする章、ハディース第 5086 番。第 371 番、第 4200 番、『サヒーフ・ムスリム』第 1365 番も参照。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:5086

このハディースの教訓

使徒は彼女を奴隷とはせず、余すところない尊厳をもつ**自由な妻**とされた。解放そのものが婚資となった——捕虜に与えうる**最も価値ある贈り物**である。

アナス رضي الله عنه は、帰路の途中で**アッラーの使徒 ﷺ がご自分のラクダのそばに座り、膝を差し出された**こと、そしてサフィーヤが使徒の膝に足をかけてラクダに乗ったことを伝えている（『サヒーフ・ブハーリー』4211）。使徒はまた、乗っている彼女を布で覆われた。彼女が奴隷ではなく使徒の妻であることのしるしである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：171 / 211

サフィーヤの気持ちを想像してみよう：一族から憎むよう教えられてきた人が、今は自分のために**膝をかがめて**くださる。この優しさこそが心を変えるのである。サフィーヤはのちに、アッラーの使徒ﷺを深く愛する信仰者となった。

「あなたは預言者の娘である」

ユダヤ人の家系の女性として、サフィーヤは他の妻たちから時に**皮肉を言われた**。アナス رضى الله عنه によれば、ハフサが「ユダヤ人の娘」と言ったことがサフィーヤの耳に入り、彼女は泣いた。アッラーの使徒 ﷺ が入って来られ、なぜ泣いているのかと尋ねられた。

使徒は言われた：「**本当にあなたは預言者の娘であり、あなたのおじは預言者であり、あなたは預言者の妻である。それなのに彼女は何をあなたに誇るというのか。**」それから使徒はハフサに「ハフサよ、アッラーを畏れなさい」と言われた（『ジャーミウ・ティルミズィー』3894——サヒーフ）。

使徒の賢明さを見よう：使徒はサフィーヤの出自を否定せず、**見方を変えられた**のである。ユダヤ人の家系は恥ではない——それは彼女を**預言者ハールーンと預言者ムーサー** عَلَيْهِ السَّلَامُ に結びつけるものである。イスラームはイスラエルの子孫の預言者たちを敬い、出自を理由に誰をも辱めない。

これはまた**人種差別**についての教訓でもある：民族や家系を理由に人を辱めることはジャーヒリーヤの性質である。アッラーの使徒 ﷺ は、それが起きた時、たとえ親友の娘ハフサであっても、ご自分の妻をすぐに戒められた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

モスクにいる使徒を訪ねる

サフィーヤはアッラーの使徒 ﷺ を深く愛し、使徒もその愛にこまやかな心配りで応えられた。使徒がお籠もり（イウティカーフ）をしておられた時の出来事がそれを示している：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2035 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْيَمَانِ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي عَلِيُّ بْنُ الْحُسَيْنِ ـ رضى الله عنهما ـ أَنَّ صَفِيَّةَ، زَوْجَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم أَخْبَرَتْهُ أَنَّهَا جَاءَتْ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم تَزُورُهُ فِي اعْتِكَافِهِ فِي الْمَسْجِدِ، فِي الْعَشْرِ الأَوَاخِرِ مِنْ رَمَضَانَ، فَتَحَدَّثَتْ عِنْدَهُ سَاعَةً، ثُمَّ قَامَتْ تَنْقَلِبُ، فَقَامَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مَعَهَا يَقْلِبُهَا، حَتَّى إِذَا بَلَغَتْ بَابَ الْمَسْجِدِ عِنْدَ بَابِ أُمِّ سَلَمَةَ مَرَّ رَجُلاَنِ مِنَ الأَنْصَارِ، فَسَلَّمَا عَلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ لَهُمَا النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم عَلَى رِسْلِكُمَا إِنَّمَا هِيَ صَفِيَّةُ بِنْتُ حُيَيٍّ. فَقَالاَ سُبْحَانَ اللَّهِ يَا رَسُولَ اللَّهِ. وَكَبُرَ عَلَيْهِمَا. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِنَّ الشَّيْطَانَ يَبْلُغُ مِنَ الإِنْسَانِ مَبْلَغَ الدَّمِ، وَإِنِّي خَشِيتُ أَنْ يَقْذِفَ فِي قُلُوبِكُمَا شَيْئًا.

訳：

アリー・ブン・アル＝フサインによれば、サフィーヤ رضى الله عنها——預言者 ﷺ の妻——が彼に語ったところでは、ラマダーンの最後の十夜にモスクでお籠もりをしておられたアッラーの使徒 ﷺ を彼女が訪ねた。彼女はしばらく使徒と話し、それから帰ろうと立ち上がった。**預言者 ﷺ は彼女を送るためにともに立ち上がられた。**ウンム・サラマの家の戸口に近いモスクの門まで来た時、アンサールの男が二人通りかかり、アッラーの使徒 ﷺ に挨拶した。預言者 ﷺ は二人に言われた：「**落ち着きなさい。これはサフィーヤ・ビント・フヤイである。**」二人は「スブハーナッラー（アッラーに栄光あれ）、アッラーの使徒よ！」と言い、そのことを重く感じた。預言者 ﷺ は言われた：「**シャイターンは血の流れのように人の中を巡る。わたしは、それがあなたがた二人の心に何か（悪い疑い）を投げ込むのではないかと恐れたのだ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ヤマーン・アル＝ハカム・ブン・ナーフィウ ← シュアイブ・ブン・アビー・ハムザ ← イブン・シハーブ・アッ＝ズフリー ← アリー・ブン・アル＝フサイン（ザイン・アル＝アービディーン） ← サフィーヤ・ビント・フヤイ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』お籠もり（イウティカーフ）の書、お籠もりする者がモスクの門まで出る章、ハディース第 2035 番。『サヒーフ・ムスリム』第 2175 番も参照。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2035

このハディースの教訓

このハディースには大きな教訓がある：**悪い疑いを招く場を避けること**である。最も清らかな人間であるアッラーの使徒 ﷺ でさえ、二人の教友がシャイターンに惑わされないよう、状況をはっきり説明された。ましてわたしたちは、なおさら疑いから身を守る必要がある。

それはまた使徒の**温かさ**をも示している：ラマダーンの最後の十夜にお籠もりの最中でありながら、使徒は**立ち上がって妻を門まで送られた**。崇拝は、家族の権利を果たすことの妨げとはならなかった。

サフィーヤは**ヒジュラ暦 50 年**（別の見解では 52 年）、ムアーウィヤの時代にマディーナで亡くなり、バキーウに葬られた。

アッラーの使徒 ﷺ が重い病の床にあった時、サフィーヤは——イブン・サアドの伝承によれば——こう言って愛情を示した：「アッラーにかけて、アッラーの預言者よ、あなたが負っておられるものが、わたしの身に降りかかればよいのに。」他の妻たちが冷ややかな目を向けると、使徒は「アッラーにかけて、彼女は本心を言っている」と言われた。サフィーヤの真心は、アッラーの使徒 ﷺ ご自身によって認められたのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス：最後の妻

マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス・アル＝ヒラーリーヤ رضي الله عنها は、**最後の妻**としてアッラーの使徒 ﷺ に迎えられた人である。もとの名はやはり**バッラ**であったが、使徒はマイムーナ――「祝福された者」の意――と改められた。彼女はアル＝アッバースの妻ウンム・アル＝ファドルの姉妹であり、そのためアブドゥッラー・ブン・アッバースとハーリド・ブン・アル＝ワリードの**母方のおば**にあたる。

この結婚は**ヒジュラ暦 7 年、補いのウムラ（ウムラ・アル＝カダー）**の折に行われ（第 18 巻）、新しい家庭はマディーナへの帰路、マッカから約 10 マイルの**サリフ**という地で始まった。

スィーラの注：使徒は巡礼着（イフラーム）の状態にあったのか

イブン・アッバースは、アッラーの使徒 ﷺ がイフラームの状態でマイムーナと結婚されたと伝えている（『サヒーフ・ブハーリー』1837）。しかしマイムーナご自身は、使徒が**イフラームの状態ではない時に**自分と結婚されたと言い（『サヒーフ・ムスリム』1411）、この結婚の使者であったアブー・ラーフィウも同じことを言っている。

学者の大多数は、マイムーナとアブー・ラーフィウの伝承を優先する。彼らが**直接の当事者**であったからであり、またアッラーの使徒 ﷺ が「イフラームの状態にある者は、結婚してはならず、他人を結婚させてもならない」と言われたからである（『サヒーフ・ムスリム』1409）。

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』1837；『サヒーフ・ムスリム』1409、1411；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』。https://sunnah.com/muslim:1411

この結婚によって、アッラーの使徒 ﷺ は**ヒラール族**とアル＝アッバースの家との絆を深められた。ほどなくして、マイムーナの甥ハーリド・ブン・アル＝ワリードがイスラームに入り、「アッラーの剣」となった（第 19 巻）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：176 / 211

清めの法学を教えた人

マイムーナは**私生活**におけるアッラーの使徒 ﷺ の姿について、とりわけ使徒の清めの仕方について、多くのハディースを伝えた：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 249 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ يُوسُفَ، قَالَ حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ سَالِمِ بْنِ أَبِي الْجَعْدِ، عَنْ كُرَيْبٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، عَنْ مَيْمُونَةَ، زَوْجِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَتْ تَوَضَّأَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وُضُوءَهُ لِلصَّلاَةِ غَيْرَ رِجْلَيْهِ، وَغَسَلَ فَرْجَهُ، وَمَا أَصَابَهُ مِنَ الأَذَى، ثُمَّ أَفَاضَ عَلَيْهِ الْمَاءَ، ثُمَّ نَحَّى رِجْلَيْهِ فَغَسَلَهُمَا، هَذِهِ غُسْلُهُ مِنَ الْجَنَابَةِ.

訳：

マイムーナ رضى الله عنها——預言者 ﷺ の妻——によれば、彼女は言った：「**アッラーの使徒 ﷺ は、両足を除いて礼拝のための小浄（ウドゥー）と同じように洗い、陰部とそこについた汚れを洗い、それから全身に水を注ぎ、そして両足を少しずらして洗われた。これが、大汚れからの使徒の沐浴の仕方であった。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ユースフ・アル＝フィルヤービー ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← アル＝アアマシュ ← サーリム・ブン・アビー・アル＝ジャアド ← クライブ ← イブン・アッバース ← マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』沐浴（グスル）の書、沐浴の前の小浄の章、ハディース第 249 番。第 257 番、第 265 番、『サヒーフ・ムスリム』第 317 番も参照。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:249

このハディースの教訓

このハディースは、完全な大汚れの沐浴の仕方について、法学者たちの**主要な典拠**となった。このような知識は妻にしか伝えられない——そしてマイムーナは、知識を妨げる恥じらいにとらわれることなく、はっきりと詳しくそれを伝えた。

マイムーナの家はまた、**イブン・アッバースが学んだ場所**でもあった。彼はアッラーの使徒 ﷺ が夜の礼拝をどのようにされるかを見ようと、このおばの家に泊まったことがあり、使徒は礼拝の中で彼の立つ位置を正された（『サヒーフ・ブハーリー』183）。マイムーナの家で学んだその少年は、のちに「**クルアーンの通訳者（トゥルジュマーン・アル＝クルアーン）**」——最も優れたクルアーン注釈者——となった。

サリフでの逝去

マイムーナはアッラーの使徒 ﷺ の後、約 40 年生きた。死期が近いと感じた時、彼女はマッカから連れ出してほしいと頼んだ。彼女は**サリフ**——アッラーの使徒 ﷺ との生活を始めたその同じ場所——で、**ヒジュラ暦 51 年**に亡くなり、そこに葬られた。

スィーラの注：マイムーナに対するアーイシャの称賛

アル＝ハーキムは、アーイシャがマイムーナについてこう言ったと伝えている：「アッラーにかけて、彼女はわたしたちの中で最も主を畏れ、最も親族の絆を大切にする人の一人でした。」アル＝ハーキムとザハビーはその伝承経路を真正と評価している。イブン・アッバースご自身が、このおばの葬儀の礼拝を行った。

参照：

アル＝ハーキム『アル＝ムスタドラク』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

この話は胸を打つ：彼女の始まりの場所と終わりの場所は**同じ**であった。まるでマイムーナは、生涯で最も美しい思い出——アッラーの使徒 ﷺ の妻となった日——へ帰りたかったかのようである。

マイムーナはまた**女性の清浄**について、そしてアッラーの使徒 ﷺ が月経中の妻を遠ざけられなかったことについてのハディースを伝えている——マイムーナは使徒の礼拝の場所のそばに座り、使徒が平伏されると、その衣が彼女に触れた（『サヒーフ・ブハーリー』333）。この教えは、月経中の女性を完全に隔離する一部の社会の慣習を退けるものである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

注：マーリヤ・アル＝キブティーヤ

十一人の妻のほかに、アッラーの使徒 ﷺ には、使徒の子を産んだ一人の**女奴隷**がいた：**マーリヤ・アル＝キブティーヤ** رضي الله عنها である。彼女はエジプトの出身で、エジプトの支配者**ムカウキス**が、使徒の宣教の手紙への返答として使徒に贈った女性であった（第 17 巻）。

スィーラの注：マーリヤの立場

学者の大多数は、マーリヤは**ウンム・ワラド**（主人の子を産んだ女奴隷）であって、婚姻を結んだ妻ではないとする。そのため、彼女は特別な称号としての「信徒の母たち」には**含まれない**。ただし、アッラーの使徒 ﷺ の息子の母として尊ばれている。

少数の学者は、使徒が彼女を解放して妻とされたと考えるが、この見解はよく知られたものではない。マーリヤはイスラームに入り、マディーナで暮らし、**ヒジュラ暦 16 年**、ウマルの時代に亡くなった。ウマルがその葬儀の礼拝を行った。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）――アッラーの使徒 ﷺ の結婚の章；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』；イブン・カスィール『始まりと終わり』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

やがて**ヒジュラ暦 8 年**、マーリヤは男の子を産み、**イブラーヒーム**と名づけられた。預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ にちなんだ名である。アッラーの使徒 ﷺ はたいそう喜ばれた。イブラーヒームは、ハディージャ以外から生まれた使徒のただ一人の子である。使徒は彼をマディーナ郊外の乳母に預け、たびたび訪ねられた。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「目は涙を流し、心は悲しむ」

しかしイブラーヒームは **16 か月から 18 か月**ほどしか生きなかった。アナス رضى الله عنه によれば、イブラーヒームが息を引き取ろうとしていた時、彼らはアッラーの使徒 ﷺ とともに、イブラーヒームの乳母の夫アブー・サイフの家に入った。使徒の目から涙が流れた。アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・アウフが尋ねた：「アッラーの使徒よ、あなたも（泣かれるのですか）」（『サヒーフ・ブハーリー』1303）

使徒は言われた：「**イブン・アウフよ、これは慈しみなのだ。**」それから言われた：「**目は涙を流し、心は悲しむ。だがわたしたちは、主がお喜びになること以外は口にしない。イブラーヒームよ、本当にわたしたちはおまえとの別れを深く悲しんでいる**」（『サヒーフ・ブハーリー』1303）。

イブラーヒームが亡くなった日、**日食**が起きた。人々は、日食はイブラーヒームの死のために起きたのだと言った。使徒はすぐに彼らを正された：「**太陽と月は、誰かの死や生のために欠けるのではない**」（『サヒーフ・ブハーリー』1043）。悲しみのさなかにあっても、使徒は迷信からウンマの**信仰（アキーダ）を守られた**のである。

使徒はまたこうも言われた：「彼（イブラーヒーム）には天国に乳母がいる」（『サヒーフ・ブハーリー』1382）。この話から、**死を悼んで泣くこと**は忍耐に反しないことを学ぶ。禁じられているのは、泣きわめくことと、アッラーのお喜びにならない言葉を口にすることである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

母たちが語り継いだアッラーの使徒 ﷺ の姿

アッラーの使徒 ﷺ が亡くなった後、使徒の妻のうち九人が存命であった。アッラーは、使徒の後に彼女たちを**永遠に娶ってはならない**と定められた（部族連合章 33:53）。彼女たちは預言者のモスクのそばの自分たちの家に留まり、ウンマ全体の母であり続けた。

アッラーの使徒 ﷺ はかつて彼女たちに言われた：「**あなたがたのことは、わたしの亡き後にわたしが気にかけることの一つである。あなたがたを守り支えることに耐えられるのは、忍耐強く誠実な者たちだけであろう**」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3749——ハサン）。

カリフたちはこの託された務めを果たした。アブー・バクルとウマル رضى الله عنهما は彼女たちを尊び、ウマルは国庫（バイト・アル＝マール）から**最も高額の年金**を預言者 ﷺ の妻たちに定めた。しかし彼女たちの多くは、その年金を貧しい人々に施した。

彼女たちの家は**学問の中心**となった。教友たちや後継世代の人々がスンナについて尋ねに来て、彼女たちは帳の後ろから答えた。彼女たちがいなければ、**私生活**におけるアッラーの使徒 ﷺ についての知識の大部分は失われていたであろう。

預言者 ﷺ の妻たちはまた、互いに嫉妬の感情を抱くことがあっても、**大きな事柄では一つにまとまった**。ウスマーンの時代の後に争乱や政治的な対立が起きた時、彼女たちはムスリム同士の血を守り、クルアーンとスンナに立ち返るよう人々に助言した。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

さまざまな出自、一つの家

アッラーの使徒 ﷺ の十一人の妻の系譜を並べ直してみると、当時の**アラブ社会の地図**が見えてくる。これらの結婚を通して、使徒はアブー・バクルの家（タイム族）、ウマルの家（アディー族）、アブー・スフヤーンの家（ウマイヤ族）、マフズーム族、アサド族、アーミル族、ヒラール族、ムスタリク族、そしてナディール族と結ばれた。

部族社会では、結婚は家と家との**最も強い絆**である。姻戚関係は昨日の敵を今日の親族に変え、宣教に向けて心の扉を開く。ムスタリク族はジュワイリーヤのおかげで解放され、アブー・スフヤーンの心はウンム・ハビーバを通して和らぎ、ヒラール族はマイムーナを通して近づいた。

しかし彼女たち全員を一つにしたのは家柄ではなく、**主を畏れる心（タクワー）**であった。アッラーは仰せられる：**「アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたの中最も主を畏れる者である」**（部屋章 49:13）— 『イブン・カスィール注釈』49:13。

一つの家に、アブー・バクルの娘とアブー・スフヤーンの娘、ユダヤ人首長の娘とアッラーの使徒 ﷺ のいとこ、元捕虜とクライシュの高貴な女性が暮らしていた。彼女たちは張り合い、時に嫉妬もしたが、最後には皆そろって**アッラーとその使徒を選んだ**のである（部族連合章 33:29）。

多様な民族と背景から成る今日の社会への教訓：出自の違いは団結の**妨げにはならない**。信仰が土台となる時、家庭もモスクも国家も、さまざまな背景をもつ人々を愛情のうちに一つにすることができる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

信徒の母たちに対するわたしたちの作法

預言者 ﷺ の妻たちは使徒の**教友の一部**であり、しかも使徒に最も近い人々である。アッラーの使徒 ﷺ は言われた：「**わたしの教友たちを罵ってはならない。たとえあなたがたの誰かがウフドの山ほどの金を施したとしても、彼らのームッド（両手一杯）の施しにも、その半分にも及ばないのである**」（『サヒーフ・ブハーリー』3673）。

したがって、信徒の母たちに対するムスリムの作法は次の通りである：（1）分け隔てなく彼女たち全員を**愛し敬う**こと。（2）彼女たちのために**祈る**こと。祝福の祈り（サラワート）の中でも「アッラーよ、ムハンマドとその妻たちと子孫に祝福を与えてください」と祈る（『サヒーフ・ブハーリー』3369）。（3）あらゆる非難から彼女たちの**名誉を守る**こと。

わたしたちはまた**彼女たちの伝えたことを学ぶ**。小浄をし、沐浴をし、夜の礼拝をし、任意の断食をし、災難の時の祈りを正しく唱えるたびに、わたしたちは実は母たちが伝えた知識を実践しているのである。会ったことはなくとも、彼女たちはわたしたちの**師**なのである。

最後に、わたしたちは生活の中で彼女たちに**倣う**：ハディージャの誠実さ、サウダとザイナブの気前のよさ、アーイシャとウンム・サラマの知識、ハフサとジュワイリーヤの崇拝、ウンム・ハビーバの不屈さ、サフィーヤの忍耐強さ、そしてマイムーナの知識への愛。すべての女性——そしてすべての男性——が、彼女たちの中に模範を見いだすことができる。

六人の信徒の母の一覧表

これまでの章では、この第 2 部の六人の信徒の母の物語を一人ずつ語ってきた。この章では、第 1 部（第 32 巻）で五人の母について行ったのと同じく、彼女たちについての基本的な情報を一つの表にまとめる。

この表の年は、スィーラ書や列伝（タバカート）書でよく知られた見解である。その一部は歴史家の間で見解が分かれており、別の見解を括弧内に記した。

信徒の母	家系	結婚前	結婚	逝去と墓所
ウンム・サラマ（ヒンド・ビント・アビー・ウマイヤ）	クライシュのマフズーム族	ウフドの傷がもとで亡くなったアブー・サラマの未亡人	ヒジュラ暦 4 年、マディーナにて	ヒジュラ暦 61 年または 62 年；バキーウ
ザイナブ・ビント・ジャフシュ	アサド・ブン・フザイマ族；母はウマイマ・ビント・アブド・アル＝ムッタリブ	ザイド・ブン・ハーリサと離婚	ヒジュラ暦 5 年（別の見解では 4 年）、マディーナにて	ヒジュラ暦 20 年、ウマルの時代；バキーウ
ジュワイリーヤ・ビント・アル＝ハーリス	フザーア族のムスタリク族	未亡人；ムライスィーウの遠征で捕虜となる	ヒジュラ暦 5 年または 6 年、マディーナにて	ヒジュラ暦 50 年（別の見解では 56 年）；バキーウ
ウンム・ハビーバ（ラムラ・ビント・アビー・スフヤーン）	クライシュのウマイヤ族	ウバイドゥッラー・ブン・ジャフシュの未亡人；アビシニアへの女性移住者	ヒジュラ暦 6 年または 7 年；アビシニアで契約	ヒジュラ暦 44 年、ムアーウィヤの時代；バキーウ
サフィーヤ・ビント・フヤイ	ナディール族；祖先は預言者ハールーン عَلَيْهِ السَّلَامُ	キナーナ・ブン・アッ＝ラビーウの未亡人；ハイバルの捕虜	ヒジュラ暦 7 年、ハイバル開城の後	ヒジュラ暦 50 年（別の見解では 52 年）；バキーウ

信徒の母	家系	結婚前	結婚	逝去と墓所
マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス	ヒラール・ブン・アーミル族	未亡人	ヒジュラ暦 7 年、補いのウムラの折	ヒジュラ暦 51 年；マッカ近郊のサリフ

この表から、六人全員が未亡人であったことがわかる。三人はクライシュの出身で、残る三人は他の部族——ムスタリク族、ナディール族、ヒラール族——の出身である。これらの結婚はすべてヒジュラ暦 4 年から 7 年の間にマディーナで行われた。それは戦い、和約、宣教で最も忙しい時期であった。

そのうち五人は預言者のモスクのそばのバキーウに葬られた。マイムーナだけが、アッラーの使徒 ﷺ との生活を始めた場所であるサリフに葬られた（第 26 章）。第 1 部と合わせると、バキーウに葬られていない妻は二人だけである：マッカのハジューンに眠るハディージャと、サリフに眠るマイムーナである。

スィーラの注：妻の数——アッラーの使徒 ﷺ

スィーラの学者たちは、婚姻を結んでアッラーの使徒 ﷺ とともに暮らした妻は十一人であったと述べている：第 1 部に五人、第 2 部に六人である。二人（ハディージャとザイナブ・ビント・フザイマ）は使徒の存命中に亡くなり、九人は使徒が亡くなった時に存命であった。

スィーラ書には他にもいくつかの名が見られる——契約は結ばれたが同居しなかった女性や、求婚されたが結婚に至らなかった女性——が、彼女たちについての情報は見解が分かれている。ライハーナ・ビント・ザイドについては、イブン・イスハークは使徒の所有する女奴隷とし、イブン・サアドは解放されて妻となった女性としている。そのため、大多数の学者は十一人という数を採っている。

参照：イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』第 8 巻；ザハビー『高貴なる人々の伝記（スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー）』第 2 巻；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』；イブン・アル＝カイイム『来世への糧（ザ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：186 / 211

ード・アル＝マアード）』預言者 ﷺ の妻たちの節；イブン・カスィール『始まりと終わり（アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ）』。

教訓

この六人の母は、それぞれ異なる道を通ってアッラーの使徒 ﷺ の家に来た：夫の死という災難、啓示による定め、戦争での捕虜、異国での移住、そしてウムラの際の和約。しかし、そのどの道も同じ場所に行き着いた：信徒の母という栄誉である。

これは、アッラーが表向きには苦い境遇を通して善の扉を開かれることを教えている。喪失も、捕虜の身も、孤立も、最後の審判の日まで続く栄誉の始まりとなったのである。

これらの結婚に秘められた英知

第 1 部の第 34 章では、アッラーの使徒 ﷺ の結婚が情欲によるものだったのかという疑問に答えた。この第 2 部では別の面を見る：一つひとつの結婚には明らかな英知があった。聖法の規定を打ち立てるため、虐げられた女性を守るため、あるいは部族をイスラームに結びつけるためである。

信徒の母	主な英知	結果
ウンム・サラマ	移住者でありバドルの戦士であった人の未亡人と、その孤児となった子どもたちを守る	子どもたちは預言者 ﷺ の家で育ち、彼女は知識のよりどころとなった（第 4、7 章）
ザイナブ・ビント・ジャフシュ	養子に関するジャーヒリーヤの規定を廃する（部族連合章 33:37）	養子の血統は実の父に残り、その元妻はマフラムではない（第 9 章）
ジュワイリーヤ	ムスタリク族をムスリムと結びつける	百の家族が解放され、多くがイスラームに入った（第 14 章）
ウンム・ハビーバ	異国の地で夫に見捨てられた女性移住者を守る	ウマイヤ族とアブー・スフヤーンの心を近づける（第 17 章）
サフィーヤ	父と夫と一族を失った敵の首長の娘を尊ぶ	捕虜への接し方の模範；人種差別を退ける（第 21、22 章）
マイムーナ	ヒラール族とアル＝アッバースの家との絆を深める	彼女の家はイブン・アッバースの学び舎となった（第 25 章）

行いによって打ち立てられた規定

ザイナブ・ビント・ジャフシュとの結婚は、最もはっきりした例である。アッラーご自身がその目的を述べておられる：「われはあなたをかの女と結婚させた。（これからは）信者が、必要な離婚手続きを完了した時は、自分の養子の妻でも、（結婚にも）差し支えないことにした」（部族連合章 33:37） — 『イブン・カスィール注釈』33:37。

何世紀にもわたって根づいた慣習は、言葉だけでは容易に消えない。最も敬われる人による模範が必要である。そこでアッラーは、人々が噂することを使徒が承知しておられたにもかかわらず、ご自身の使徒をこの新しい規定を実行する最初の人とされた（第 10 章）。

部族の間の架け橋

アラブ社会において、姻戚関係はきわめて強い絆であった。アッラーの使徒 ﷺ がジュワイリーヤと結婚されると、教友たちは「彼らは今やアッラーの使徒 ﷺ の姻戚だ」と言って、ムスタリク族の捕虜をすべて解放した。アーイシャは、自分の一族にとってジュワイリーヤほど大きな祝福となった女性を知らないと言った（『スナン・アビー・ダーウード』3931）。

ウンム・ハビーバとの結婚は、当時のクライシュの指導者アブー・スフヤーンと使徒を結びつけた。サフィーヤとの結婚は、イスラームが敵の子どもたちに復讐しないことをユダヤの人々に示した。そしてマイムーナとの結婚は、アル＝アッバースの家およびヒラール族との絆を深めた。ほどなくして、彼女の甥ハーリド・ブン・アル＝ワリードがイスラームに入った。

> **スィーラの注：アブー・スフヤーンの言葉**
>
> イブン・サアドと何人かのスィーラ学者は、娘がアッラーの使徒 ﷺ に嫁いだと聞いたアブー・スフヤーンが、使徒を退けることのできない高潔な人物として称えたと伝えている。この伝承はスィーラ書に見られるもので、真正な伝承経路はない。
>
> 確かなのは、アブー・スフヤーンがヒジュラ暦 8 年のマッカ征服の際にイスラームに入り（第 20 巻）、ウスマーンの時代にムスリムとして亡くなったことである。ウンム・ハビーバは彼のために三日間喪に服した（第 19 章）。

参照：『スナン・アビー・ダーウード』3931；『スナン・アビー・ダーウード』2107；『サヒーフ・ブハーリー』5086；『サヒーフ・ムスリム』1411；イブン・カス

ィール『偉大なるクルアーンの注釈』（部族連合章 33:37）；イブン・アル＝カイイム『来世への糧（ザード・アル＝マアード）』。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ の一つひとつの結婚は、使命の一部であった。使徒は言葉だけで規定を教えられたのではなく、ご自身の家庭生活によっても教えられた。だから使徒の家庭を学ぶことは、イスラームがどのように女性を守り、不正な慣習を廃し、人々を一つにしたかを学ぶことなのである。

この英知はまた、歴史上の出来事をその全体の文脈の中で評価するよう、わたしたちに思い起こさせる。文脈が理解されれば、最初は疑問に見えたものが、英知と慈悲の証しとなる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

大所帯の家庭における公平

アッラーの使徒 ﷺ は、同時に九人の妻をもつ家庭をどのように営まれたのだろうか。真正なハディースははっきりとした姿を伝えている：アッラーが使徒に裁量を与えておられたにもかかわらず（部族連合章 33:51、第 1 部第 32 章）、使徒はご自分の力の及ぶ事柄において公平を固く守られた。

整えられた順番

妻たちにはそれぞれの順番があった。サウダ・ビント・ザムアは年を重ねると、自分の順番を快くアーイシャに譲った。アッラーの使徒 ﷺ はその贈り物を受け入れ、アーイシャには二日——彼女自身の日とサウダの日——を割り当てられた（『サヒーフ・ブハーリー』5212；『サヒーフ・ムスリム』1463）。

それでも使徒は、自分の順番の日でない妻たちをおろそかにされなかった。アーイシャによれば、使徒はアスルの礼拝を終えると妻たちのもとを訪ね、一人ひとりのそばに寄られた（『サヒーフ・ブハーリー』5216）。この習慣から、禁止章が下る原因となった、ザイナブ・ビント・ジャフシュの家での蜂蜜の出来事が起きた（第 1 部第 32 章）。

旅の際のくじ引き

使徒は旅に出ようとされる時、妻たちの間でくじを引き、名の出た者が使徒に同行した（『サヒーフ・ブハーリー』2593）。こうして、誰も取り残されたと感じることはなかった。このくじによって、アーイシャはムスタリク族への遠征に同行することになった（『サヒーフ・ブハーリー』2661；第 14 巻）。

病の時に許しを求める

最後の病の時、アッラーの使徒 ﷺ は「明日はわたしはどこか。明日はわたしはどこか」と尋ね続けられた——アーイシャの家にいたいと望まれたからである。そこで妻たちは、使徒が望むところにとどまることを許し、使徒は亡くなるまでアーイシャ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

の家で看病を受けられた（『サヒーフ・ブハーリー』4450；第 30 巻）。重い病の中にあっても、使徒は妻たちの許しなしには移られなかったのである。

公平と心の愛情

アッラーは仰せられる：「あなたがたは妻たちに対して公平にしようとしても、到底出来ないであろう。あなたがたは（そう）望んでも。偏愛に傾き、妻の一人をあいまいに放って置いてはならない」（女性章 4:129） — 『イブン・カスィール注釈』4:129。

イブン・カスィールは、人が達成できない公平とは愛情や心の傾きにおける公平であると説明している。心は人間の手の及ばないところにあるからである。義務とされるのは外面的な事柄における公平である：順番、扶養、住まい、そして接し方。アッラーの使徒 ﷺ はまた警告された：「二人の妻をもつ者が、そのうちの一人に偏るならば、審判の日に体の半分が傾いた姿で来るであろう」（『スナン・アビー・ダーウード』2133——サヒーフ）。

> **スィーラの注：「これがわたしの分配です」という祈り**
>
> アッラーの使徒 ﷺ は順番を公平に分けた後、こう祈られたという伝承がある：「アッラーよ、これがわたしの所有するものにおけるわたしの分配です。あなたが所有し、わたしが所有しないものについて、わたしを責めないでください」（『スナン・アビー・ダーウード』2134）。
>
> ティルミズィーは、この伝承はむしろムルサル（教友を欠く伝承）であるとし、アルバーニーを含む多くのハディース学者がその伝承経路を弱いと評価している。しかしその意味は女性章 4:129 にかなっている：心の愛情は問われないが、外面的な行いは公平でなければならない。

参照：『サヒーフ・ブハーリー』5212；『サヒーフ・ブハーリー』5216；『サヒーフ・ブハーリー』2593；『サヒーフ・ブハーリー』4450；『スナン・アビー・ダーウ

ード』2133；イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（女性章 4:129）；ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』授乳の書。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ の公平は、日を分けることだけではなかった。日々の訪問、公明なくじ引き、許しを求めること、そして一人の妻が他の妻に贈ったものを尊重することまでも含んでいた。これは一夫多妻のすべての夫にとっての高い基準であり——そして複数の子をもつすべての親にとっての基準でもある。

これらの出来事はまた、預言者 ﷺ の家庭が人間の家庭であり、嫉妬や人間らしい感情もあったことを示している。それを模範としているのは問題がなかったことではなく、問題が公平に、優しく、啓示に導かれて扱われたことである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

母たちが遺した知識

第1部の第33章では、アーイシャをはじめとする妻たちが、「アッラーの印と英知」（部族連合章 33:34）を銘記せよというアッラーの命令をどのように果たしたかを見た。この第 2 部の六人の母もまた大きな知識の遺産を残し、その一部をわたしたちは気づかないまま毎日実践している。

信徒の母	ハディースの概数	弟子の例	伝承の例
ウンム・サラマ	約 378	子のウマルとザイナブ、サイード・ブン・アル＝ムサイヤブ、アブドゥッラー・ブン・ラーフィウ（彼女のマウラー）	災難の時の祈り（『サヒーフ・ムスリム』918）；髪を編んだ女性の沐浴（『サヒーフ・ムスリム』330）
マイムーナ	約 76	イブン・アッバース、クライブ、ヤズィード・ブン・アル＝アサンム（彼女の甥）	大汚れの沐浴の仕方（『サヒーフ・ブハーリー』249）
ウンム・ハビーバ	約 65	ザイナブ・ビント・アビー・サラマ、アンバサ・ブン・アビー・スフヤーン（彼女の兄弟）	十二ラクアのラワーティブ（『サヒーフ・ムスリム』728）；服喪（『サヒーフ・ブハーリー』1280）
ザイナブ・ビント・ジャフシュ	約 11	ザイナブ・ビント・アビー・サラマ、ウンム・ハビーバ	終末の時代の災いについての警告（『サヒーフ・ブハーリー』3346）
サフィーヤ	約 10	アリー・ブン・アル＝フサイン（ザイン・アル＝アービディーン）	悪い疑いを招く場を避ける（『サヒーフ・ブハーリー』2035）
ジュワイリーヤ	約 7	イブン・アッバース、アブー・アイユーブ・アル＝マラーギー	夜明けの礼拝の後の唱念（『サヒーフ・ムスリム』2726）；金曜日の断食（『サヒーフ・ブハーリー』1986）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

上の数は、ザハビーが『高貴なる人々の伝記（スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー）』の中でバキー・ブン・マハラドから引用した概数で、異なる伝承経路による重複も含む。ウンム・サラマは、預言者 ﷺ の妻たちの中でアーイシャに次いで二番目に多くを伝えた人である。

ウンム・サラマ：恥じらわずに尋ねる

ウンム・サラマはかつて尋ねた：「アッラーの使徒よ、わたしは髪をきつく編んでいる女です。大汚れの沐浴のためにそれをほどかなければなりませんか。」使徒は答えられた：「いいえ。頭に三度水を注ぎ、それから全身に水を行き渡らせれば十分である。そうすればあなたは清められる」（『サヒーフ・ムスリム』330）。

尋ねるのが恥ずかしいと思われたかもしれないこの質問は、今日に至るまで何百万もの女性を楽にする規定となった。アーイシャご自身もこの姿勢を称えた：「最良の女性はアンサールの女性たちです。恥じらいが、彼女たちが宗教を深く学ぶことを妨げなかったのです」（『サヒーフ・ムスリム』332）。

ザイナブ・ビント・ジャフシュ：滅びについての警告

ザイナブによれば、アッラーの使徒 ﷺ が驚いた様子で眠りから覚め、「アッラーのほかに神はない！迫り来る災いのために、アラブに災いあれ」と言われた。ザイナブは尋ねた：「アッラーの使徒よ、わたしたちの中に善い人々がいるのに、わたしたちは滅ぼされるのですか。」使徒は答えられた：「そうだ。悪が多くなった時には」（『サヒーフ・ブハーリー』3346）。

ザイナブの質問はきわめて鋭く、使徒の答えは大切な原則となった：悪が放置されて蔓延するならば、善い人々がいるだけでは社会を救うのに十分ではない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：195 / 211

スィーラの注：ウンム・サラマの家で育ったハサン・アル＝バスリー

ハサン・アル＝バスリーの母ハイラは、ウンム・サラマのマウラー（解放奴隷）であった。歴史家たちは、ハサンがウンム・サラマの家で育ち、母が外出している時にはウンム・サラマが時に彼に乳を与えたと述べている。この話はイブン・サアドとザハビーが伝えている。

ハサンはのちに、後継世代（タービウーン）の中で最も学識が深く禁欲的な人の一人となった。マイムーナの家のイブン・アッバースと同じく、信徒の母たちの家は、このウンマの偉大な学者たちが生まれる場所となった。

参照：『サヒーフ・ムスリム』330；『サヒーフ・ムスリム』332；『サヒーフ・ブハーリー』3346；『サヒーフ・ムスリム』728；『サヒーフ・ブハーリー』249；ザハビー『高貴なる人々の伝記』；イブン・サアド『大列伝』。

教訓

災難の時の祈り、大汚れの沐浴の仕方、ラワーティブの礼拝、夜明けの礼拝の後の唱念、服喪の規定――これらはすべて、この第 2 部の母たちを通してわたしたちに届いた。わたしたちがそれを実践するたびに、役立てられる知識として報いが彼女たちに流れていく。

彼女たちはまた、知識を求める作法を教えている：作法を守りつつ臆せず尋ね、聞いたことを実践し、それを次の世代へ伝えることである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

確かめるべき有名な伝承（第 2 部）

第 1 部と同じく、この六人の信徒の母については、広く知られていながら、すべてが真正とは限らない話がある。下の表は、よく語られる伝承とその評価をまとめたものである。

伝承	評価	説明
アッラーの使徒 ﷺ が、まだザイドの妻であったザイナブをふと目にして心を惹かれた	根拠なし（バーティル）；学者たちが退けた	イブン・カスィール、イブン・ハジャル、イブン・アル＝アラビーが退けている。真正なのは『サヒーフ・ブハーリー』7420 である（第 10 章）。
「わたしに最も早く続くのは最も手の長い者である」——サウダを指す	伝承者の混同	『サヒーフ・ブハーリー』1420 の文言はサウダを指すように見えるが、イブン・ハジャルは、正しくは『サヒーフ・ムスリム』2452 にある通りザイナブであると説明している（第 12 章）。
「アッラーよ、これがわたしの所有するものにおけるわたしの分配です……」という祈り	弱い（むしろムルサル）	『スナン・アビー・ダーウード』2134；意味は正しい（第 34 章）。
ウンム・ハビーバが父から遠ざけるためにアッラーの使徒 ﷺ の敷物を畳んだ	スィーラの伝承	イブン・イスハークとイブン・サアド；真正なハディース集には見られない（第 18 章）。
娘の結婚を聞いたアブー・スフヤーンが、アッラーの使徒 ﷺ を称えた言葉	真正な伝承経路のないスィーラの伝承	イブン・サアド（第 33 章）。
月が膝に落ちる夢をサフィーヤが見て、夫に平手打ちされた	よく知られる；伝承経路は見解が分かれる	イブン・イスハークと一部のハディース書が伝える。受け入れる学者もいれば、弱いとする学者もいる。

伝承	評価	説明
アッラーの使徒 ﷺ がイフラームの状態でマイムーナと結婚された	見解が分かれる；大多数は退ける	『サヒーフ・ブハーリー』1837 対『サヒーフ・ムスリム』1411 とアブー・ラーフィウの伝承（第 24 章）。
マーリヤ・アル＝キブティーヤは解放され、妻として結婚した	よく知られていない見解	学者の大多数：彼女はウンム・ワラドであり、婚姻を結んだ妻ではない（第 27 章）。
ライハーナ・ビント・ザイドは使徒の妻であった	見解が分かれるもの	イブン・イスハーク：所有する女奴隷；イブン・サアド：解放されて妻となった（第 32 章）。
ウンム・サラマが最後に亡くなった妻である	よく知られた見解	ヒジュラ暦 61 年または 62 年に逝去；一部の歴史家はもっと早い年を挙げる（第 7 章）。

スィーラの注：なぜスィーラの伝承もなお取り上げるのか

イブン・イスハークの『スィーラ』やイブン・サアドの『タバカート』などのスィーラ書には、ハディース集には見られない歴史的な情報が含まれている。学者たちは、真正な伝承と矛盾せず、信条や法規定に関わらない限り、一般的な歴史の事柄についてスィーラの伝承を受け入れる。

そのため本書では、スィーラの伝承をその等級を明らかにしたうえで「スィーラの注」の枠に記し、読者が確かなことと、まだ論じられていることとを区別できるようにしている。

参照：イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』（ザカートの書、ハディース 1420；注釈の書、部族連合章 33:37）；イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』；『サヒーフ・ブハーリー』1420；『サヒーフ・ムスリム』2452；『スナン・アビー・ダーウード』2134。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：198 / 211

教訓

ハディース学者たちは、称賛するものであれ非難するものであれ、預言者 ﷺ の妻たちについての伝承を評価せずに放置することはなかった。彼らは一つひとつの伝承経路を公平に量った。だからわたしたちもまた公平でなければならない：アッラーの使徒 ﷺ の名誉を汚す捏造の伝承を受け入れず、また誰かを称えるために話を作り出すこともしない。

わたしたちの母たちの尊さは、クルアーンと真正なハディースによってすでに証明されている。それだけで十二分である。

よくある質問（第 2 部）

以下は、この第 2 部の六人の信徒の母について、そしてアッラーの使徒 ﷺ の家庭全般について、よく尋ねられる質問である。第 1 部についての質問には、第 32 巻の第 36 章で答えた。

1. アッラーの使徒 ﷺ の妻は何人だったのか？

よく知られた見解によれば、婚姻を結んで使徒とともに暮らした妻は十一人である。二人は使徒の存命中に亡くなり、九人は使徒が亡くなった時に存命であった（第 32 章）。

2. マーリヤ・アル＝キブティーヤは信徒の母に含まれるのか？

学者の大多数は、彼女はウンム・ワラドであって婚姻を結んだ妻ではないとし、そのため特別な称号としての「信徒の母たち」には含まれない。しかし、アッラーの使徒 ﷺ の息子イブラーヒームの母として尊ばれている（第 27 章）。

3. なぜアッラーの使徒 ﷺ はザイドの元妻と結婚されたのか？

アッラーが、養子を実子と同じとみなすジャーヒリーヤの規定を廃するために、それを命じられたからである。アッラーご自身が部族連合章 33:37 でその目的を述べておられる（第 9、10、33 章）。

4. 今日、養子を育ててもよいのか？

よい。それどころか、孤児や助けを必要とする子どもを養うことはきわめて尊い行いである。禁じられているのは、その子の血統を養父に変えることである。その子は実の父の名を受け継ぎ、アウラ（隠すべき部分）や交わりに関する規定は聖法に従う（部族連合章 33:5）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

5. アッラーの使徒 ﷺ はいつサフィーヤと同居されたのか？

イスティブラー（子宮が清浄であることを確かめる待機期間）が終わった後である。アナスによれば、使徒はサッド・アッ＝ラウハーに着き、サフィーヤが清浄になるまで待ってから、彼女と同居された（『サヒーフ・ブハーリー』4211）。聖法の規定は余すところなく守られた。

6. イフラームの状態で結婚することの規定は？

学者の大多数（マーリク派、シャーフィイー派、ハンバル派）は、イフラームの状態での婚姻契約は無効であるとする。使徒の「イフラームの状態にある者は、結婚してはならず、他人を結婚させてもならない」というお言葉に基づく（『サヒーフ・ムスリム』1409）。ハナフィー派は、マイムーナについてのイブン・アッバースの伝承に基づき、有効であるとする（第 24 章）。

7. 女性の服喪の期間はどれほどか？

夫以外の親族の死には三日間、夫を亡くした妻には四か月と十日である。ウンム・ハビーバのハディースに基づく（『サヒーフ・ブハーリー』1280；第 19 章）。

8. アッラーの使徒 ﷺ はすべての妻を等しく愛されたのか？

心の愛情は人間の手の及ぶものではなく、使徒はアーイシャをより愛された。しかし、順番、扶養、訪問、くじ引きなど、外面的なすべての事柄において公平であった（女性章 4:129；第 34 章）。

9. アッラーの使徒 ﷺ の妻の中で最後に亡くなったのは誰か？

よく知られた見解によれば、ウンム・サラマで、ヒジュラ暦 61 年または 62 年、80 歳を超えての逝去であった（第 7 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

10. 信徒の母たちはどこに葬られているのか？

全員がマディーナのバキーウに葬られている。ただし、ハディージャはマッカのハジューンに、マイムーナはサリフに葬られている（第 32 章）。

11. 女性は恥ずかしいと感じる宗教上の質問をしてもよいのか？

よい。それどころか称賛される。ウンム・サラマは髪を編んだ女性の大汚れの沐浴について尋ね、アーイシャは、恥じらいが宗教を深く学ぶ妨げにならなかったアンサールの女性たちを称えた（『サヒーフ・ムスリム』332；第 35 章）。

12. このシリーズの後に何を読めばよいか？

『預言者伝（スィーラ）』シリーズは本書で完結する。アッラーの使徒 ﷺ の生涯は、使徒の特徴、人柄、日々の習慣を詳しく述べたシリーズ『アッラーの使徒の御姿（シャマーイル・ラスールッラー） ﷺ 』を通して、さらに身近に知ることができる。

教訓

この章のすべての答えは一つの原則に帰る：アッラーの使徒 ﷺ の家庭は、啓示と公平と慈悲の上に築かれていた。この原則を理解すれば、多くの疑問はおのずから解ける。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

この第 2 部によって、**十一人の信徒の母**の物語が完結した。一人ひとりに、それぞれの特別な美点と教訓がある：

信徒の母	主な教訓
ハディージャ	初期の信仰と犠牲；アッラーからの挨拶
サウダ	気前のよい心；来世を優先する
アーイシャ	知識；クルアーンによって潔白が証された
ハフサ	崇拝；クルアーンの写本の守り手
ザイナブ・ビント・フザイマ	「貧しい者たちの母」
ウンム・サラマ	災難の時の祈り；フダイビヤでの賢明な助言
ザイナブ・ビント・ジャフシュ	アッラーの定めに従う；「最も手の長い者」
ジュワイリーヤ	一族への祝福；より重い唱念
ウンム・ハビーバ	異国の地で揺るがず；ラワーティブの礼拝を欠かさない
サフィーヤ	「預言者の娘」；イスラームは人種差別を廃する
マイムーナ	清めの法学を教えた人；イブン・アッバースが学んだ家

わたしたちへの教え

わたしたちの母たちは、異なる境遇から来た——富める者と貧しい者、クライシュとクライシュ以外、アラブとイスラエルの子孫の家系、未亡人と処女——しかし彼女たちは**信仰によって一つにされた**。これこそイスラームの美しさである：尊さは家柄で量られるのではなく、**主を畏れる心と行い**で量られる。アッラーが彼女たち全員

にご満悦であられますように。そしてわたしたちを、天国で彼女たちとともに集めてくださいますように。

本巻をもって、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは完結する。アルハムドゥリッラー（アッラーに讃えあれ）。インシャーアッラー、アッラーの使徒 ﷺ とともに歩むわたしたちの旅は、新しいシリーズ『**シャマーイル・ラスールッラー（アッラーの使徒の御姿）** ﷺ 』へと続く。それはイマーム・ティルミズィーの『**アッ＝シャマーイル・アル＝ムハンマディーヤ**』の章立てに沿ったものである。アッラーこそが最もよくご存じである。

第 1 巻から第 32B 巻までこの旅をともにしてくださったすべての読者――アッラーの使徒 ﷺ のご誕生から、使徒が至高の友のもとへ帰られるまで、そして使徒の遺産を受け継いだ信徒の母たちに至るまで――に、筆者は限りない感謝を申し上げる。このシリーズにある善きものはすべてアッラーから来たものであり、至らない点はすべて筆者自身の弱さによるものである。どうかお許しいただき、誤りがあればご指摘くださるようお願いしたい。

アッラーよ、このささやかな行いをお受け入れください。これを役立つ知識とし、筆者とその家族、そしてこれを読み広めるすべての人のための継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてください。あなたの預言者ムハンマド ﷺ への愛、使徒のご家族と妻たちへの愛、そして使徒の教友たちへの愛を、わたしたちの心に植えつけてください。わたしたちをあなたの天国で彼らとともに集め、あなたの預言者の池から、その尊いお手によって、決して渇くことのない一杯をわたしたちに飲ませてください。アーミーン、諸世界の主よ。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 32B 巻の参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:156；悔悟章 9:24；部族連合章 33:5、33:34–40、33:53）。https://tafsir.app/ibn-katheer/33/37

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』183、249、333、1043、1280、1303、1382、1837、1986、2035、2541、2731、3369、3634、3673、4211、4750、4782、4791、4792、5086、5168、5376、7420。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』728、918、920、1409、1411、2140、2442、2452、2726。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』3522、3749、3894；『スナン・アビー・ダーウード』2107、3931；『スナン・ナサーイー』3254；アル＝ハーキム『アル＝ムスタドラク』。https://sunnah.com

スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）――アッラーの使徒 ﷺ の結婚とその妻たちの章。

イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』第 8 巻（女性の伝記）；ザハビー『高貴なる人々の伝記（スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー）』。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』と『教友識別の書（アル＝イサーバ）』；イブン・アル＝カイイム『来世の糧（ザード・アル＝マアード）』。

サフィユッラフマーン・ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』――預言者 ﷺ の家庭の章。

一般の歴史

ウィキペディア「Mothers of the Believers」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mothers_of_the_Believers

Wikipedia「Umm Salama」。https://en.wikipedia.org/wiki/Umm_Salama

Wikipedia「Zaynab bint Jahsh」。https://en.wikipedia.org/wiki/Zaynab_bint_Jahsh

Wikipedia「Juwayriyya bint al-Harith」。https://en.wikipedia.org/wiki/Juwayriyya_bint_al-Harith

Wikipedia「Ramla bint Abi Sufyan」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ramla_bint_Abi_Sufyan

Wikipedia「Safiyya bint Huyayy」。https://en.wikipedia.org/wiki/Safiyya_bint_Huyayy

Wikipedia「Maymuna bint al-Harith」。https://en.wikipedia.org/wiki/Maymuna_bint_al-Harith

Wikipedia「Maria al-Qibtiyya」。https://en.wikipedia.org/wiki/Maria_al-Qibtiyya

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』5212（サウダが順番をアーイシャに譲る）。https://sunnah.com/bukhari:5212

『サヒーフ・ブハーリー』5216（アスルの後に妻たちを訪ねる）。https://sunnah.com/bukhari:5216

『サヒーフ・ブハーリー』2593（旅の際のくじ引き）。https://sunnah.com/bukhari:2593

『サヒーフ・ブハーリー』4450（「明日はわたしはどこか」）。https://sunnah.com/bukhari:4450

『スナン・アビー・ダーウード』2133（公平でない夫への警告）。https://sunnah.com/abudawud:2133

『スナン・アビー・ダーウード』2134（分配の祈り——弱い）。https://sunnah.com/abudawud:2134

『サヒーフ・ムスリム』330（大汚れの沐浴についてのウンム・サラマの質問）。https://sunnah.com/muslim:330a

『サヒーフ・ムスリム』332（アンサールの女性たちへの称賛）。https://sunnah.com/muslim:332a

『サヒーフ・ブハーリー』3346（ザイナブ・ビント・ジャフシュの質問）。https://sunnah.com/bukhari:3346

『サヒーフ・ブハーリー』1420（最も手の長い者）。https://sunnah.com/bukhari:1420

『サヒーフ・ムスリム』1409（イフラーム中の結婚の禁止）。https://sunnah.com/muslim:1409a

支援と寄付

この電子書籍は、ムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売されるものではありません。**研究、ウェブサイト quranscience.my の運営、今後の電子書籍の出版の費用のためのご寄付を心より歓迎いたします。ただし寄付は**義務ではありません。**アッラーがすべてのご寄付を、絶えることのない施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば，ちょうど 1 粒が 7 穂を付け，1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に，倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

日本語訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。「本当にわたしの主は，そのしもべの中から御心に適う者に，御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。」

日本語訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。アッラーは、赦す僕に尊厳しか増し加えられない。そして、アッラーのためにへりくだる者は誰であれ、アッラーがその位を高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・礼儀の書（キターブ・ル＝ビッル・ワ・ッ＝スィラ・ワ・ル＝アダブ）、赦しと謙虚さの奨励の章、ハディース第 2588 番。

判定： サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは途絶える。ただし三つを除いて。絶えることのない施し、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書（キターブ・ル＝ワスィーヤ）、死後に人に届く報いの章、ハディース第 1631 番。

判定： サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：https://sunnah.com/muslim:1631

Jazakumullahu Khairan Kathira



上の QR コード（DuitNow、マレーシア）を読み取ってご寄付ください。

海外からのご寄付：上の PayPal QR コードを読み取るかクリックするか、次をご覧ください
paypal.me/quranscience

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |